

事業の概要

1 趣 旨

テレビ会議システムなどの情報通信ネットワークを用いて、子どもたちが総合教育センターなどの指導主事等とリアルタイムに対話しながら学習を進めたり、学校間で交流したりするなどして、子どもたちの学習意欲や知的好奇心・探究心を引き出すとともに、個に応じた多様な学習活動を展開し、「分かる授業」「楽しい授業」の実現に資する。

また、テレビ会議システムの活用により教員間や総合教育センターの指導主事と指導技術等についてリアルタイムに情報を交換し、よりよい授業の実現に資する。

2 事業の実施期間

平成15年4月1日から平成18年3月31日の3年間とする。

3 事業の概要

(1) 研究実践の内容について

総合教育センターを中心として公立小・中学校7校を高速回線で接続するネットワークにおいて、テレビ会議システムによる総合教育センターの人材や教育資源の活用及び遠隔授業の実施とこれを用いた指導方法に係る研究を行う。

より「分かる授業」「楽しい授業」の実現に係る研究

学校の枠を越えたリアルタイムな教員間の連携による質の高い授業の実現に係る研究

リアルタイムな学校間交流による特色ある教育活動の実現に係る研究

保護者や地域の人々がITを学び、活用する場の実現に係る研究

(2) 事業推進校（以下、インターネット授業推進校とする）について

インターネット授業推進校の指定について

次の7校をインターネット授業推進校として県教育委員会が指定する。

- | | |
|--------------|--------------|
| ・ 鹿角市立十和田小学校 | ・ 本荘市立鶴舞小学校 |
| ・ 大曲市立東大曲小学校 | ・ 横手市立栄小学校 |
| ・ 能代市立東雲中学校 | ・ 男鹿市立男鹿南中学校 |
| ・ 湯沢市立湯沢南中学校 | |

事業の実施に伴い整備される設備等

- ・ テレビ会議システム一式を整備する。
- ・ 教室、特別教室等で使用できるようにするための屋内配線を整備する。
- ・ 整備に係る経費を県が助成する。

その他

- ・ 回線使用料は市町村が負担する。

(3) 総合教育センターについて

総合教育センター内にインターネット授業推進室の設置

構成は室長1名，指導主事1名，研修員2名とする。

事業の実施に伴い整備される設備等

- ・ 総合教育センター内に，本事業に係る執務室及びスタジオを設置する。
- ・ テレビ会議システム一式（2台）を整備する。
- ・ 各教科研修室及び実習室等で使用できるようにするための屋内配線を整備する。

インターネットTV授業推進室の業務内容

ア インターネット授業推進校への指導及び支援

- ・ 総合教育センターと学校との連絡調整及び指導・支援をする。
- ・ 学校間の遠隔授業の連絡調整及び指導・支援をする。
- ・ 学校間の交流学习，共同学習の指導・支援をする。
- ・ 推進会議を実施する。

イ 県内すべての小・中学校への支援

- ・ 各研修部と連携して指導方法の改善に資するビデオ番組を制作し提供する。
- ・ 「教材」としての教育用コンテンツを整備する。

4 推進会議について

- (1) 研究を進める上で必要な事項について協議し，事業を円滑に推進するため，県教育委員会・総合教育センターの教職員，指定校の教職員，情報通信技術者等で構成する「インターネット授業推進会議」を設置する。
- (2) 推進会議の設置要綱は別に定める。
- (3) 事務局は総合教育センターインターネット授業推進室に置くものとする。

5 スケジュール

平成15年4月1日	インターネット授業推進室開室
平成15年5月8日	第1回推進会議（事業の趣旨説明，交流計画に係る協議など）
平成15年5月中旬	機器導入業者決定
平成15年6月10日	第2回推進会議（交流計画の立案，機材の導入についてなど）
平成15年7月上旬	機器導入完了
平成15年8月21日	第3回推進会議（交流計画やオープニングセレモニーに係る協議など）
平成15年9月9日	オープニングセレモニー
平成16年2月24日	第4回推進会議（事業の成果と課題，次年度の計画など）
平成16年度～平成17年度	研究実践の推進
平成16年4月20日	第5回推進会議（年間の事業計画等に係る協議など）
平成16年6月3日	第6回推進会議（交流，共同学習についての協議，授業研修など）
平成16年10月15日	第7回推進会議（事業の改善・充実についての協議，授業研修など）
平成17年2月17日	第8回推進会議（事業の成果と課題，次年度の計画）

* ただし，期日については，変更の可能性がある。

6 インターネット授業推進室の統合に伴う業務の移行について

平成16年4月1日よりインターネット授業推進室の総合教育センター教科研修班への統合に伴い，インターネット授業推進室のすべての業務は同班に移行する。

研究計画

- 1 研究主題
「ＴＶ会議システムの有効利用に関する研究」
- 2 研究の期間
平成15年４月１日から平成18年３月31日までの３年間
- 3 研究内容
総合教育センターを中心として公立小・中学校７校を高速回線で接続するネットワークにおいて、テレビ会議システムによる総合教育センターの人材や教育資源の活用及び遠隔授業の実施とこれを用いた指導方法に係る研究を行う。
 (1) より「分かる授業」「楽しい授業」の実現に係る研究
 (2) 学校の枠を越えたりリアルタイムな教員間の連携による質の高い授業の実現に係る研究
 (3) リアルタイムな学校間交流による特色ある教育活動の実現に係る研究
 (4) 保護者や地域の人々がＩＴを学び、活用する場の実現に係る研究
 (5) 教材または指導方法改善としての教育用コンテンツの作成に係る研究
- 4 研究計画

年 次	研 究 内 容
第１年次 (平成15年度)	・研究組織の確立 ・研究計画の立案 ・ＴＶ会議システムの利用に関する基礎的研修 ・遠隔授業、交流等の計画立案 ・遠隔授業、交流等の実施と記録 ・学校外の教員との連携による授業の在り方を重点に研究 ・第１年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案
第２年次 (平成16年度)	・研究組織の確認 ・遠隔授業、交流等の計画立案 ・遠隔授業、交流等の実施と記録 ・児童生徒同士の学校間交流の在り方を重点に研究 ・第２年次の成果と課題のまとめ、次年度の研究計画の立案
第３年次 (平成17年度)	・研究組織の確認 ・遠隔授業、交流等の計画立案 ・遠隔授業、交流等の実施と記録 ・保護者や地域の人々の活用の在り方や教育用コンテンツの作成を重点に研究 ・３年間の研究実践のまとめと紀要の作成

5 推進校における研究

学校名	研究主題
鹿角市立十和田小学校	「インターネットＴＶ授業」を活用した、楽しくて分かる授業の実現
本荘市立鶴舞小学校	よりよい自分を求めて、自ら学び高め合う子供の育成
大曲市立東大曲小学校	ＴＶ会議システムの効果的な活用をめざして ～ 古四王キッズに、教師に、地域に ～
横手市立栄小学校	児童の学習意欲・知的好奇心・探求心を高めるためのＴＶ会議システムの有効利用について
能代市立東雲中学校	確かな学力の向上を図るＴＶ会議システムの活用の在り方
男鹿市立男鹿南中学校	豊かな学びの創造をめざしたＴＶ会議システムの活用
湯沢市立湯沢南中学校	ＴＶ会議システムの有効活用をめざした授業に関する研究 ～ 意欲を持って自ら学び続ける生徒を育てるために～

事業の実際

1 TV会議システムの利用回数

(1) 指導主事が支援する授業

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	特別支援教育	合計
回数															
平成15年度	22	7	24	57	3	10	9	14	8	6	0	7	15	4	186
平成16年度	42	10	25	75	7	9	15	16	20	16	1	11	10	8	265

(2) 交流・共同学習

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	特別支援教育	合計
回数															
平成15年度	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	6	0	14
平成16年度	11	6	0	3	5	2	0	3	1	0	1	6	4	4	46

回数は、(1)の再掲です。

(3) 相談や研修などの情報交換

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	情報教育	生徒指導	特別支援教育	その他	合計
回数																		
平成15年度	21	6	16	34	3	10	5	9	11	6	0	2	12	1	1	6	4	147
平成16年度	35	5	25	53	3	12	14	15	7	7	6	16	10	1	0	6	26	241

2 TV会議システムの利用に係る各推進校の実践報告

(1) 鹿角市立十和田小学校

1 学校名 鹿角市立十和田小学校

2 研究主題 「インターネットTV授業を活用した、楽しくて分かる授業の実現」

3 平成16年度の利用の概要

(1) 指導主事等が支援する授業

月	学年	教科等名	授業内容と指導主事の支援内容
6	5年	理科	・「植物の成長と発芽」 植物の発芽と成長・発芽した豆の電子顕微鏡写真を提示する。 条件制御の方法についてグループに助言をする。
	3年	音楽	・「きれいな音で」 リコーダーを吹く様子を見てのアドバイスをする。
	6年	家庭	・「衣服を気持ちよく」 衣服の着方の発表に対する感想を述べたり、助言をしたりする。
	2年	図画工作	・「こんなことしたよ」 児童の作品のよいところを見付け、アドバイスをする。
	4年	体育	・「育ちゆく体とわたし」 バランスのとれた食事・休養・睡眠に関する話をする。
7	2年	体育	・「マット遊び」 跳び箱運動の場の設定の仕方や回り方についてのアドバイスを する。
	3年	理科	・「こん虫の食べ物とすみかをしらべよう」 児童の発表に対する感想を言ったり助言したりする。 様々な昆虫を紹介する。
	5年	図画工作	・「リサイクルパラダイス」 児童の作品のよいところや改善点について助言をする。接着方 法や材料選びなどで困った場合に相談にのる。
9	4年	理科	・「月と星」 発展学習のコース別学習において、天体望遠鏡コースを担当す る。天体望遠鏡写真を紹介する。
	5年	国語	・「体験したことをわかりやすく伝えよう」 児童のスピーチ原稿へ助言をする。
	2年	算数	・「ひっ算のしかたを考えよう」 筆算のコース別学習において博士コースを担当する。パソコン で数カードの動かし方を提示する。
10	2年	音楽	・「虫の声」 「虫の声」になりきって歌えているかアドバイスをする。
	6年	体育	・「たばこの害」 たばこの害について実験を交えた説明をする。

11	2 年	算数	・「九九をつくろう」 7のだんの九九の作り方について，児童が作った方法と別の方法をパワーポイントを使って紹介する。
	5 年	算数	・「面積の求め方を考えよう」 興味・関心別コース別学習における台形コースの指導を担当する。
	1 年	図画工作	・「版画遊び」 ローラーなどを使った版画の技法を紹介する。
	6 年	家庭	・「楽しい食事を工夫しよう」 児童が作った朝食メニューを見て，栄養バランスや作る手順についてアドバイスをする。
	3 年	体育	・「前転と後転」 体育館にTV会議システムを設置しての技のポイントを説明する。マット遊びの技のポイントを個別指導する。
1	3 年	算数	・「重さをはかろう」 グラム単位について説明する。
2	5 年	算数	・「百分率とグラフ」 Cグループ（発展問題コース）を担当し，問題の提示解決へのアドバイスをする。

(2) 学校間における交流，共同学習

月	学年	相手校名	教科等名	交流・共同学習の内容
9	6 年	東大曲小	特別活動	・「夏休みの思い出」 夏休みに体験したことを（作品発表を含めて）紹介し，感想を述べ合う。
	1 年	鶴舞小	国語	・「わたしはだれでしょう」 はっきりとした声で話し，当ててほしいものの特徴を聞き手にわかりやすく説明し，答えを当ててもらう。
	特別支援学級	東大曲小	特別活動	・「おともだちになろう」 自己紹介，歌の交換，ジェスチャーゲームを楽しむ。 前回決めた「なかよしペア」によるゲームやお話の交流を楽しむ。
12	3 年	東大曲小	社会	・「わたしたちの鹿角市・大曲市紹介」 お互いの市の特徴を発表し合い，相手の町のよさを発見したり，自分たちの町のよさを再発見したりする。
	4 年	鶴舞小	社会	・「わたしたちの秋田県」 海沿いの市と山沿いの市の様子の違いに気付かせる。調べたことを相手にわかりやすく伝えるために，提示する資料の中身を吟味したり，発表の仕方を鍛えたりすることにより表現力を育てる。
	5 年	鶴舞小	国語	・「インタビュー名人になろう」 相手意識をもってインタビューすることにより，国語の「話す・聞く」ことにおけるコミュニケーション能力向上の一助とする。
	6 年	東大曲小	総合的な学習の時間	・「ぼくたちわたしたちの十和田の歴史と文化を求めて」 自分たちが調べたことを相手に伝えるよう，資料をまとめたり，発表したりできる。

1	4 年	栄小	音楽	・「つるのおんがえし」 相手校に自分たちの工夫をした演奏を聴いて もらい相互に意見交換をする。
2	2 年	東大曲小	国語	・「ことばあそび大会」 お互いにいろいろな言葉遊びを紹介し合い、 楽しみながら、言葉への興味・関心、理解を深 める。
	3 年	鶴舞小	国語	・「標識と言葉」「調べたことを発表しよう」 標識について調べたことを発表し合う。

(3) 指導主事等への相談

・今年度は実施なし

(4) その他

月	内 容
6	・平成16年度 十和田中学校区研修会 指導主事による講話「望ましい小・中連携のあり方について」
1	・平成16年度 鹿角音楽科授業研究会 鹿角音楽科授業研究会員が、4 年音楽科の交流学习を参観する。

4 平成16年度の研究成果と課題

A 指導主事が支援するTV授業の成果と課題

(1) 成果

全校児童に対するアンケート調査集計結果から～12月実施～

項 目	低 学 年	中 学 年	高 学 年
総合教育センターの先生が参加するインターネットTV授業は楽しいですか。	・そう思う 96%	・そう思う 95%	・そう思う 93%
	・そうは思わない 4%	・そうは思わない 5%	・そうは思わない 7%
総合教育センターの先生の説明やアドバイスはわかりやすく役に立ちますか。	・そう思う 96%	・そう思う 97%	・そう思う 94%
	・そうは思わない 4%	・そうは思わない 3%	・そうは思わない 6%

〔児童の声・・・アンケートの自由記述欄から抜粋〕

- ・図画工作の「ころころぺったん」の先生の教え方がわかりやすかったです。
- ・4年生の時の国語のテレビ授業のことが今も印象に残っています。「一つの花」の戦争のお話が忘れられません。
- ・図画工作で「リサイクルパラダイス」をやったとき、センターの先生のアドバイスのおかげでうまく作ることができました。とても感謝しています。
- ・算数で、わかりやすいヒントをもらいました。
- ・前転や後転をTVの画面で実際にやってくれたので、わかりやすかった。
- ・かけ算の勉強の時、センターの先生の話がとても楽しく役に立ちました。とてもやさしく説明してくれました。
- ・自分でかけ算を工夫して考えるときに、 2×5 、 7×5 と分けて考える考え方が役に立ちました。コンピュータの説明がわかりやすかった。
- ・スピーチの勉強で、直した方がいいところを教えてもらったので、役に立ちました。
- ・理科の星のことを教えてもらったので、星について興味をもちました。先生がもう一人近くにいるような気がしました。
- ・たばこを吸うと、どれくらい肺がよごれるのか、よくわかりました。

- T Tの一員として、様々なコースにおいて指導を受け、助かった。理科での実験提示、算数科における個別指導、国語科の作文指導、体育科のマット運動における技のポイントアドバイス、図画工作の適切なアドバイスは、とても効果的だった。「習熟度別学習の一つのコースとして」、「ワンポイントで」、「個別に」という言葉が、これからの活用におけるキーワードになると思う。
 - 放課後のT V会議による打ち合わせでは、教材解釈や授業の組み立てなど、たくさんの方の指導助言があり、先生方の教材研究に役立っている。授業者と一緒に、一つの授業を作りあげる親身な協力ありがたい。
 - 見通しをもって活用できるように、来年度の年間指導計画の中に、インターネットT V授業を行う単元を明示することにした。
- (2) 課題
- 授業や学級活動における活用を通して、相手にわかりやすいように話したり、プレゼンテーションしたりする力をさらに育てたい。
 - 機器操作のより一層の習得を目指したい。再度、校内機器操作講習会を開きたい。

B 他校との交流・共同学習の成果と課題

児童に対するアンケートの集計結果(12月)

「テレビ授業でほかの学校の友だちといっしょに学習するのは楽しいですか？」
(交流実施学級の児童分のみ集計)

- ・ そう思う・・・90%
- ・ そうは思わない・・・10%

そうは思わない理由の主なもの

- ・ テレビじゃなくて実際に会ってみたい。
- ・ 長い時間、他の学校の発表を聞いていると飽きてしまう。
- ・ 相手ともっと話がしたい。

(1) 成果

- ふだん接している相手に対する話す活動とは違い、相手に向けて緊張感をもって話すことができるとともに、相手を知るために話を真剣に受け入れて聞くことができる点が良い。特に、普段の友達との会話とは全く違うので、ある程度公的な場のような雰囲気をもって、敬体「です・ます」で話すことができた。
- 互いの地域の特色を生かした内容を取り入れて交流を進めることができた。相手に自分たちの地域について伝える活動を通して、自分たちの地域のよさに改めて気が付くことができた。
- インタビュー学習において、目的や相手意識が高まり、計画段階、交流当日の意欲的な学習につながった。また、相手校のインタビュアーの話し方がねらいにかなっていたので、次時からのインタビューの参考にすることができた。とてもよい刺激を受けた。
- 自分たちの地域以外の人に聞いてもらうということを意識し、わかりやすく発表しようという意欲が高まった。

(2) 課題

- 初めて会っていきなり交流し合うというのは、児童に緊張を与えた。親しげな雰囲気でも学習できるようにするには、事前に交流し合う機会をもつことが必要だと思う。
- 自分たちが発表する活動と、他校の発表を聞く活動の単純な繰り返しでは、今後行き詰まるような気がする。少人数での意見交換などを学習活動に取り入れた方が双方のメリットが生きてくるような気がする。
- 当初、交流計画を立てたが、お互いの教科の進捗がかみ合わずに断念した内容もあった。もっと前から打ち合わせを行い、見通しをもって進める必要性を感じた。

5 平成17年度の研究計画の概要

(1) 指導主事等が支援する授業

- ・「楽しい」という感想から、もう一步進歩して、「自分にとって役に立った」という感想が多く聞かれるような活用の仕方をさらに工夫したい。
(コース別学習における活用の工夫, Plan・Do・Seeにかかわる一連の活動への支援)

(2) 学校間における交流・共同学習

- ・活発に話し合いができる学習の場の設定を工夫したい。
(共通点と相違点についての話し合い, 共同体験した後の意見交換)

(3) 保護者や地域の人々の活用

- ・PTA活動についての各校PTA役員同士の交流会・・・組織・特色のある活動等
- ・食についての交流(漬け物, 郷土料理など)
- ・地域における伝統芸能の保存活動についての意見交換会
- ・地域の中で児童が中心的な役割を担って活動している事例の紹介
- ・地域における児童生徒の安全確保についての意見交換会

(2) 本荘市立鶴舞小学校

1 学校名 本荘市立鶴舞小学校

2 研究主題 「よりよい自分を求めて、自ら学び高め合う子どもの育成～伝え合う場の充実を目指して～」

3 平成16年度の研究の概要

(1) 指導主事等が支援する授業

月	学年	教科等名	授業内容と指導主事の支援内容
5	2	保健体育	・先生や友達の動きをまねながら、音楽に合わせて楽しく踊る。 動きをほめたり助言したりする。
6	3	国語	・名前を付ける話し合いを通して、意見の相違点を考えながら話し合う力を付ける。 話し合いの仕方を助言する。
	4	総合的な学習の時間	・子吉川についての自分の課題を追究する。 効果的な追究方法を助言する。
	5	理科	・魚や人の生命の始まりについて、子どもが育つ様子を調べる計画を立てる。 興味・関心や追究意欲を高める映像資料を提示する。
	6	理科	・血液の流れとその働きがわかる。 血液の流れの映像などを提示したり、疑問に答えたりする。
7	3	国語	・本の帯づくりをする。 いろいろな国や地域の民話を紹介をする。
	5	国語	・漢字の成り立ちについての知識を身に付ける。 漢字の成り立ちに関するクイズを出す。
	6	総合的な学習の時間	・設定した地球の環境問題等の課題を解決する活動を行う。 追究の過程で生じた地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、森林破壊等に関する疑問に答える。
9	2	図画工作	・想像した生き物をペットボトルを使って創作する。 素材の活用の仕方や制作の仕方などの相談にのる。
	4	理科	・星座は時刻によって位置は変わるが、並び方は変わらないことを理解する。 コンピュータで星の動きを提示する。
	5	理科	・台風の進路と天気の変化の関係について調べる。 気象衛星の写真や台風のVTR等を提示する。
	6	総合的な学習の時間	・自分のふるさとの環境問題を調べる。 追究方法などを助言する。
10	3	国語	・「ちいちゃんのかげおくり」の音読を発表する。 映像などを交えながら平和の尊さについて話をする。
	4	国語	・「1/2成人式」に向けて、自分の思いをわかりやすく話す練習をする。 スピーチの仕方などを助言する。
	5	国語	・方言に対して興味や関心をもつとともに様々な方言について調べる。 方言をいくつか紹介する。
	6	理科	・大地のつくりとその変化についてまとめる。 大地のつくりとその変化についての写真資料やVTR等を提示する。

11	3	体育	・健康のために生活リズムの大切さを理解する。 体内時計や生活のリズムについての話をする。
	2	図画工作	・話を読んで想像したことを絵に表現する。 児童の想像を広げることができるように助言をする。
	6	特別活動	・火災の際の安全な避難の仕方を理解する。 写真資料やVTRなどを使用して、火災の危険性や安全な避難の仕方などについての専門的な話をする。
		算数	・比例の性質を利用した問題を各コースに分かれて解く。 生活応用コースで難易度の高い問題を提示する。
12	1	生活	・「家の名人発表会」の発表練習をする。 よい点を賞揚し、工夫できる点などを助言する。
	2	算数	・かけ算を利用した文章問題に取り組み、その後、コース別に問題を解く。 発展コースで理解の早い児童に対応する。
	6	体育	・薬物の害を理解し、薬物から身を守るための対処法を考える。 薬物についての視覚に訴える映像資料を提示する。
1	2	算数	・平面図形に親しみながら、三角形や四角形への理解を深める。 理解の早い児童を支援する。
	3	算数	・重さの単位や目盛りの読み方などの習熟を図る。 T Tの一人として、発展コースへ対応する。
	4	算数	・複合図形の面積の求め方を理解する。 数多く問題を解いた児童へ発展問題を提示し、解答を確認する。
	5	理科	・塩と小麦粉を水に溶かす実験をし、もののとけ方に興味をもつ。 もののとけ方に関する映像を提示する。
	6	社会	・日本とつながりが深い国々を調べる。 調べる中で生じた疑問等の質問に答える。
	2	国語	・「ことば遊び大会」に対して学習意欲を高める。 ことばに関するクイズを出す。
	3	国語	・標識に興味をもち、単元の学習計画を立てる。 興味・関心をもたせる標識クイズを出す。
	4	算数	・面積の求め方の習熟を図るためコース別学習を行う。 理解が十分な児童に難易度の高い問題を提示し、解答を確認する。
	5	算数	・円の問題の習熟を図るためコース別学習を行う。 理解が十分な児童に難易度の高い問題を提示し、解答を確認する。
	3	算数	・コース別で問題を解き、小学校の学習内容の習熟と関心・意欲の高めめる。 一つのコースを担当し、学習を支援する。

(2) 学校間における交流・共同学習

月	学年	相手校名	教科等名	交流，共同学習の内容
6	1	十和田小	生活	・学校探検をして見付けたことや気付いたことをお互いに紹介し合う。
	2	栄小	生活	・相手校の学校の周りの様子を紹介してもらい、活動への意欲を高める。

9	1	十和田小	国語	・「わたしはなんでしょう。」のクイズを通して相手意識をもって話したり聞いたりする。
		東大曲小	特別活動	・自分たちの学校紹介をしたり，ゲームをしたりしながら交流を深める。
	3	東大曲小	体育	・身近な生活や空想の世界から題材を見付け，特徴をとらえて表現したり踊ったりする。
10	1	十和田小 栄小	生活	・秋の公園で遊んだことや秋の素材を活用した遊びを紹介し合い，お互いのアイデアを次の学習に生かす。
	2	栄小	生活	・町探検で見付けたことや体験したことなどを紹介し合い，関心を高める。
11	5	栄小	理科	・上流，中流，下流の映像や観察結果を発表し合い，流れる水の働きについて理解を深める。
12	4	十和田小 栄小	社会	・各市の特徴について調べたことを発表し合い，秋田県の特徴をまとめる。
	5	十和田小	国語	・お互いの計画にしたがってインタビューをし，相手や目的に応じて適切に話す。
2	1	栄小	国語	・「わたしのたからもの」について，発表会を行う。
	2	栄小	国語	・「ことばあそび大会」に興味をもち，ことば遊び大会楽しみながら言語能力を養う。
	3	十和田小 栄小	国語	・標識について調べたことをお互いに発表し合う。

(3) 指導主事等への相談

月	学年	分野	相談内容
7	2	教科指導	・生活科で，学校周辺を探検する際のめあてのめたせ方，指導のポイントを相談する。
11	1	教科指導	・国語科の読書単元の指導方法について相談をし，実際に授業を提示して，指導助言を受ける。
	2	教科指導	・図画工作科「お話の絵を描こう」の教材研究とＴＶ授業の打ち合わせを行う。
1	1	教科指導	・国語科「わたしのたからもの」の指導計画や学習過程などについて助言を受ける。

(4) その他

ＴＶ授業実践研修会の開催（８月と１月）

１学期と２学期の実践をレポート形式にまとめ，効果的な活用法について協議した。

各種訪問での活用・紹介

秋田県教育委員訪問や岩手県久慈教育事務所指導主事訪問の際に，ＴＶ授業を提示した。

4 平成16年度の研究成果と課題

(1) 成果

- 学年ごとに月１回利用することで，利用方法を様々工夫して行えるようになり，慣れるにしたがって効果的な活用ができるようになってきた。
- 指導主事が入ることで専門的な話が聞けたり，児童の意欲が高まったりした。指導主事をＴＴの一人として考えて授業を組んだことが有効であった。
- 交流・共同学習では，本校の研究テーマである「伝え合い」を意識することができた。また，回を重ねるごとに児童は意欲的になり，はきはきとした受け答えができるようになった。
- 画像や映像等を活用した交流は，児童の意欲や問題意識を高めることに役立った。
- ＴＶ授業の打ち合わせで教材研究が深まった。

(2) 課題

- 単発的な授業もまだ多くあり，効果的な活用ができない授業もあった。さらに，ＴＶ会議システムの特性を生かした授業を研究していきたい。そのため略案の中に，「このような特性を生かして授業をしたい。」という記述を入れたい。
- 交流・共同学習では，相手校の児童の実態や授業者の指導観などに違いが見られたり，進度調整が難しかったりすることもあった。
- 交流・共同学習の際，図表や写真などの提示に不慣れで，相手によく見えないときがあった。映像の提示の仕方について情報交換や研修などがあればよい。

5 平成17年度の研究計画の概要

(1) 授業での効果的な活用

教材研究（打ち合わせ）の充実～単元全体を見通した活用

ＴＶ会議システムの特性を生かした活用

- ・ 映像の提供
- ・ センター指導主事の専門性の活用（ＴＴとしての活用も）

共同授業の推進

- ・ 伝え合いの充実（双方向的な活用）
- ・ 問題解決的な学習への取り組み

授業研究会の実施

(2) 学校行事等での活用の模索

児童会交流～学校紹介，学校・学年集会の実施

ＰＴＡ行事等での活用

- ・ ＰＴＡ活動の交流や座談会の実施
- ・ 講演会や協議会の実施
- ・ ＰＴＡ研修会での活用

(3) 大曲市立東大曲小学校

1 学校名 大曲市立東大曲小学校

2 研究主題 「ＴＶ会議システムの効果的な活用をめざして」
～コミュニケーションする喜び～

3 平成16年度の研究の概要

(1) 指導主事等が支援する授業

月	学年	教科等名	授業内容と指導主事の支援内容
6	6	理科	・「動物のからだのはたらき」 血液循環の様子や心臓の拍動の様子がわかる映像の提示
	5	国語	・「わたしはこう考える」 話合いの様子から，論点のつかみ方や発表の仕方の指導
	あおぞら	生活単元	・「あおぞら，のぞみshopの包装紙をつくろう」 いろいろなものを使って包装紙の模様づくりをする例の提示と支援
7	4	特別活動	・「学級集会をひらこう」 活発な話合い活動をするための司会の役割と実際の進め方の指導
	6	理科	・「植物のからだのはたらき」 植物の中でんぷんの動き方とでんぷん粒子の映像の提示
9	2	国語	・「詩をよもう」 詩の内容や擬態語のおもしろさを味わうための工夫の仕方の個人指導
10	2	体育	・「動物に変身して楽しもう」(表現運動) ＴＶ画面を通して，児童の動きにアドバイス
	6	理科	・「大地のつくりと変化」(研修員との共同研究)10月から1月に15時間実施 単元全体を通して，児童が見通しをもって学習を進めていくための指導支援のあり方の検証 地層や火山，火山灰等の鮮明な映像の提供と児童が予想を立てて自ら学習を進めていけるための支援
11	1	国語	・「本と友だちになろう」 児童の本の紹介の仕方の講評や，おすすめの本の紹介
	のぞみ	自立活動	・「夢に向かってホップ，ステップ，ジャンプ！Part Ⅰ」 自分の夢を叶えるためどのような力をつけたらいいかのアドバイス
12	6	国語	・「わたしの6年間」 6年間の思いの中から一番伝えたいものを発表し，その内容や話し方のアドバイス
	のぞみ	自立活動	・「夢に向かってホップ，ステップ，ジャンプ！Part Ⅱ」 体力づくりの計画とその実践を見て，励ましと追加項目のアドバイス
1	4	理科	・「冬の星」 冬の星座や天体の話を，映像を交えて提示
	5，6	体育	・「マット運動を楽しもう」 開脚前転や伸膝後転の演技をみて，ＴＶ画面の前で個人指導
2	3	理科	・「つくって遊ぼう」(電気や磁石) じしゃくの性質を生かした作品を作るためのアドバイス
	3	生活	・「もうすぐ2年生」 思い出に残ったことの発表への賞賛

(2) 学校間における交流・共同学習

月	学年	相手校名	教科等名	交流，共同学習の内容
7	3	栄小	道徳	・「だれかのために」(指導主事要請訪問) 同一の資料で学習し，お互いの考えを聞きながら自分の考えを深める。
9	1	鶴舞小	生活	・「お友だちになろう」 自分たちの学校紹介をしたりゲームをしたりして楽しむ。
	3， 4	鶴舞小	体育	・「身近な生活や空想の世界から」(表現運動) 3回実施 シンクロの演技を発表し感想を伝え合い改善していく。
	3	杉沢小	国語	・「詩を読もう」(スタディン事業：センター指導主事主導) センターにいる杉沢小の児童と，詩の内容をとらえながら音読を楽しむ。
	5	栄小	総合的な学習の時間	・「われら『こめこめ探検隊!』」 米についてテーマを決め自分なりの発表方法で伝えていく。
	6	十和田小	学活	・「夏休みの体験発表会をしよう」 夏休みに体験したこと(作品発表も含む)を紹介しあう。
9 10 11	あお ぞら	十和田小	生活単元	・「友達の輪をひろげよう」 自己紹介，発表，ゲーム等をする。ペアをつくり，インタビューからプレゼントするものを考えて贈る。
12	3	十和田小	社会	・「私たちの鹿角市，大曲市」 各々の代表的なものを紹介し合い，異文化に触れる。
	6	十和田小	総合的な学習の時間	・「私たちの鹿角市と大曲市の歴史と文化を求めて」 十和田湖の秘密と東大曲小の児童数の推移について発表し合う。
2	2	十和田小	国語	・「ことば遊び大会」 ことば遊びの発表をし，みんなで問題を解いて楽しむ。
	6	栄小	国語	・「自分の考えを発信しよう」 自分たちの未来について意見交換をし，考えを深め合う。

(3) 指導主事等への相談

月	学年	分野	相談内容
6	2， 6	教科指導	・国語科指導案検討会に向けての相談 ・国語科指導案検討会
7	あお ぞら	教科指導	・特別支援学級における，図画工作科の指導の相談
10	全職員	全体研修	・今後の特別支援教育の方向性の学習会 ・特別支援教育の在り方と具体的な指導の手立ての研修
11	全職員	教科研修	・音楽科における楽しく歌うための歌唱指導 ・声を響かせて歌うための指導法

(4) その他

- ・仙北出張所の所長訪問の際の視察
- ・大曲市内の学校へTV会議システムの紹介，毎月のTV授業計画一覧を配布して啓蒙を図っている。

4. 平成16年度の研究成果と課題

(1) 成果

- 自分(自分たち)には浮かばなかった発想や考え方を学ぶことができた。
- 一つの題材から，様々な視点で考えることができるというヒントを聞いた。
- 自分の演技が伝わったとき，すごく嬉しくて自信になった。
- 今すぐ，向こうの学校に行きたくなったという心の動きがあった。

- 一つの学級で道徳を行ったときには感じられないような、自分と同じ意見に対する共感を得ることができた。また、自分と違う考え方にも触れることができ、考えの幅を広げることができた児童が多い。
- センター指導主事から効果的に資料の提示があり、副読本を自分で読んで進める道徳より、児童にとって考えやすかった。
- 一人一人の児童が自信をもって話す様子を見て、とても刺激を受けた。
- 相手校の児童が日記に感想を書いてきたという話を聞いて（東大曲小の児童がはきはき話していてとても感心した）、自信がもてた。
- 話の内容についても質問が出ていたので、聞く姿にも効果があった。
- 「伝える」という視点に立って、それを意識した学習ができた。
- 相手にわかりやすく伝えるための話し方の工夫をすることができた。
- 意欲的に楽しく学習に取り組むことができた。（相手を意識しながら）
- 教師自身の授業改善の意識がさらに高まった。

(2) 課題

- 「ねらい」を共通理解するための打ち合わせの時間の確保が難しい。（お互い、限られた時間の中で打ち合わせ時間を調整確保しながらやっている。最大限の努力と各学校のご理解ご協力で成り立っている。日課表や放課後の行事との関連の中でいい時間をみつけながら）
- お互いのねらいと必要性の合致させることは難しい。
- TV授業でなければ得られない効果や成果を探りながら計画を立てているが、本質にたどり着くこと、それを実践に結び付けることはなかなか難しい。
- 児童同士の意見交換や交流の場面を、いかにタイムラグなく行っていくか。そうしないと思うの分断や感動がしばむことにつながってしまう。これはカメラ等機器操作と大きく関係してくるハード面での課題である。
- TV授業の時間帯が各々の学校の日課表と合わないで、どちらかの学校はチャイムを止めてたり変則日課にしたりする必要がある。（初めからわかりきっていたことだが）クリアできないところだと思う。お互いの学校内で理解してもらっていただければ問題なしかと思う。
- 児童のつぶやきをひろって全体に広げていくことができなかった。つぶやきや双方の細かな表情の変化までお互いに見合い、感じ合うことができれば、広がりとともにもっと深まりも期待できた。
- 多地点でつないだので、画像が粗くなった。より幅の広い交流・共同学習を展開するには、システムの機能をより知る必要がある。

5 平成17年度の研究計画の概要

(1) 研究の視点

本校の特色である小規模校のよさを生かした教育活動
わかる、できる授業展開と個性を生かす教育の推進
教職員の日々の教育活動に生きる研修の充実
家庭や地域へのIT化の推進と近隣学校への啓発

(2) 研究の方法

第2年次の成果と課題の把握

研究計画の見直し(仮説の設定)と研究体制の再編

学校外の教員の指導・助言や討論による研修の充実

学校外の教員との連携による効果的で有効な学習展開の継続研究

児童同士の学校間交流・共同学習の在り方の研究

- ・児童会や各学年による気軽な学校間交流

- ・研究発表や学校行事等による学校間交流

- ・各教科や総合的な学習の時間等における共同学習の充実

- ・障害のある児童と健常児との積極的な交流

近隣小・中学校やPTAへの啓発と参加の工夫

第3年次の成果と課題のまとめ

(3) 保護者や地域の人々の活用にかかわること

PTAの在り方についての情報、意見交換

合同のPTA講演会

センターでの講演会等を、多地点でつなぎ各校共有する。

近隣の学校に呼びかけ、センターの指導主事の指導を受ける機会をつくる。

(4) 横手市立栄小学校

1 学校名 横手市立栄小学校

2 研究主題 「他とのかかわり合いを通じて、表現力を高める学習
～インターネットTV授業を活用して～」

3 平成16年度の研究の概要

(1) 指導主事等が支援する授業

月	学年	教科等名	授業内容と指導主事の支援内容
5	6	理科	・人の体内の血液の流れを調べる活動を通して、心臓や血液のはたらきについての学習 人体の血液の流れや心臓の動きについてのVTRを見せ、学習の補足説明をする。
6	1	国語	・長音のある言葉を見付けたり書いたりする学習 児童がカードに書いた言葉を見たり、読むのを聞いたりし、個別に指導する。
	3	算数	・身の回りの事象を整理し、グループ毎に工夫して、見やすくわかりやすく整理してみようと意欲をもたせる学習 児童の工夫をほめ、もっとわかりやすく整理できるようにアドバイスをする。
	4	算数	・目盛を波線で省略した折れ線グラフの表し方を理解する学習 グラフの提示で理解を助ける。目盛の取り方、グラフなどをチェックをする。
	4	理科	・乾電池の数やつなぎ方を変えたときのモーターの速さと電流の強さを調べる学習 回路のつなぎ方の確認する。「電気の話」をする。
	5	算数	・タングラムで形作りをする活動を通して、図形に親しむ学習 タングラムの問題提示や児童へのコメント、発展問題の紹介をする。
	6	理科	・面積も人の数も違う場合の混み具合を比べる方法を考える学習 混み具合の課題提示をする。
7	1	国語	・拗音のある言葉を見付けたり書いたりする学習 児童がカードに書いた言葉を見たり、読むのを聞いたりし、個別に指導する。
	2	国語	・「あったらいいな、こんなもの」の発表会。お話名人、聞き方名人を意識して発表したり聞いたりする学習 発表を聞いてコメントをする。
	4	図画工作	・自然材の形や質感をいかし、結んだりつないだりして、自分なりの表現を楽しむ学習 むすび方、つなぎ方の例を提示し、作品へアドバイスをする。

7	5	家庭	・ 運針の様子を見ながら、縫い方のコツを見付ける学習 作品例や縫い方の例を示し、児童へアドバイスをする。
	6	理科	・ 「どの植物も葉に日光が当たるとでんぷんを作るのか」を調べる学習 葉緑体と日光の関係についてV T Rを見せ、学習のまとめをする。
9	1	体育	・ いろいろな跳び方で跳びこして遊ぶ学習 「とびこし」「支持でのとび上がり・とびおり」「支持でのまたぎのり」を演示する。
	2	国語	・ 好きな詩をグループで読み合い、よいところを話し合っ、詩の音読発表会を行う学習 グループ代表の児童の発表についてアドバイスをする。
	3	理科	・ チョウの成長についてわからなかったところ、あいまいだったところの学習 質問に対する答えをV T Rを交えながら説明する。
	3	理科	・ 昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解する学習 発表に対する賞揚とアドバイス。昆虫の成長の仕方がわかる映像資料の提示。
	4	図画工作	・ 動物の生き生きとした動きや表情を表現する学習 立体的にする工夫、動きをだす方法、芯材を使う工夫などのアドバイス、作品への評価をする。
	5	家庭	・ 身の回りの布について調べ、布の特徴に気付き、小物づくりに生かそうという学習 布の特徴について調べ方のヒントを出したり、児童が調べたことに補足したりする。
	6	算数	・ 分数÷分数の計算に習熟する学習 コース別学習の発展コースを担当する。
11	1	国語	・ 漢字の成り立ちに興味をもち、どんな絵（印）からどんな漢字ができたのかを読み取る学習 教材文に出てくる漢字や既習の漢字について、成り立ちを動画クイズにして出題する。
	1	国語	・ 習った漢字を使って短文を作る学習 絵を見て作った短文を見たり、読みを聞いたりして指導する。
	2	国語	・ 「お手紙」の紙人形劇を発表するための練習をする学習 発表練習を聞いて工夫した音読ができるようにアドバイスする。
	3	音楽	・ フルート・オーボエ・クラリネットを使った音楽を聴き、楽器のちがいが音色のちがいになっていることを理解する学習。 児童の気付きに対する賞揚、楽器のちがいの説明、音楽の提示と演奏をする。

11	3	音楽	・箱の形や使い道から発想を広げ、公園やかざりなど作りたいものを作る学習 箱を使った工夫の紹介、児童への賞揚とアドバイスを実物を使って提示する。
	4	体育	・「寒い！木枯らしだ！」風の特徴を捉えて協力して表現する学習 表現する方法をアドバイスする。
	6	理科	・自分たちが住んでいる大地はどのようなものでできているかをボーリングの資料を基に調べる学習 水の働きでできた地層と火山のはたらきでできた地層についてのVTRを提示する。
12	1	特別活動	・かぜをひかないようにするためにはどうしたらよいのかを知り、実践できるようにする学習 手洗いとうがいを中心にクイズを出し、風邪の予防について話をする。うがいの仕方について指導する。
	2	特別活動	・かぜをひかないようにするためにはどうしたらよいのかを知り、実践できるようにする学習 手洗いとうがいを中心にクイズを出し、風邪の予防について話をする。うがいの仕方について指導する。
	3	国語	・自分しか知らないことを友達に伝えるためにはどうすればよいかを考え、説明書づくりへの意欲をもつ学習 説明書づくりのために大切なことを知らせる。
	3	社会	・農家の人の仕事についてわかったことをグループごとに発表し、わからないこと、これから調べたいことに気付き、工夫してまとめる学習 児童の発表に対する賞揚とアドバイスをする。「せり」についての資料を提示する。
	4	国語	・言葉にはいろいろな意味をもつものがあることを知り、調べ、カード・詩・なぞなぞなどにしながら興味を深める学習 なぞなぞ・詩の提示で関心を高める。児童が作ったものに一言アドバイスをする。
	5	家庭	・身の回りにある甘味料も、とりすぎると体に害を与えることを知り、自分の食生活を振り返る学習 砂糖の取りすぎの影響について補足説明をする。
	6	体育	・エイズについて、どういう病気か、どうやって感染するのかを知る学習 エイズについてパワーポイントを用いて説明する。
1	1	音楽	・「そりすべり」の気分を感じとって聴く学習 曲を聴く前の助言、より具体的な感想を引き出すための補助的質問、曲の中で使われていた楽器や効果音を出すための道具などを提示する。

1	2	音楽	・「木の葉のゆうびん」の輪唱する学習 二つの旋律の重なる響きの美しさやおもしろさを楽しめるように、歌い方・輪唱の仕方を教える。
	3	国語	・ゲームを通して、大切なことを落とさないように、話したり聞いたりする学習 「はじめてのお使いゲーム」で案内される側の役をし、賞揚とアドバイスをする。
	5	算数	・百分率の問題練習をし、既習事項の習熟を図る学習 文章題について質問に来た児童に対して、図や絵をわかりやすく示しながら答える。
	6	理科	・コイルを自作して電流を通し、電磁石の性質を調べる学習 電磁石に興味をもたせるために電磁石の実験を演示する。

(2) 学校間における交流・共同学習

月	学年	相手校名	教科等名	交流，共同学習の内容
6	2	鶴舞小	生活	・栄小の周辺について調べたことを鶴舞小の2年生に聞いてもらう。
7	3	東大曲小	道徳	・「だれかのために」(思いやり・親切)資料を読み、友子の気持ちを考え意見を交換する。
9	5	東大曲小	総合的な学習の時間	・米づくりに関して調べたことを発表し合う。
10	2	鶴舞小	生活	・鶴舞小2年生が町探検で見付けたことや体験したことの発表を聞いたり質問したりする。
	1	鶴舞小	生活	・秋の草花や木の実を使った遊びの紹介と感想の交流
11	5	鶴舞小	理科	・流れる水の働き。それぞれ地域の川を観察しに行き、わかったことを発表し合う。
12	4	鶴舞小	社会	・本荘市と横手市の地域の産業，文化，交通，特産，行事などを紹介し合う。
1	4	十和田小	音楽	・「つるのおん返し」で表現を工夫したところを紹介し合い、自分たちの表現に生かす。

(3) 指導主事等への相談

月	学年	分野	相談内容
7	5	理科	・「魚や人のたんじょう」の単元の全体計画の立て方について
8	職員	情報研修会	・情報モラル教育の進め方

4 平成16年度の研究成果と課題

(1) 成果

交流・共同学習

- 遠く離れた児童同士が親近感を感じながら学習することができた。
- 少人数の学級では、他校の同年代の児童の多様な考えに触れることができ有効だった。
- 相手校に学習の成果を発表するというゴールの設定が児童への学習の動機付けとなり、意欲をもって学習に取り組ませることができた。
- 面識のない相手に向かって話すことや、TV会議システムを通して伝えるということから、声の大きさや話す速さ、言葉遣いをいつも以上に意識できていた。
- 相手校との地域間の相違がはっきりしている学習内容の場合、相手校の発表から多くのことを得られた。また、比較することにより自分たちの学習がはっきりと見えてきたようだ。

センターとの授業

- 同一教科で複数回に渡り授業を行ったことで、児童は指導主事に親しみをもち学習意欲の向上につながった。また、教師にとっても前回は踏まえたアドバイスで授業改善に役立てやすい。
- 指導主事からの映像資料や動画クイズなどの提示はとてもわかりやすく、児童の興味・関心を引き出したり理解を高めたりとても有効だった。
- 学級担任による1C1Tの授業形態が多い中、TV会議システムを利用することで、学習形態を工夫できた。
- 指導主事との打合せすること自体が教材研究になった。楽しい授業のアイデアや効果的な指導に関するアドバイスは、ありがたかった。
- 2年目として、TV会議システムが有効にはたらく授業のリストアップが進められている。

(2) 課題

交流・共同学習

- 最初の打合せをその単元が始まる1ヶ月ほど前にできないものか（主担当校がリードして）。特に、年間指導計画の単元の順番を入れかえたりするときなどは早めの連絡が必要と感じた。
- 打合せをしても受け取り方の違いや誤解もあるので、もっと打合せを密にする必要がある。また、決定したことはファックスなどを使ってペーパーで再度確認したほうがよいと感じた。
- 互いに忙しい日程を工面して打合せをしているので、実際には緊密な連絡の取り合いは大きな負担になる。
- 研究授業で扱った場合、校内の指導案検討会で改善点を見付けても変更するには相手校を巻き込まなければならず、労力も精神的負担も大きい。
- 相手校にわかるように、映像を送らなければならないので、カメラワークも大切である。しかし、専用のT2をお願いする余裕はない。プリセット機能を使えばある程度対応できそうだが、機械操作の習熟が必要である。
- 日課表が違うため、授業を行う上で不都合があった。
- 交流・共同学習は、単元を通したしっかりとした計画が必要であるが、お互いの学校の事情でうまく計画通りには進まない。単元を通した共同学習は容易ではない。
- 発表会形式の交流になりがちだが、機会均等を考え全ての児童あるいは全てのグループに発表させると、聞いている時間が多くなりすぎる。

センターとの授業

- ・ 特になし。2年目になり軌道に乗りつつある。

5 平成17年度の研究計画の概要

TV会議システムを有効に活用できる授業の開発、精選、リストアップ（センターとの授業）

共同学習における多様な学習形態の研究

保護者や地域の人々の活用に係わるTV会議システムの有効な活用方法の開発

（総合教育センターをキーステーションにした講演会etc.）

(5) 能代市立東雲中学校

1 学校名 能代市立東雲中学校

2 研究主題 「確かな学力の向上を図るTV会議システムの活用の在り方」

3 平成16年度の研究の概要

(1) 指導主事等がかかわる授業

月	学年	教科等名	授業内容と指導主事の支援内容
6	1	保健体育	・「心身の機能の発達と心の健康」 ストレスの対処方法について話し合い活動を取り入れて学習する。 TV会議システムを使ってストレスの解消方法と解消のポイントについて説明する。
7 ～ 10	3	理科	・「エネルギー」 エネルギーについての予想・仮説など観察・実験の計画を立てる。 「科学的な思考の育成」を図る支援をする。コンテンツの提示と個別形式による対話を通して、課題が生徒一人一人のものとなるようにする。
10	2	理科	・「電流」 電気の正体を探り、電気に関する興味・関心を高める。 「電気発見の科学史」についての詳しい解説をする。静電気や電気の正体を明らかにした人物について説明する。
11	2	理科	・「化学変化と原子・分子」 原子のつくりや種類について考える。 電子顕微鏡写真などを使用し、原子のつくりや種類について発展的な興味深い話をする。また、課題を解明するためのヒントとなる資料を対話形式でリアルタイムに提示する。

(2) 学校間における交流・共同学習

月	学年	相手校名	教科等名	交流、共同学習の内容
5	全校	男鹿南中 (3年生)	特別活動	・修学旅行の内容についての交流会を行う。本校は修学旅行(北海道)全体について、男鹿南中は自主研修(東京)の活動についてそれぞれ発表し、質疑応答で交流をする。
10	1	湯沢南中 <主> (1年生)	国語	・「意見文で発信しよう! 私たちの環境問題」でエネルギー問題に関する意見文の発表を行う。
	全校	男鹿南中 (3年生)	特別活動	・お互いの学校祭の取り組みを紹介し合い、どこいしょ東雲(ヨサコイソーラン)の一部と一緒に踊る。
11	全校	男鹿南中 (2・3年生)	特別活動	・総合的な学習の時間で取り組んだ内容を発表し合う。本校は「世界のお正月」について発表し、男鹿南中からは「職場体験」について発表する。

(3) 指導主事等への相談

・今年度はなし

(4) その他

月	内 容
10	Lネットの番組をTV会議システムを通して受信し、録画した。

4 平成16年度の研究の成果と課題

(1) 成果

授業

- 校外の指導者の登場で意欲的な生徒の姿がみられた。導入やまとめの部分での利用効果は大きいと思う。TV会議システムから話されている内容を聞くだけではなくメモをする生徒もみられた。

- 理科の授業では、授業の中にＴＶ会議システムでの対話を随所に入れた展開になった。対話に参加した生徒にとっては疑問解決の糸口を見付けたり、新しい興味や疑問をいだいたり、効果的な面が多かった。

交流

- 本校は全校集会の形で取り組んだが、全体的に生徒の反応がよかった。交流学校の生徒の姿に刺激されたことが要因として挙げられる。自分たちがもっている情報とは違うものを真剣に聞く姿がみられた。
- 発表内容の他に「応援活動」や「どっこいしょ東雲」の紹介にも全校生徒が意欲的に取り組んでいた。今の取り組みを紹介したいという気持ちを感じた。

(2) 課題

授業

- ＴＶ授業をやってみる段階から、効果的に展開できる場面を選定する段階に至ったが、かえってイメージしにくくなったのか、活用の機会が極端に減少してしまった。
- 双方向での展開については質疑応答の時間を十分に配慮する必要がある。年間指導計画を確認して長期的な計画が必要である。

交流

- 集会で活用したときに、様々な要望に対応するため、機材の機能をフルに使うことになった。集会の流れとカメラのアングルについては今後も検討していきたい。
- 学級間による交流が無かった。何らかの形で他校との学級間・学年間の交流を図る必要があるのではないかと感じた。

5 平成17年度の研究計画の概要

(1) 授業（継続）

各教科における活用と効果的と思われる利用場面の選定

授業研究への利用

(2) 交流（継続）

中学校間の生徒会交流や学校行事，総合学習の交流の充実

学級間・学年間での交流

授業交流

(3) 地域の人々の活用（考えられること）

地域人材の活用（みょうが栽培・手話指導・・・）

地域の施設の活用（養護学校・医療・寺社・・・）

秋田県の不審者増加に対応した話し合い・・・

さすまた講習会（不審者の校内侵入対策）

(6) 男鹿市立男鹿南中学校

1 学校名 男鹿市立男鹿南中学校

2 研究主題 「豊かな学びの創造をめざしたTV会議システムの活用」

3 平成16年度の研究の概要

(1) 指導主事等が支援する授業 (H17.1.31現在)

月	学年学級	教科等名	授業の内容と指導主事の支援内容
6	3 - 1	美術	・「自分の世界を表す」という絵画の学習 彩色段階で悩んでいる生徒に助言する。
	特別支援	特別活動	・生活単元の学習 言語・動作機能回復訓練の方法を教える。
	3 - 3	美術	・「自分の世界を表す」という絵画の学習 彩色段階で悩んでいる生徒に助言する。
	2 - 1	英語	・1C3Tで設定した「there構文」のコース別学習 1つのコースを担当する。
	2 - 3	英語	・1C3Tで設定した「there構文」のコース別学習 1つのコースを担当する。
7	3 - 2	美術	・「自分の世界を表す」という絵画の学習 生徒の質問や相談に対応する。
	2 - 1	英語	・未来形の学習 生徒のスピーチを聞いて、質問やコメントをする。
	2 - 2	社会	・「近世の日本と世界」についてのテーマ設定型学習 発表内容に対する講評や補足をする。
	2 - 3	技術・家庭	・単元「幼児の成長」 まとめ方や発表方法で迷っている班に助言をする。
	2 - 3	国語	・「短歌と俳句それぞれの表現」の学習 生徒の作った短歌の講評をする。
9	3	英語	・学校祭での英語劇の発表のリハーサル リハーサルを見て、助言をする。
	1 - 1	技術・家庭	・「学校を紹介しよう」というテーマで、パワーポイントを活用した発表のリハーサル 発表に関して助言をする。
	1 - 3	技術・家庭	・「学校を紹介しよう」というテーマで、パワーポイントを活用した発表のリハーサル 発表に関して助言をする。
	1 - 2	技術・家庭	・「学校を紹介しよう」というテーマで、パワーポイントを活用した発表のリハーサル 発表に関して助言をする。
	2 - 1	英語	・「That節」の1C4Tの少人数学習 一つのコースを担当する。
	2 - 3	英語	・「That節」の1C4Tの少人数学習 一つのコースを担当する。
11	1 - 2	音楽	・アルトリコーダーの演奏技能を習得する学習 グループごとに合奏を披露し、アドバイスをする。
	2 - 2	理科	・「化学変化と原子・分子」の学習 生徒にとって驚きのある実験を提示する。
	2 - 1	理科	・「化学変化と原子・分子」の学習 生徒にとって驚きのある実験を提示する。
12	小学生	英語	・新入生体験入学の際、小学生にインターネットTV授業を体験する学習 簡単な英会話をする。
1	1 - 2	英語	・「過去形」における1C3Tの少人数学習 スピーチのアドバイスをする。
	1 - 1	英語	・「過去形」における1C3Tの少人数学習 スピーチのアドバイスをする。
	1 - 2	総合的な学習の時間	・総合的な学習の時間における環境についての学習 テーマ「うちわ対エアコン」のディベートの判定をする。

(2) 学校間における交流，共同学習（H17.1.31現在）

月	学年学級	相手校名	教科等名	交流，共同学習の内容
5	3年全体	東雲中	総合的な学習の時間	・東京（男鹿南中）と北海道（東雲中）という異なる場所で行われた修学旅行での体験活動の様子を紹介する。
6	生徒会	湯沢南中	特別活動	・間近にせまった全県総体に向けての互いの出場チームを激励し合う。また，本校に来校していた米国フルブライト教育使節団とも英語で交流する。
7	1 - 3	湯沢南中	技術・家庭	・情報リテラシーとモラルを育てるため，電子メールを交換する。
9	特別支援	湯沢南中	生活	・コミュニケーション能力を高めるため，湯沢南中の特別支援学級の生徒と自己紹介などをする。
10	2 - 2	湯沢南中	社会	・10/15の共同授業にむけ，学級紹介を兼ねた事前交流を行う。
	2 - 2	湯沢南中	社会	・自分たちの地域の人口推移について発表し，それについて討論する。
	3年全体	東雲中	総合的な学習の時間	・互いの今年度の文化祭の様子を発表し合い，質疑応答をする。最後に全員で踊りを一緒に踊る。
11	3年全体	東雲中	総合的な学習の時間	・今年度の総合的な学習について発表し合い，質疑応答を行った。
12	1 - 1	湯沢南中	理科	・互いの地域の地層について紹介し合い，共通点や相違点を話し合う。

(3) 指導主事等への相談（H17.1.31現在）

月	学年	分野	相談内容
8	2	英語指導	9月の授業について，指導法などの相談
9	3	英語指導	文化祭の英語劇についての助言
1		教育課程	他校における2学期制の実践例についての相談

相談活動以外に，交流，共同学習，指導主事とのＴＴ指導の際はすべてＴＶ会議システムを通して事前に１～２回打ち合わせを行っている。

(4) その他

- ・総合教育センターに「天王みどり学園」に在籍する男鹿南中出身生徒を招いて，本校特別支援学級の生徒と船川南小の特別支援学級の児童と交流した。
- ・ＴＶ会議システムを通じた交流が縁となって，東雲中生徒会が夏休みに本校に来校し，実際に交流活動をした。

4 平成16年度の研究成果と課題

(1) 成果

- 「ＴＴとして活用できる」ことが教員に広く認識され，昨年度と比較し利用回数が大幅に伸びた。
- 天王みどり学園との交流など，今後の広がりを感じさせる活用を提案できた。
- 生徒の意識調査結果から，ＴＶ会議システムを肯定的にとらえていることが確認できた。

(2) 課題

- ・双方に明らかなメリットがないと共同学習が成立しない。
- ・中学校における共同学習は，「教科担任制」「時間割変更」「進度調節」等の条件をすべてクリアしなければならず，かなり先を見通してスタートしないと難しい。
- ・共同学習を行ってみて，「事前交流」「教員間の定期的な打ち合わせ」「曜日交換や時間割変更の調整」「資料準備」「本時の雰囲気づくり」など普段の授業の数倍エネルギーを要する。そのため，「気軽に共同学習を」という意識が低い。

5 平成17年度の研究計画の概要

学習効果を高める場面において，ＴＶ会議システムをＴＴとして積極的に活用する。
男鹿南中学区小中連携の研究の一環として，学区内の小学生が本校でインターネットＴＶ授業ができるようコーディネートする。
総合的な学習の時間等で本市の人材をＴＶ会議システムを通して他地域でも活用できるようにする。また，他地域の人材も本校の授業でＴＶ会議システムを通して活用したい。

(7) 湯沢市立湯沢南中学校

- 1 学校名 湯沢市立湯沢南中学校
- 2 研究主題 「確かな学力の向上を目指し、意欲を持って学び続ける生徒の育成」
～一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を通して～

3 平成16年度の研究の概要

(1) 指導主事等が支援する授業

月	学年	教科等名	授業内容と指導主事の支援内容
7	2	技術・家庭	・「エネルギー変換」 発光の仕組みを実験を通して理解する。 いくつかの発光実験を提示する。
10	2	技術・家庭	・「情報とコンピュータ」 様々な手段を活用したクラスＣＭの発表をする。 発表後に講評をする。
	1	技術・家庭	・「技術とものづくり」 1年生の「技術とものづくり」の導入として、木材や金属、 プラスチックの性質や加工方法を知る。 木材や金属、プラスチックの性質や加工方法を説明する。
11	1	英語	・「学校のホームページを作ろう」 学校の紹介文を英語で作成する。 センターのＡＬＴが、中学校時代やアメリカの学校についての 話をする。
	1	数学	・「比例」 生活の中の比例について理解する。 具体例を提示する。
1	2	国語	・「漢詩の風景」 漢文の読み方や漢詩の決まりを理解する。 漢詩の学習の導入で、漢文の読み方や漢詩の決まりについて説 明し、音読を評価する。

(2) 学校間における交流・共同学習

月	学年	相手校名	教科等名	交流，共同学習の内容
6	生徒会	男鹿南中	生徒会交流会	・総合体育大会を目前にして、お互いの学校の紹介 とエールの交換を行う。
7	2	男鹿南中	技術・家庭	・電子メールを送信し、画面を通してメールを送信 した相手と実際に対面する。
9	1 3	男鹿南中	特別活動	・特別支援学級同士で自己紹介や学校紹介を通して、 交流を深める。
10	1	東雲中	国語	・環境問題について調査をし、東雲中の発表と湯沢 南中の材料収集の時間をリンクさせる。湯沢南中 は意見文にまとめる。

月	学年	相手校名	教科等名	交流，共同学習の内容
10	2	男鹿南中	社会	・人口について湯沢市と男鹿市について調査したことを発表し合う。なお，事前に1時間，互いの学級の紹介などをして交流を図る。
12	1	男鹿南中	理科	・男鹿市と湯沢市の地層を比較する。調べたことを発表し合い，地層のできかたなどを深める。

4 平成16年度の研究成果と課題

(1) 成果

- 共同授業を進めることによって，お互いが刺激となり，より集中して授業に取り組むことができた。
- 前年度よりも教科の広がりが見られ，各教科での効果的な実践が行われた。
- 生徒会同士の交流の場を設けることができた。

(2) 課題

- 共同学習を行う際，両校で授業（単元）の進度を合わせる必要がある。
- 両校の授業のねらいが一致しないことが多い。
- 授業の進度など綿密な打ち合わせ時間をいかに確保できるか。
- 1クラスだけでなく，全クラスで同じ内容を行うことができない。
- 共同学習のよさを生かしながら，進めていく方策を検討する。

5 平成17年度の研究計画の概要

(1) 研究組織の確認

(2) 遠隔授業，交流等の計画立案

(3) 遠隔授業，交流等の実施と記録

(4) 生徒同士による学校間交流の在り方の研究・実践

(5) 保護者や地域の人々の活用の在り方の研究

P T A 役員による意見交換

講演

パネルディスカッション

(6) 3年間の研究実践のまとめ

3 TV会議システム利用の実践～交流・共同学習～

今年度の研究の重点は、学校間における交流・共同学習です。次は、その実践一覧と記録です。

は主担当校

教科等	校種 学年	単元，題材等	月	交流・共同学習の内容	学校名
国語	小1	学校たんけんをしよう	6	・学校たんけんで見付けたことを紹介と感想を発表し合う。	十和田小 鶴舞小
		「話す，聞く」の単元 私はだれでしょう	9	・互いに自己紹介をする。	十和田小 鶴舞小
	小1	わたしのたからもの	2	・「わたしのたからもの」を紹介し合い，質問したりする。	鶴舞小 栄小
	小2	みんなで作って，みんな であそぼう「ことばあそ び大会」	2	・ことば遊び大会を開く。	鶴舞小 栄小
		「みんなで作って，みん なで遊ぼう ことばあそ び大会」	2	・グループごとにことば遊びの発表を行い，み んなで問題を解いて楽しむ。	東大曲小 十和田小
	小3	標識と言葉 調べたことを発表しよう	2	・互いの地域にある標識を調べ，発表し合う。	鶴舞小 十和田小 栄小
	小5	インタビュー名人になろ う	12	・インタビュー計画にしたがって，インタビュ ーをし合う。	十和田小 鶴舞小
	小6	伝えたい「何か」を見つ けよう	2	・自分たちの未来に対する意見を交換し，未来 についての考えを深める。	栄小 東大曲小
	中1	めざせ 意見文の達人	10	・環境問題について調査をし，東雲中の発表と 湯沢南中の材料収集をリンクさせた。	湯沢南中 東雲中
社会	小3	わたしたちの市の紹介	10 11	・互いの市を紹介するパンフレットを作り，意 見交換をする。	十和田小 東大曲小
	小4	わたしたちの県と町づく り	11 12	・各市の土地利用の様子や産業，特産品などを 紹介し合い，秋田県の特徴をまとめる。	鶴舞小 十和田小
		県の広がりとからし	12	・自分の地域とは違う様子を見たり聞いたりし て，これから調べることの意欲付けとする。	鶴舞小 栄小
	中2	世界と日本の人口	10	・自分の地域の人口動態やそれに対する行政の 施策について調べたことを発表する。	男鹿南中 湯沢南中
理科	小5	流れる水のはたらき	10 11	・川の観察に出かける際に相手校と同じポイン トで観察する。その結果を発表し，流れる水 の働きと川の様子の違いを学ぶ。	鶴舞小 栄小
	中1	大地の変化	10	・県内3カ所の露頭観察の結果を発表し合う。 それをつなげることで地層の広がりを知る。	男鹿南中 湯沢南中
生活	小1	友だちになろう	9	・自分たちの学校を紹介したり，ゲームをし たりする。	東大曲小 鶴舞小
		あきとあそぼう	10	・遊び道具の紹介をし合い，感想を発表する。	鶴舞小 栄小

教科等	校種 学年	単元，題材等	月	内 容	学校名
生活	小 2	町たんけん	6	・自己紹介をしたり，学級や学校の様子について相手の学校に知らせたりする。	栄小 鶴舞小
	小 2	わくわく どきどき 町たんけん	10	・町で見付けたものを発表する。	鶴舞小 栄小
音楽	小 4	音楽とお話で楽しもう	1	・グループで計画を立てて練習をし，発表会で聞き合う。	栄小 十和田小
体育	小 3	「表現運動」 身近な生活から選んだ題材	9	・【１回目】自己，グループ紹介と演技の説明。 ・【２回目】発表して感想を伝え合い，互いの踊りのよさを見付け，自分の踊りに生かす。	東大曲小 鶴舞小
技術・ 家庭	中 1 ～ 3	情報とコンピュータ 電子メール	7 1	・グループで電子メールにより情報を交換し，最後にＴＶ会議システムで感想を発表し合う。	湯沢南中 男鹿南中
生活単 元学習	小 2 ～ 4	友だちの輪を広げよう	9 10 11	・自己紹介をする。 ・発表をする。 ・ゲームでペアを作り，クイズを出し合う。 ・ペアの友だちにインタビューをしてプレゼントを決める。 ・実際に会い，触れ合いながら共同学習をする。	東大曲小 十和田小
	中 3	「天王みどり学園の先輩 から学ぼう」	10	・天王みどり学園の学習や行事について，先輩に質問をする。	男鹿南中 みどり学 園
道徳	小 3	言葉って大切なんだ	7	・共通の資料を使って，価値を深かめ，意見交換を行う。	栄小 東大曲小
特別活 動	小 6	夏休みの体験発表会をしよう	9	・夏休みに体験したこと（作品発表も含む）を紹介し合う。	東大曲小 十和田小
	中 1	学校行事に取り組もう	8 9	・合唱を聴いてもらい，よい点，改善点などを話し合う。	男鹿南中 湯沢南中
	中 1 ～ 3	校外学習で学んだことを 発表しよう	5 6	・校外学習で学んだことを発表し合い，質疑応答をし，視野を広げる。	東雲中 男鹿南中
	中 1 ～ 3 特別 支援	「ぼくたちの進路～自己 紹介をしよう～」	9	・自己紹介をする。 ・発表をする。 ・感想を話し合う。	湯沢南中 男鹿南中
	中 生徒 会	諸活動の情報交換	6 1	・委員会活動，部活動，行事などの情報交換をし，アドバイスをする。	東雲中 中学校 3 校
総合的 な学習 の時間	小 3	地いきをしょうかいし合 おう	10	・自分たちの地域について調べたことを互いに紹介し合う。	十和田小 東大曲小
	小 5	われら「こめこめ探検 隊！」	9	・調べたことについて，相手校に発表する。	東大曲小 栄小
	小 6	ぼくたち，わたしたちの 十和田の歴史と文化を求 めて	11	・郷土の歴史や文化を調査し，発表を聞いてもらい，質問やアドバイスをもらう。	十和田小 東大曲小
	中 1 ～ 3	総合学習発表会	11	・総合学習の発表会を行う。	東雲中 中学校 3 校

実践記録 1

男鹿南中学校第2学年2組，湯沢南中学校第2学年2組 社会科（同校種間，発表型，討議型）

指導者 男鹿南中学校 黒田秀和，湯沢南中学校 佐藤公英

1 単元名 「世界と日本の人口」(地理的分野)

2 単元の構想

(1) 単元について

主な目標と学習内容

- ・世界的視野から見て，日本は人口が多くて人口密度も高いこと，少子化，高齢化に伴う課題を抱えていることを理解することができる。
- ・人口分布図などの資料を基に，国内では人口の不均衡な分布が見られ，過密・過疎の地域があることをとらえることができる。

関連する既習内容

「都道府県を調べよう」の単元で，秋田県と東京都を取り上げており，そこで得た人口の集中や減少などに関する知識が，過密や過疎などの学習の基礎として生かされる。また，「世界の国を調べよう」で中国とアメリカ合衆国を取り上げ，おもな国の人口や変化の様子を学習しており，そこで得た知識や統計資料の処理の技能が，世界や日本の人口に関する統計資料をグラフ化する際の基礎として生かされる。

(2) 単元に関する生徒の実態

学習集団の構成

男鹿南中学校 2年2組 男子13人 女子19人 計32人

湯沢南中学校 2年2組 男子18名 女子21名 計39名

本単元に関する実態

男鹿南中学校は，全般的に社会科の授業に対して真剣に取り組んでおり，発表も積極的である。思考力，発表力がともに優れている生徒が数名おり，思考を要する学習の中心となっている。グループ学習でも，役割分担をしっかりと行い，協力して作業を進めている。

湯沢南中学校は，社会科に対しては全体的に意欲的に取り組む姿が見られる。特に，男子数名が社会的現象に対する関心が高く，授業をリードする活躍を見せている。歴史的分野に比べて地理的分野への関心は低い傾向にあるが，「世界の国を調べよう」での調べ学習では，女子生徒の中に，一斉授業とは違った意欲的な姿が見られた。

本単元の学習内容に関して，両校で事前にアンケート調査をしたところ，日本の人口の変化に関しては，減ってきていると答えた生徒が多かった。秋田県の人口に関して，減ってきているととらえている生徒が多かった。また，自分たちの住む市に関して，減ってきているととらえている生徒が多かった。人口構成に関しては，日本，秋田県，自分たちの住む市とも，60～70代が一番多いと答えている生徒が多かった。日本の人口や人口構成に関して，統計資料の処理などの作業を取り入れて確実に変化をとらえさせる必要がある。

用語に関して，「高齢化」については意味を知っているという答えが多かったが，「人口ピラミッド」，「少子化」，「過密」，「過疎」について意味を知っているという生徒の割合は低く，もう一度しっかりおさえる必要がある。

(3) 単元の指導観とTV会議システム活用の構想

重点目標と重点指導内容

本単元では，学習を通して生徒が地理的な見方・考え方の基本を身に付けることを重点目標とした。そのために，次の三つの柱を意識しながら，追究活動を中心として学習活動を進めていくことにした。

人口の変化のグラフや人口ピラミッドを作成したり，その内容を読み取ったりする能力を身に付ける。

世界の人口の変化を踏まえて，日本の人口の変化を追究し，人口に関する日本の地域的特色を世界的視野からとらえる。

日本全体の視野から見た日本各地の人口に関する特色を，過密・過疎に着目し，事例を通して明らかにする。

TV会議システムの活用

日本全体を見た場合，人口分布に偏りがあるが，秋田県は人口の希薄な地域の例として扱うことができる。その際，沿岸部の男鹿市，内陸部の湯沢市の人口の変化や人口ピラミッドを比較しながら共通点を見いだすことによって，秋田県全体と自分たちの地域が同じ傾向と感じ，理解を深めることができると考えられる。

また，調べたことを互いに発表し合い，質問し合うことによって，考えが広がったり深まったりするとともに，よりよく相手に伝えようとすることによって，表現力や発表力が高まることが期待できる。

3 観点別の到達目標と評価規準 (略)

4 評価計画 (略)

5 単元の指導計画(総時数 6時間)

時数	主な学習内容と指導上の留意点	学習形態
1	世界の人口の増加のしかたや分布の様子を，統計資料などを使って確認する。 ・日本を含めた先進国と発展途上国との違いに気付くことができるように，代表的な国の人口の変化のグラフや人口ピラミッドを取り上げる。	全 体 個
1	日本の人口の変化と人口構成，分布の様子を，統計資料や地図から読み取る。 ・日本が人口大国であること，少子高齢化が進んでいることを明らかにするために，近年の日本の人口の変化のグラフの作成やその読み取りの作業を取り入れる。	全 体 個
1	グラフや人口ピラミッドを作成しながら，秋田県や自分たちの住む市の人口の変化と人口構成をとらえる。 ・日本の生産性や技術の高さに気付くことができるように，農作業の時間の変化や米の生産地の分布図を準備する。	全 体 小 集 団
1 本時	男鹿市と湯沢市の人口の変化と人口構成の共通点と相違点を把握し，秋田県全体の傾向と比較し，検討する。 T V会議システムによる 共同学習 ・秋田県の共通の傾向をつかむために，男鹿市と湯沢市の人口の変化と人口構成の資料を事前に作成し，取り上げる。	全 体 個
1	秋田県の町村を例に過疎地域の特色や問題点を調べ，その対策にどのようなものがあるかを考える。 ・過疎地域での生活を明らかにし，将来について考察できるように，人口の変化のグラフの作成や人々の暮らしを調べる活動を取り入れる。	全 体 個
1	首都圏を例に過密地域の特色や問題点を調べ，その対策にどのようなものがあるかを考える。 ・過密地域での生活を明らかにし，将来について考察できるように，人口分布図や通勤・通学の流れなどの資料を読み取る作業を取り入れる。	全 体 個

6 本時の指導計画

(1) ねらい

- ・男鹿市と湯沢市の人口の変化と人口構成の特色を把握し，秋田県全体の傾向と共通点をとらえることができる。

(2) 展 開

時間	生徒の学習活動	教師の活動 (おもな発問・指示，支援，教材，評価)	TV画面
5	1 日本全体の人口の変化と人口構成を確認する。	最近の日本の人口の変化と人口構成をグラフと人口ピラミッドで確認しよう。 〔最近の日本の人口の変化のグラフ〕 〔日本の人口ピラミッド〕	2分割画面
15	2 男鹿市と湯沢市の人口の変化と人口構成について調べたことを発表し合う。 【男鹿南中】 【湯沢南中】 発表（代表） 発表を聞く（全員） 発表を聞く（全員） 発表（代表）	自分たちの住む市の人口の変化と人口構成について調べたことを発表しよう。 〔両校の発表資料〕 〔男鹿市，湯沢市の人口の変化〕 〔男鹿市，湯沢市の人口ピラミッド〕 ・学習プリントの中に発表中のキーワードをメモできるメモのコーナーを用意する。	単画面 (男鹿南中の発表)
10	3 発表内容について質疑応答をする。 【男鹿南中】 【湯沢南中】 質疑（代表） 応答（代表） 応答（代表） 質疑（代表）	発表内容について，疑問に思ったこと，もっと知りたいことを質問しよう。 ・人口の変化と人口構成の背景に目を向けることができるように，少子化や高齢化，産業の特色などの具体的観点を示す。	単画面 (湯沢南中の発表)
10	4 男鹿市と湯沢市の人口の変化と人口構成の共通点・相違点を確認し，秋田県全体の傾向と比較する。	男鹿市と湯沢市の人口の変化と人口構成の特色を，秋田県全体の傾向と比較してみよう。 〔秋田県の人口の変化のグラフ〕 〔秋田県の人口ピラミッド〕 〔男鹿市，湯沢市の人口の変化〕 〔男鹿市，湯沢市の人口ピラミッド〕 ・比較，検討しやすくなるように，各グラフを並べたり重ねたりして提示する。また，配付資料としても準備しておく。	2分割画面
10	5 学習したことを，プリントに書いてまとめる。	今日の学習でわかったことを，学習プリントにまとめよう。 ・両市と秋田県の人口の変化と人口構成の共通点に注目するよう助言する。 【 評価 】 男鹿市と湯沢市の人口の変化と人口構成の特色を把握し，秋田県全体の傾向と比較し，検討することができる。	

(3) 評価規準と評価方法 (略)

社会科共同学習の授業記録			
男鹿南中学校（生徒の発言OS，教師の発言OT）		湯沢南中学校（生徒の発言YS，教師の発言YT）	
男鹿南中の教師が、両校の生徒と5分程度で前時まで学習した日本の人口について復習した。その後、男鹿南中の生徒が男鹿市の人口の変化と人口構成について10分程度発表し、同じように湯沢南中の生徒が湯沢市について発表した。発表は、クイズ形式で行った部分もあった。			
（以下は、発表後の記録）			
OT	両校の皆さん、発表をありがとうございました。互いの発表について、わからなかったこと、もう少し詳しく聞きたかったところの質問を出してください。最初に男鹿南中から湯沢南中の発表や人口についてどのように考えているのか質問してください。	YT	こちらで手を挙げて答えたいと思います。はじめに湯沢市に残って仕事をしたいと思っている人は手を挙げてください。男子2人しかいません。（笑い）
OS1	私は男鹿市に残って仕事をしたいと思っていますが、湯沢南中の皆さんは湯沢市で仕事をしたいと思いますか。	YT	その理由を聞いてみたいと思います。湯沢市以外で働きたいと思っている人は理由を教えてください。
OT	手が挙がらなかったのは、みんなあまり地元では働きたくないということですか。	YS1	湯沢市にいてもつまらないからです。
OS2	指摘のとおりでこちらのクラスでは、女子が多いです。2年生の全クラスとも女子が多くて、男子が少ないです。	YT	こちらから質問をします。
OS3	実際には漁業をやっている人は少ないです。	YS2	男鹿市の10歳代の人口ピラミッドを見ると、女子の方が多そうなのですが、実際そちらのクラスでは男女のどちらが多いですか。
OT	補足すると、後継者になる若い人が少なく、実際は60歳代の漁師さんが多くて、若い人はほとんど漁業をやっていません。男鹿南中から質問します。	YS3	ありがとうございました。
OS4	男鹿市より子どもの数が多いようですが、どうしてですか。	YT	もう一人質問します。
OT	ありがとうございました。今指摘があったことは、データにも表れています。両校の皆さん、出生率の資料を見てください。ここが両市の一番の違いです。湯沢南中の皆さん、表で湯沢市の人口千人当たりの出生率はいくら読み上げてください。	YS4	男鹿市では漁業が盛んだと思ったので、もっと地元で働いている人が多いと思いました。しかし、そんなに多くはないのですか。
OT	その下に括弧して数字が書いてありますが、その数字は秋田県の69市町村中の順位です。何位でしょうか。	YS5	湯沢の人は子どもをたくさん産んでいるからです。
OT	そうです。秋田県内で6番目に出生率が高いです。	YT	そのままの答えでした。
OS	男鹿南中の皆さん、男鹿市の出生率はいくらですか。	YS	9.0です。
OT	4.7です。	YS	えー。6位です。
OT	69市町村中何位でしょうか。		
OS	64位です。		
OT	トーンが下がりましたが、県内64番目の出生率です。ここが、一番の違いです。男鹿市の出生率が、なぜ低いかを考えてみます。どの世代の人口が少ないですか。		
OS5	20歳代後半から30歳代です。		
OT	そうです。その世代が少ないと子どもが少ないです。どうして男鹿市では20歳代後半から30歳代までの人が少ないのでしょうか。		
OS6	男鹿市に仕事が無いので、市外に出て仕事を探しに行くからです。		
OT	なるほど。男鹿市は他市町村に比べて、若い人が就職する場所が少ないので、20歳代		





	後半から30歳代にかけて少ないと予想しています。湯沢市の方が男鹿市よりまだ若い人が残れる条件があると思います。この後の学習で考えてください。この説明で男鹿市の15歳未満の人口の割合が少ないことを理解できたでしょうか。	YS	わかりました。
OT	出生率を出した湯沢南中の方、ありがとうございました。他に質問は無いでしょうか。	YS6	7校だと思います。
OS7	湯沢市では小学校が何校あるのですか。	YS	ありません。
OT	最近、閉校した小学校はありますか。	YS	おー。
	男鹿市は、湯沢市より人口が少ないのですが、まだ、九つの小学校があります。	YT	もう一つ補足します。これから地理の勉強などをしながら湯沢市に残りたいという人が多くなるようにしたいと思います。
OT	質疑を以上で終わります。秋田県、男鹿市、湯沢市の人口は、ともに減少しています。湯沢市の人口の減り方はやや緩やかです。しかし、男鹿市の減り方は急激です。男鹿市の人口ピラミッドは、秋田県と同じような形をしています。ただし、湯沢市の方は年少の人の割合が高くて、男鹿市の方がぐっと低いという特徴があります。残りの時間でまとめを記入してください。		
OT	それでは、男鹿南中の代表者から感想を発表してもらいます。2人います。		
OS8	私は40歳代50歳代の人が多いということがわかりました。そして、湯沢市に比べて20歳代の人が少ないことがわかりました。	YT	こちらみんなよいことを書いていました。代表一人に発表してもらいます。
OS9	男鹿市と湯沢市の人口は減っていて、そして高齢化が進んでいることがわかりました。男鹿市の出生率は県内の64位と低く、湯沢市と比べて人口の減少の割合が激しく、湯沢市の減り具合がゆっくりなのは、ここに原因があることがわかりました。	YS7	人口の推移は、男鹿市に比べて湯沢市は減り方が緩やかであることがわかりました。それから、数は違いますが、人口ピラミッドを見てみると男鹿市も湯沢市も0～10歳代と20歳代が少ないという共通点があることがわかりました。
(最後に、両校の教師が授業のまとめと感想を言い、終了した。)			



社会科共同学習の協議会記録（要点）	
黒田 （指導者）	県内の沿岸部の男鹿市と内陸部の湯沢市の中学校とで共同授業を行い、同じ県内の2市の人口の共通点や相違点を比較し、秋田県の人口の特徴を深めることが可能と思った。また、今回の授業は、いつもとは違った緊張感をもつことができ、生徒の発表能力を刺激するよい機会となった。本校の生徒は、他校生徒とTV会議システムを利用して会うことを、非常に喜んでいる。ただし、授業の計画やプリントを直前に提示するなど連携が不十分であったので、授業がスムーズでなかった。
佐藤 （指導者）	生徒は、TV授業に非常に意欲的で、魅力を感じている。有効なシステムであると思う。しかし、今回は授業までに時間が無くて、人口の変化や構成について、実態をおさえる程度になり、背景や原因などの分析まで十分に至らなかった。
鶴舞小	発表の場とグラフを使って考える場面があったが、主にどちらの場面で人口の共通点や相違点を生徒にとらえさせるつもりだったのか。
黒田	発表と練り合いから発見させたいと思ったが、発表と質疑応答の時間が延びてしまい、結果的に資料から分析することになった。
東雲中	生徒の発表はわかりやすく、両校とも意欲的だった。両校のグラフの横軸、縦軸の長さが違い、折れ線グラフの変化の推移が緩やかであったり急であったりして、比較が難しかったのではないかな。
黒田	TV会議システムのカメラ操作が頻繁にならないよう、ホワイトボードにグラフ2枚がおさまるようにしたので、縦長になった。統計資料については、特に綿密に打ち合わせる必要があった。
佐藤	目盛りの取り方により視覚的に実際より誇張されるので、しっかりとしなければと思う。仮に幅が違って、その理由を押さえることが必要であった。
東雲中	生徒の顔合わせはどのようにして、そして、何回くらい行ったか。
佐藤	顔合わせは一度20分くらいの間に、TV会議を利用して男鹿南中2年2組の学級紹介と湯沢南中か

男鹿南 中	らは部活動の紹介を行っただけである。社会科の授業を共同で行ったのは、今日が初めてである。本時案の4「男鹿市と湯沢市の人口の共通点、相違点を確認する」の段階になり、両校の生徒とも自分が暮らしている地域を人口の面から詳しく分析した経験が無いことに初めて気が付いたと思う。このような経験が身近な自分の地域を様々な角度から調べていくよい動機付けとなったと思う。TV会議システムを使った共同学習を黒田、佐藤両先生が一つのパターンを提示した。
十和田 小	男鹿市では通っていた小学校が無くなっていったなど、生徒どうしが生の情報を交換できたことが効果的だった。両校の発表の中に高齢者の割合を入れるとか、10歳以下の子どもの話を入れるなど、共通点や相違点を比較するときには視点があれば、生徒は今日のねらいに迫れたのではないかと思う。
東大曲 小	生の声を聞くことができることが、TV授業の在り方につながっている。地域の特徴や問題点と対策を、自分たちで住んでいるところをどう耕していくかというふさと教育につながっている。
鶴舞小	授業のねらいに迫るために、事前にデータを送り、前時の最後にでも自分たちの市と比較することにより、疑問点や質問事項をまとめるとよいと思う。
栄小	TV授業は、授業を構成するときに授業前後の交流を十分にすることである。交流があって、授業が深まる。比較することを取り入れる授業は、題材によっては学習形態を一斉から小グループに変更し、相互に研究し合ってから情報交換を行うことも考えられる。そうすると、全部TV会議システムで行うのではなくて、接続しながらでも、導入、中間、終末の部分で相互にグループが調べたことを問いかけることができる。最後に、ビデオやパソコンを有効に活用することにより、生徒の興味・関心を高めることができる。失敗を繰り返しながら交流を行い、実践することが一番と思う。
東雲中	TVシステムを利用して行う交流や共同学習の定義付けを明確にするとよいのではないか。今日の授業は、共同学習としてどこが成立して、どこが不足していたのかを分析することにより、共同学習を考えるとよい。グラフは、比較しやすいようにパソコンで同じグラフを作ることが必要だった。
鶴舞小	画面を4分割して、パソコンによる両市の資料と両校の画面を並べることなど、カメラとパソコンを併用すると資料分析ができると思った。また、生徒の活動が活発になるように、途中でシステムを切断して、各学校で話し合う場面を設けることが大切であると思った。
栄小	昨年度、東大曲小と交流を行った。放課後や昼休みを利用して、全員が児童どうしで質問し合うなどした。交流のスタート時から柔らかい雰囲気で行うことができたので、慣らしが必要と感じた。
湯沢南 中	この間、東雲中と国語の共同学習を行った。事前に放課後を利用して自己紹介などをした。最初は、機械そのものに対する関心が強く、画面に映っている自分の姿を見て興奮したり、逆に萎縮したりした。授業前に1回は慣らししておいて、授業本来のねらいを目指すことが大切と感じた。
湯沢南 中	やりやすい教科、やりにくい教科があると思う。カメラが、いろいろ向いて動きがあるよりも、席とカメラの向きが固定している利用のスタイルが非常に向いているのではないかと思う。
鶴舞小	授業者の「～と比べて、～のようだ」の「～のようだ」という表現が気になった。先ほどから出ている資料の共通化と提示の仕方が解決できれば、もっとはっきりした表現で生徒に指導できる。
東雲中	児童生徒どうしだけでなく、教師どうしても交流ができれば非常によいのではないかと思う。
十和田 小	地区の社会科の研究会では、「教師は話しすぎるのではないか」「児童生徒を主体的に動かすことを目指そう」と話があった。TV授業でも、児童生徒を主役として活躍させる授業をする必要がある。
指導助 言	成果の一点目は、今までのインターネットTV授業は、センターの機能を活用した一方向の授業が多かったが、今日の授業で双方向の授業の在り方、すばらしさ、方向性が見えてきた。グラフの書式やグラフの提示の仕方、話し合いの仕方などの指摘は、そのとおりだと思うが、実践して初めてわかったことである。これからも、相手校に意見を発信し、感想を述べ合う段階から、共同で学習を構築する授業を展開できるとよい。二点目は、社会科という地理的な見方の基域、全域の概念をつかませる授業には、TV会議システムの利用が非常に有効である。授業では、県内の地域をいくつか取り上げて、県全体の特徴として位置付けてよいかを調べている。この調査がどの学校でも不足しているが、今日の授業では、見事に男鹿市と湯沢市の資料を使ってその特色を生徒に実感させていた。TV会議システムのよさを生かした単元構成と授業であった。課題としては、授業すべてをTV会議で行うのではなく、導入または終末の部分で使うこともあると思う。例えば、男鹿南中の生徒には、「なぜ男鹿市の減少が湯沢市の減少より激しいのか」などの課題が出てきた。また、湯沢南中の生徒にも「湯沢市は男鹿市より減少率が少ないのだろうか」という課題が出てきた。両方の発表から新しい課題が見え、その課題を解決することでさらに共同学習が深まる。TV会議システムを利用して、有効な単元とあまり効果が上がらない単元がある。これから半年の間に実践を積み、来年度の年間指導計画の作成時に、この部分ではTV会議システム使うと有効であるといえるように検証していただきたい。今日の授業は、今後のTV授業に示唆を与えるものでした。

(3) 各推進校における実践

平成17年1月までに実施された交流・共同学習の実践記録を教科別に紹介します。

実践記録2

十和田小学校第1学年1組，鶴舞小学校第1学年竹組 国語科（同校種間，作業型）
指導者 十和田小学校 鳥谷幸代，鶴舞小学校 齋藤由紀子

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・はっきりとした声で話し，当ててほしいものの特徴を聞き手にわかりやすく説明できる。（十和田小）
 - ・クイズの問題をよく聞き取り，質問したり応答したりしながらクイズを楽しむ。（鶴舞小）
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・ふだん接することのない相手に話す経験を通して，相手によりよく伝わる話し方を工夫したり，相手のどんな話でも受けとめて聞いたりする力を育てる。
- 3 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
 - ・国語科 「よくきいて，あてよう『わたしは，なんでしょう』」
 - (2) 単元（題材）の目標
 - ・当ててほしいものを選び，色や形，働き，役目などの特徴を聞き手にわかりやすく説明することができる。
 - ・特徴を聞き落とさないようにしながら，興味をもって聞くことができる。
 - ・質問したり，それに答えたりすることができる。
 - (3) 単元（題材）全体の展開 （十和田小）

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
9 / 21	16:00 ～				・ F A X で送付した指導案を基に，交流の方法を電話で打ち合わせた。
9 / 22	8:40 ～ 10:15	単独	・「わたしはなんでしょう」ゲームのやり方を理解する。	・教師のクイズに質問したり，教材文から答え方を見付けたりして，ゲームのやり方を知る。 ・ゲームの手順をはっきりさせ，ルールづくりをする。	・児童の質問に丁寧に答えたり，受け答えをしっかりと見て，過程を通してゲームのやり方がわかるように配慮する。
9 / 24	8:40 ～ 10:15	単独	・当ててほしいものの特徴を考えて「わたしはなんでしょう」クイズの問題を作ることができる。	・当ててほしいものを身の回りから選び，特徴を三つ挙げて，クイズの問題文を書く。 ・答えを提示するための絵をかく。 ・ペアで，出来上がった問題を出し合い，特徴がわかりやすく伝わるかどうかを考え，問題を必要に応じて手直しをする。	・問題文のヒントを順序よく提示できるように，工夫したシートを準備する。 ・実際に相手に向けて話す時間を保障し，話す練習や問題を手直しすることができるようにする。
9 / 24	16:00 ～				・手直した指導案を F A X で送付し，交流の内容や支援を電話で打ち合わせた。
9 / 27	11:35 ～ 12:20	単独	・問題をはっきりとした声で話し，問題の説明の仕方をよりよく工夫することができる。	・ゲームの約束を確かめる。 ・順番に前に出て，問題を出したり質問に答えたりする。 ・次時のよりよい発表に生せるように，問題を出す側，答える側で互いに感想を発表する。	・学年合同とし，互いの組で問題を出したり，答えたりする。 ・互いの話し方について，よいところを認め合い，高め合えるように，よい点を助言しながら進めるようにする。
9 / 28	10:50 ～ 11:30	共同	・問題をはっきりとした声で話すことができる。（十和田小） ・問題をよく聞いてゲームを楽しむことができる。（鶴舞小）	十和田小の児童の司会で進行 1 はじめのあいさつ 十和田小学校から 鶴舞小学校から 2 本時のめあてとゲームの約束を確かめる。 3 順番に前に出て，問題を出し，質問に答える。（十和田小） 問題をよく聞き取り，質問したり答えたりする。（鶴舞小） 4 感想発表とおわりのあいさつ	・問題を出す側，問題に答える側ともに相手に伝わる話し方ができるように見守り，必要に応じて助言する。 ・画面をよく見て考えながら聞くように，聞き手の児童にうながす。 【評価】はっきりとした声で相手に伝わるように話したり，答えたりすることができる。

9 / 29	8:40 9:25	単 独	・鶴舞小の友だちに手紙を書き、交流を振り返るとともに、次の交流に期待をもてるようにする。	・鶴舞小1年竹組に向けて、手紙を書く。	・用紙の表に、自分が作った「わたしはなんでしょうクイズ」を書き、裏に学習の感想や十和田小のことを知らせる手紙を書くようにする。
--------	--------------	--------	--	---------------------	---

4 実践を通しての提言

- ・ふだん接している相手に対する話す活動とは違い、相手に向けて緊張感をもって話すことができるとともに、相手を知るために話を真剣に受け入れて聞くことができる点が良い。特に、ふだんの友だちとの会話とは全く違うので、敬体「です・ます」で話すことをある程度公的な場のような雰囲気をもって行うことができた。
- ・リアルタイムで反応が伝わってくるのがTV授業のよさであり、怖さでもあると感じる。
- ・カメラを通して伝えられる映像の範囲が狭いため、また、映り具合が光に影響されるため、発表する場所や位置が制約されることがある。
- ・互いの地域の特色を生かした内容を取り入れて交流を進めると有意義なものになるのではないかな。

実践記録3

鶴舞小学校第3学年松・竹組、十和田小学校第3学年1・2組 国語科（同校種間、作業型）
指導者 鶴舞小学校 阿部麻衣子、菊地 薫、十和田小学校 仁科雅子、甲森匡一

- 交流、共同学習のねらい
 - ・標識について調べたことを十和田小のみんなに紹介したいという意欲をもち、相手にわかるように発表する。（鶴舞小）
 - ・標識について調べたことを鶴舞小のみんなに紹介したいという意欲をもち、相手にわかるように発表する。（十和田小）
- TV会議システム利用の必要性
 - ・自分たちで集めたり、調べたりした標識を、絵や紙芝居、カルタなどでまとめているので、実際に提示しながら説明することができる。クイズ形式で発表する場合は、相手に答えてもらうことができる。また、児童どうしの質問や感想の述べ合いができる。
- 実際
 - (1) 教科、単元名（題材名）
 - ・国語科 「調べたことを発表しよう」
 - (2) 本時の目標
 - ・標識について調べてまとめたことを、わかりやすく伝え合うことができる。
 - (3) 本時の展開

時間	学習活動と児童の動き	教師の支援及び評価
9:20 (10:45)	1 はじめのあいさつ 2 課題をつかむ。 標識について、調べたこと伝え合おう。	・話しやすいように教師が司会進行をする。
9:25 (10:50)	3 標識について調べたことを、十和田小の3年生に伝える。 ・相手にクイズを出したり、質問や感想を聞いたり答えたりする。	・相手に伝わる発表となるために、声の大きさや伝え方に気を付けるようにさせる。 ・特に工夫したところなどは、発表前にコマーシャルをするように勧める。
9:42 (11:07)	4 十和田小の発表を聞き、質問や感想を伝える。	・実物投影機を用意して、絵など伝えたいことがはっきり見えるようにする。 ・聞くときは、自分のまとめたものと比べてよい点や工夫している点を見付けるようにする。
10:00 (11:25)	5 交流の感想を発表して、振り返りをする。 標識について調べたことを、相手にわかるように伝え合うことができる。	・2校の発表交流をしてよかったことなど出し合い、また交流したいという気持ちをもたせたい。
10:05 (11:30)	6 終わりのあいさつ	

4 実践を通しての提言

- ・TV会議システムを使った伝え合いを計画したことで、児童は相手意識を明確にもつとともに「教えたい」「聞きたい」という意欲をもって学習を進めることができた。また、遠くはなれた3年生の調べ学習のまともを聞いて、自校だけでは気付くことができなかった内容を知ることができたとき、児童は新鮮な気持ちで発表を聞くことができた。
- ・TV会議システムを通して発表のため、早口だとよく聞き取ることができない場合もあった。そのために聞く側の集中力がとぎれてしまう場面もあったので、発表の途中でも教師が間に入って話し方を修正させていくことが必要だと感じた。
- ・25時間の単元計画なので、見通しをもつために導入を自校が前もって行ってから、相手校に連絡をとった。しかし、調べ活動の時間数にずれが出てしまった。最初の導入の時間を一緒に行うことができたなら、その後の時間数も同じように進めることができたのではないかと考える。

実践記録4

東大曲小学校第2学年、十和田小学校第2学年1・2組 国語科（同校種間、作業型）

指導者 東大曲小学校 若林淳子、十和田小学校 藤嶋 孝子、小山田健一

1 交流，共同学習のねらい

- ・TV会議システムを利用して、十和田小の友だちと一緒に楽しく勉強しながら、親しみをもつことができる。
- ・自分たちが考えた言葉遊びの遊び方を相手校にわかりやすく説明したり、それを実際に遊んで楽しんだりしながら、言葉遊びのおもしろさを味わい、言葉への興味・関心、理解を深めることができる。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・TV会議システムを通して初めて会う遠く離れた学校の友だちに、自校のことをわかりやすく教えたり、一緒に言葉遊びのゲームをしたりして仲良くなるとともに、国語の学習を互いに楽しんだり深めたりすることができる。

3 実際

(1) 教科，単元名（題材名）

- ・国語科 「みんなで作って、みんなで遊ぼう ことばあそび大会」

(2) 単元（題材）の目標

- ・いろいろな言葉遊びを集めて、遊び方を理解する。
- ・言葉遊び大会の計画を話し合い、必要なものを作ったり遊び方を説明する練習をしたりして準備する。
- ・言葉遊び大会を開いて、みんなで楽しむ。その中で言葉への興味・関心、理解を深めることができる。

(3) 単元（題材）全体の展開

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
2 / 16 まで		単独	・楽しい言葉遊び大会になるように話し合い、準備をする。	・共同学習でどんな言葉遊び大会にしたいかを話し合う。 ・言葉遊び大会をするための準備をする。（説明の練習なども） ・自校を紹介するための準備や練習をする。	・TV会議システムや電話を使って、事前の打ち合わせを3回した。 ・TV会議システムを使った方が有効な言葉遊びを児童に考えさせる。
2 / 16	10:50 ~ 11:50	共同	・自校のことや言葉遊びのやり方について、わかりやすく説明することができる。 ・いろいろな言葉遊びを楽しみながら、言葉への興味関心、理解を深めることができる。	1. 互いに学校紹介をする。 2. 言葉遊びゲームをする。 ○ 十和田小から ・絵描き歌 ・さよなら三角 ○ 東大曲小から ・ことばのかいだん ・ことばのへんしん 3. 感想発表をする。	・TV会議システムを通してよくわかるように、大きな声で発表するように指導した。 ・4つの言葉遊びをみんなで楽しむことができた。
事後		単独		・交流学习についての振り返りをする。 ・時間が少なくて交流でできなかった言葉遊びをする。	

4 実践を通しての提言

- ・遠くに行くのは難しい県北の学校の友だちと、TV会議システムを通してリアルタイムに交流できることは素晴らしい。友だちを増やすためにも、学習を広めたり深めたりするためにも、これからもこのシステムをいろいろと活用したいと思った。来年度もまた十和田小と交流したいし、まだ交流していない学校とも交流したい。
- ・教科等の共同学習の前に1時間でも時間をとって、自己紹介などの顔合わせで仲良くなる機会を設けた方がよかった。

- ・言葉遊びの時間が少し足りない感じもしたが、あまり長い時間延々とやるよりも、今回のようにある程度時間を決め、内容を絞ってやった方がメリハリがあってよいと思った。
- ・紙に書いた物を映す時に、カメラを合わせるのが難しかった。また、教室の窓からの光の関係で画像が鮮明に写らない場面が多かった。画像の動きが、実際のタイミングとずれてしまう点も課題だと思った。相手方の人数が多く（教室も広い）、どれくらいの音量で聞こえているのかわからないので、何回も、「聞こえていますか。」と言い合わなければならなかった。今回は、機器操作をしてくれる人がいて助かったが、1人で授業と機器操作をするのはかなり難しかった。このように、ハード面でたくさんの課題があると思う。

実践記録 5

鶴舞小学校第3学年梅組，栄小学校第3学年 国語科（同校種間，作業型）

指導者 鶴舞小学校 伊藤 実，栄小学校 細谷隆尚

- 交流，共同学習のねらい
 - ・標識について調べたことを栄小のみんなに紹介したいという意欲をもち，相手にわかるように発表する。（鶴舞小）
 - ・鶴舞小の標識についての調べ方やまとめ方を紹介してもらうことにより，自分たちの調べ学習（まとめや発表方法を含む）に意欲をもつ。（栄小）
- TV会議システム利用の必要性
 - ・自分たちで集めたり調べたりした標識を，絵や紙芝居，カルタなどでまとめているので，実際に提示しながら説明することができる。クイズ形式で発表する場合は，相手に答えてもらうことができる。また，児童どうしの質問や感想の述べ合いができる。
- 実際
 - 教科，単元名（題材名）
 - ・国語科 「調べたことを発表しよう」
 - 本時の目標
 - ・標識について調べてまとめたことを，栄小のみんなにわかるように発表することができる。
 - 本時の展開

時間	学習活動と児童の動き	教師の支援及び評価
9:20	1 課題をつかむ。 標識について，調べたことを栄小のみんなにわかるように発表しよう。	・学習課題を確認した後で，回線をつなぐ。
9:25	2 はじめのあいさつ 3 標識について調べたことを，栄小の3年生に発表する。 ・相手にクイズを出したり，質問や感想を聞いたり答えたりする。	・相手に伝わる発表となるために，声の大きさや伝え方に気を付けるようにさせる。 ・特に工夫したところなどは，発表前にコマーシャルをするように勧める。 ・聞くときは，自分のまとめたものと比べてよい点や工夫している点を見付けるようにする。
9:55	4 交流の感想を発表して，振り返りをする。 6 終わりのあいさつ 標識について調べたことを，相手にわかるように発表することができる。	・2校の発表交流をしてよかったことなど出し合い，また交流したいという気持ちをもたせたい。

- 実践を通しての提言
 - ・当初の計画では，互いの調べ学習の成果を発表し合う予定だったが，鶴舞小が発表し，栄小は聞き手になる授業となった。ねらいが異なるため，成果が出るか心配したが，児童が予想以上に意欲的に取り組んでいた。この時期の児童にとって同じ3年生どうしの交流は，抵抗は少ないのかもしれない。相手のよいところを積極的に見付け，表現してくれたので，楽しく共同学習ができた。
 - ・児童の感想や質問に出なかったポイントは，教師が補助的に質問したり，感想を述べることで押さえることができた。事前の打ち合わせを2回したので，より支援計画が密になり，スムーズにできた。
 - ・時間的な制約で，一部のグループの発表になったため，後半集中力を欠いてしまう児童がみられた。「どんな方法で調べたか」の質問には全体で答えるようにし向けたが，発表が一部の児童で終わらないような学習過程の工夫が必要と感じた。

実践記録 6

十和田小学校第5学年1組，鶴舞小学校第5学年松組 国語科（同校種間，作業型）

指導者 十和田小学校 小林裕実子，鶴舞小学校 赤塚智哉

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・相手意識をもってインタビューの学習をすることにより，国語科の「話すこと・聞くこと」ことにおけるコミュニケーション能力の育成の一助とする。
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・全く知らない学校や地域のことについて，相手を見てインタビューし合い，目的や相手意識を高める。
 - ・児童が同じ単元における他校の児童の学習の様子を知り，以後の学習への意欲付けとする。
- 3 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
 - ・国語科 「インタビュー名人になろう」
 - (2) 単元（題材）の目標
 - ・目的や内容を明確にし，相手に応じて話の組み立てや言葉遣いを考えてインタビューすることができる。
 - (3) 単元（題材）全体の展開 （十和田小）

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
12 / 7	10:45 ～ 11:30	単独	・CDを聞き，インタビューにおいて気を付けたいことを知る。	・インタビューのよさと難しさを考える。 ・インタビューのCDを聞き，気を付けることを考える。	・特に相手の言ったことを受けて話すことが大事であることに気付かせる。
12 / 8	9:30 ～ 10:15	単独	・インタビューを行う計画を立てることができる。	・インタビューする相手と内容をを決める。（班ごと） 鶴舞小2班，校長先生2班，専科の先生2班，保健の先生2班	・自分たちだけでなく，学級 みんなが興味をもてそうな内容にするよう助言する。
12 / 10	8:40 ～ 9:25	単独	・内容や話し方の観点到に気を付けて，インタビューをすることができる。	・インタビューでの話し方の観点を確認する。 ・各班で，一人ずつインタビュー練習をする。	・観点を記したワークシートを使用し，留意点を意識させる。
12 / 13	10:45 ～ 11:30	単独	・内容や話し方の観点到に気を付けて，インタビューしたり見たりすることができる。	・専科の先生にインタビューしたり見たりする。 ・インタビューしたり見たりした感想を書く。	・見る側にも観点到に気を付けて見るようにさせる。
12 / 14	9:30 ～ 10:15	共同	・内容や話し方の観点到に気を付けて，インタビューしたり見たりすることができる。	1 本時の課題の確認 内容や話し方に気を付けて，インタビューをしたり見たりしよう。 2 インタビューをし合う 十和田小A班が鶴舞小に <部活について> 鶴舞小が十和田小に <十和田小について> 3 インタビューを見ての感想を発表し合う。 4 インタビューをし合う 十和田小B班が鶴舞小に <本荘市の名所名物について> 鶴舞小が十和田小に <遊びやスポーツについて> 5 今日の授業についての感想を発表し合う。	・学習の流れは略案を基に電話で2回程打ち合わせをした。 ・本時の課題を両方の児童全員で読む。 ・インタビューの内容は互いに事前にFAXで教え合った。 ・内容や話し方の観点は各学校で前時までに確認しておく。 ・インタビュアーも受ける側も一人ずつとし，他の児童はそれを観点到に沿って見る。 ・観点到に沿って気付いたことやわかったこと，友だちのよさの感想になるようにする。 【評価】内容や話し方の観点到に気を付けて，インタビューしたり見たりすることができる。
12 / 15	9:30 ～ 10:15	単独	・内容や話し方の観点到に気を付けてインタビューしたり見たりすることができる。	・養護教諭の先生にインタビューしたり見たりする。 ・インタビューしたり見たりした感想を書く。	・前時の交流で見付けたよい点や改善点を確認し，意識を高めてから行う。

12 / 16	9:30 10:15	単 独	・ 内容や話し方の観 点に気を付けて、 インタビューした り見たりすること できる。	・ 校長先生にインタビューしたり 見たりする。 ・ インタビューしたり見たりした 感想を書く。	・ 今までのインタビューを振り 返り、相手の話を受けようと する友だちのがんばりを認め ることができるようにする。
---------	---------------	--------	--	--	--

4 実践を通しての提言

- ・ インタビューの学習において、目的意識や相手意識が高まり、計画段階、交流当日の意欲的な学習につながった。また、相手校のインタビュアーの話し方がねらいにかなっていたので、次時からのインタビューの参考にし、よりよいインタビューを目指すことができた。
- ・ 初めて会っていきなりインタビューをし合うというのは、児童に多大な緊張を与えた。親しげな雰囲気ですることができるようにするためには、事前に交流し合う機会をもつことが必要であった。

実践記録 7

鶴舞小学校第4学年松組，十和田小学校第4学年1組 社会科（同校種間，発表型）
指導者 鶴舞小学校 佐藤睦子，十和田小学校 佐々木麻実

1 交流・共同学習のねらい

- ・ 自分たちが住んでいる市や近隣の町の産業の様子，人々のくらし，まちづくりについて調べたことを発表し合う中でそれぞれの特色に気付き，県全体の特色について理解できるようにする。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・ それぞれに調べたことを遠隔地の小学校の友だちに，TV会議システムを利用して相手の反応を見ながらグラフや写真などを提示して伝えとともに，同学年の他学級と合同で共同学習を行うことにより県北，中央，県南の三地区の情報をリアルタイムに得て県全体の特色を理解する。

3 実際

(1) 教科等名，単元（題材）名

- ・ 社会科 「わたしたちの県とまちづくり」

(2) 単元（題材）の目標

- ・ 自分たちの住む県に関心をもち，意欲的に調べたり，伝えたりすることができる。
- ・ 地域における社会的事象の特色や相互の関連などについて考えることができる。
- ・ 地図や各種の具体的資料を効果的に活用し，調べたことを表現することができる。
- ・ 県内の特色ある地域の社会的事象を調べ，県全体の特色をつかむとともに，他県や外国との結び付きを理解することができる。

(3) 単元（題材）全体の展開（鶴舞小）

月 日	時間	形 態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
11 / 11	16:30 16:50				・ 単元全体の計画，本時の流れ（発表形態），時間配分について確認し合った。
11 / 15 12 / 10	10 時間	単 独	・ 自分が住んでいる 県に関心をもつ。 ・ 資料を集めたり， 調べたり，考えたり， まとめたりする力を 付ける。 ・ 自然を生かしてく らしていることを理 解する。	・ オリエンテーション ・ 本荘市周辺の位置と自然の様子 を調べよう。 ・ 本荘市周辺の産業やくらし，ま ちづくりについて調べよう。	・ 秋田県の位置，県内の市町村 の位置関係や方位，地形につ いて全体で確認する。 ・ 本荘市とその周辺の自然，産 業，くらしを大まかに扱い， その後内容を選択し，個々に 詳しく調べて発表の準備をす る。
12 / 13	10:30 11:30	共 同	・ 調べたことを資料 などを提示しながら わかりやすく伝え る。	・ 学校紹介 ・ 地域の特色について発表 ・ 互いに感想発表	・ できるだけ児童が学習を進め るようにし，教師はカメラの 切り替えや補足程度とする。
12 / 15	9:00 10:00	共 同	・ 遠隔地の地域の特 色を理解する。	・ 学校紹介 ・ 地域の特色について発表 ・ 互いに感想発表	・ 鶴舞小4年梅組と栄小との共 同学習を見ることで，県南の 特色について理解を深める。
3学期		単 独	・ 秋田県全体の特色 を理解する。	・ 秋田県全体の自然・産業・交通・ 世界との関連等を調べる。	・ 共同学習の内容に触れて，ま とめに生かすようにする。

4 実践を通しての提言

- 教科書や資料などでの学習と違って、同年齢の児童の手で作った資料やまとめを基にした発表だったので、児童の興味・関心が高まり、学習に集中できた。また、十和田小の児童の様子や反応をスクリーンに映して見ながら、自分たちの発表画面をＴＶに映して確認できたので、相手にわかりやすくよりよい発表にしようという気持ちの高まりが見られた。共同学習は意欲の向上に役立った。
- 特産品など実物を書画カメラに映し出した画像は鮮明で見やすくわかりやすかったが、児童の書いた資料の文字が小さかったり反射したりして見にくいこともあったので、カメラを固定するなど位置と向きを考慮するなどの工夫が必要だと思った。特に、ビデオカメラは映像が揺れやすいので、できれば固定した方がよいと思われた。相手にどのように映っているのかの確認が必要だと思った。
- 発表の中でお囃子の音を流しながら説明してくれたところがあったが、説明が全く聞き取れなかった。相手にどのような音で聞こえているのかを確認する必要がある。しかし、その場でＴＶ会議システムを使ってやり直しがきくところが、またこの交流のよさでもある。
- 画面を通してだが、他校の授業の様子や発表態度、発表方法、聞く態度を見ることが、今後の児童の学習に生きてくると思われる。

実践記録 8

鶴舞小学校第4学年竹組，十和田小学校第4学年2組 社会科（同校種間，発表型）
指導者 鶴舞小学校 土田亮輔，十和田小学校 塚本定明

- 交流・共同学習のねらい 実践記録4と共通
- ＴＶ会議システム利用の必要性 実践記録4と共通
- 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
・社会科 「わたしたちの県とまちづくり」
 - (2) 単元（題材）の目標 実践記録4と共通
 - (3) 単元（題材）全体の展開 （鶴舞小）



月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
11 / 11	16:30 ～ 16:50				・単元全体の計画，本時の流れ（発表形態），時間配分について口頭で確認し合った。
11 / 15 ～ 12 / 14	10時間	単独	- 自分が住んでいる県に関心をもつ。 - 資料を集めたり，調べたり，考えたり，まとめたりする力を付ける。 - 自然を生かしてくらしていることを理解する。	- オリエンテーション - 本荘市周辺の位置と自然の様子を調べよう。 - 本荘市周辺の産業や暮らし，まちづくりについて調べよう。	- 秋田県の位置，県内の市町村の位置関係や方位，地形について全体で確認する。 - 本荘市とその周辺の自然，産業，くらしを大まかに扱い，その後内容を選択し，個々に詳しく調べて発表の準備をする。
12 / 15	9:00 ～ 10:00	共同	調べたことを資料などを提示しながらわかりやすく伝える。	- 学校紹介 - 地域の特色について発表 - 互いに感想発表	鶴舞小4年梅組と栄小との共同学習を見ることで，県南の特色について理解を深める。
12 / 16	10:30 ～ 11:30	共同	遠隔地の地域の特色を理解する。	- 学校紹介 - 地域の特色について発表 - 互いに感想発表	できるだけ児童が学習を進めるようにし，教師はカメラの切り替えや補足程度とする。
3学期		単独	秋田県全体の特色を理解する。	秋田県全体の自然・産業・交通・世界との関連等を調べる。	共同学習の内容に触れて，まともに生かすようにする。

4 実践を通しての提言

- 児童が自分で準備した資料やまとめを使って発表したことが，意欲の高まりにつながった。また，それによって相手にわかりやすく伝えようという気持ちの高まりが見られた。
- 写真や実物の資料を書画カメラなどの教育メディアを使うことで見やすく提示できた。ＴＶ会議システムを工夫して利用することで，相手にどのように資料が見えるかを確認しながら発表の練習ができた。
- リアルタイムで交流しているので，発表に対する質問や感想を直接交換できるのがよかった。
- 他校の様子や発表態度，発表方法，聞く態度を見ることが，今後の児童の学習に生きてくると思われる。

実践記録 9

鶴舞小学校第4学年梅組，栄小学校第4学年 社会科（同校種間，発表型）

指導者 鶴舞小学校 嵯峨千鶴子，栄小学校 和賀由紀

- 1 交流・共同学習のねらい 実践記録4と共通
- 2 TV会議システム利用の必要性 実践記録4と共通
- 3 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
・社会科 「わたしたちの県とまちづくり」
 - (2) 単元（題材）の目標 実践記録4と共通
 - (3) 単元（題材）全体の展開 （鶴舞小）

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
11 / 16	16:30 ～ 16:50				・単元全体の計画，本時の流れ（発表形態），時間配分について口頭で確認し合った。
11 / 15 ～ 12 / 14	10時間	単独	・自分が住んでいる県に関心をもつ。 ・資料を集めたり，調べたり，考えたり，まとめたりする力を付ける。 ・自然を生かしていることを理解する。	・オリエンテーション ・本荘市周辺の位置と自然の様子を調べよう。 ・本荘市周辺の産業や暮らし，まちづくりについて調べよう。 ・調べたことをわかりやすくまとめる。	・3年生での学習を想起しながら，合併する7町まで範囲を広げて調べ学習をする。 ・個々の課題について資料を集めて調べ，TV画面で提示したときにわかりやすい表現となるように工夫する。
12 / 15	9:00 ～ 10:00	共同	・調べたことをTV会議システムを利用して，わかりやすく伝える。	・学校紹介 ・地域の特色について発表 ・互いに感想発表	・できるだけ児童が学習を進めるようにし，教師はカメラの切り替えや補足程度とする。
12 / 16	10:30 ～ 11:30	共同	・相手校の発表を見て，他の地域の特色を理解する。	・学校紹介 ・地域の特色について発表 ・互いに感想発表	・鶴舞小4年竹組と十和田小4年2組の共同学習を参観し，県北の特色を理解する。
3学期 (12時間)		単独	・秋田県全体の特色を理解する。 ・これからの秋田県について考える。	・秋田県全体の自然・産業・交通・世界との関連等を調べる。	・共同学習で学んだことをまとめに生かし，これからの秋田県について考え，情報を発信していく。

4 実践を通しての提言

- ・相手にわかりやすい表現をするために，児童の工夫が大切なのはもちろんだが，支援する側の技術も重要であった。例えば，カメラを固定して発表する児童が移動していきようにしたやり方では，カメラワークがスムーズだった。それに対して，移動せずカメラを振ってズームを使ったやり方では，画面がぶれて見にくかった。また，資料も壁に固定したり書画カメラを使ったりした方が見やすいことがわかった。実物を提示する際も，カメラを持っている児童の服の色と重なって見にくいところがあった。パソコンやビデオカメラの利用も考えられる。まず，指導者が，どのような提示の仕方が有効なのかを研修する必要がある。
- ・ふだん見ているTVと違って双方向であることをより意識付けなければならない。相手の発表を見ながらの欠伸，にやにやした笑いなどが気になった。ふだんの授業以上に「反応して聞く」ことに重きをおきたい。
- ・打ち合わせの際，相手の表情を見ながら話し合うことができるのは互いの理解を深める上で有効であった。しかし，短時間での話し合いのため，行き違いも多く，ねらいがややずれてしまった感がある。FAXや電子メールをもっと利用すればよかった。
- ・TVを通して相手の反応を見ながら発表できることで，より相手を意識した発表を心がけ，意欲的に取り組むことができた。

実践記録10

鶴舞小学校第5学年竹組，栄小学校第5学年 理科（同校種間，発表型）

指導者 鶴舞小学校 工藤伸子，栄小学校 神原欣也

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・栄小から，上・中流部の川の様子を紹介してもらうことにより，上・中・下流部の流れる水の働きをまとめることができる。（鶴舞小）
 - ・鶴舞小から，中・下流部の川の様子を紹介してもらうことにより，上・中・下流部の流れる水の働きをまとめることができる。（栄小）

2 TV会議システム利用の必要性

- ・調べ活動で撮ってきた写真や映像を使いながら，上流・中流・下流の水の働きについて情報交換を行う。

3 実際

(1) 教科等名，単元（題材）名

- ・理科 「流れる水のはたらき」

(2) 単元（題材）の目標

- ・土地のつくりと変化の様子について，自然災害などと関連付けながら，流れる水の働きを意欲的に調べようとする。
- ・実験の結果から，流れる水の働きについてまとめることができる。また，増水による川原の変化，災害を防ぐための工夫，川に見られる地形や石の様子などを流れる水の働きと関係付けて考えることができる。
- ・地面に水を流す実験の結果や川を観察した結果を的確に記録することができる。
- ・流れる水には，土地を削ったり，石や土などを流したり，積もらせたりする働きがあり，それには，水の速さや水量によって変わることを理解する。また，雨の降り方によって，流れる水の速さや水量が変わり，川原や川岸の様子が変化する場合があることを理解することができる。

(3) 単元（題材）全体の展開（鶴舞小）

月 日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
11 / 2	10:30 ～ 11:15	単 独	・流れる水の働きに 関する課題をもつ ことができる。	・写真等を見て，流れる水の働き についての課題をもつ。	・児童から流れる水の働きの「削 る」「流す」「積もる」のキー ワードを引き出す。
	11:20 ～ 12:05	単 独	・課題解決のために 実験計画を立てる ことができる。	・課題についての予想や実験計画 を立てる。	
11 / 5	10:30 ～ 12:05	単 独	・計画に基づいて実 験をし，記録する ことができる。	・地面に水を流して，水の流れと 地面の様子を観察する。（校外 学習）	・流れる水の働きがよくわかる ところを写真で記録させる。
11 / 8	9:20 ～ 10:05	単 独	・実験結果から，水 の働きをまとめる ことができる。	・実験結果を基に，流れる水の働 きについてまとめる。	・三つの働きを表で比較しなが らまとめさせる。
11 / 9	11:20 ～ 12:05	単 独	・実際の川を調べる 計画を立てること ができる。	・課題について予想をもち，実験 方法を立てる。	・地面の実験を生かす。
11 / 11	9:20 ～ 11:15	単 独	・計画に基づいて実 験をし，記録する ことができる。	・子吉川（西滝沢・河口）に出か け，調べ活動を行う。（校外学 習）	・計画通りに調べ活動を行うこ とができたかを確認する。
11 / 12	10:30 ～ 12:05	単 独	・調べ活動の結果か ら，川の流れる水 の働きがわかり， 上流部の川の様子 を予想することが できる。	・実験結果をまとめ，上流部の川 の様子や流れる水の働きの様子 を予想する。	・自分たちが撮ってきた写真を見 ながら，結果をまとめると 効率的であることを助言する。
11 / 15	10:45 ～ 11:30	共 同	・上流部と中・下流 部の流れる水の働 きがわかる。 （積もる：曲流部 の外側と内側の流 れの速さの違い）	・栄小との交流を通して，上流部 と中・下流部の流れる水の働き （積もる：曲流部の外側と内側 の流れの速さの違い）を話し合 う。	・事前の打ち合わせは，電話で 行う。 ・打ち合わせ資料は，FAXで 送付し，放課後に本時の反省 と次時の打ち合わせを行う。
11 / 16	10:30 ～ 11:15	共 同	・上流部と中・下流 部の流れる水の働 きがわかる。 （流す，削る）	・栄小との交流を通して，上流部 と中・下流部の流れる水の働き （流す，削る）を話し合う。	・授業細案を送付し，昨日との 変更点を確認する。放課後に 電話で本時の反省を行う。

11 / 25	13:15 ～ 14:00	単 独	・ 増水によって、土地が変化することがわかる。	・ 資料で、増水による災害や災害を防ぐための工夫についてまとめる。	・ 学校にあるビデオを活用する。
11 / 26	11:20 ～ 12:05	単 独	・ 流れる水の働きと土地の変化の関係についてまとめることができる。	・ 流れる水の働きのまとめをする。	・ 各児童の理解度がわかるように、「水の旅」というテーマで画用紙に絵と図でまとめさせる。

4 実践を通しての提言

- ・ 本校が校外学習で確かめることができなかった上流の川の水の動きを、相手校は下流の川の水の動きの様子を、映像等を見ながら確かめることができたことは、今回の交流のメリットだったと思う。
- ・ ただ、事前に F A X で質問事項を交換し合っていたものの、交流の 2 時間の中だけでは、互いの調べたことを伝え合い、簡単な質問や感想等の交流を行うだけで精一杯であった。今回のような授業の場合は、互いの学校事情もあり調整が難しいと思うが、導入から一緒に交流しながら学習を同一歩調で進めることで、より効果的な共同学習が行えると思う。今回は、相手校が 1 週間ほど早く本単元に入ったことで、共同学習の日まで難儀しながら進度を調節されたとのことであった。相手校には感謝の気持ちで一杯である。

実践記録11

男鹿南中学校第 1 学年 1 組，湯沢南中学校第 1 学年 4 組 理科（同校種間，発表型）

指導者 男鹿南中学校 西村 隆，湯沢南中学校 高橋典夫

1 交流・共同学習のねらい

- ・ 「大地の変化」で学習した内容を，地域の自然を基に互いに発表して，理解を深める。

2 T V 会議システム利用の必要性

- ・ 離れた 2 地域で共同学習を行うことにより，地層の空間的な広がりを理解する。
- ・ 地域の自然に見られる地質の様子を発表し合うことで，共通性と特殊性を理解する。

3 実際

(1) 教科等名，単元（題材）名

- ・ 理科 「大地の変化」

(2) 単元（題材）の目標

- ・ 地域の自然に見られる地質現象を互いに発表しながら，学習内容の理解を深める。
- ・ 質疑応答や感想発表を通して生徒の交流を深める。

(3) 単元（題材）全体の展開（男鹿南中）



月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
10 / 下旬	放課後				・ 共同学習の実施に向けて授業者どうして打ち合わせをした。 ・ 単元・題材等を検討した。
12 / 6	11:00 ～ 11:30				・ T V 会議システムを利用して事前の打ち合わせをした。 ・ 両校の発表内容を検討した。 ・ 授業の進め方を検討した。
12 / 9	9:50 ～ 10:35	共同	・ 地域の自然に見られる地質現象を発表し合って，学習内容の理解を深める。	・ 次の学習内容について，互いに発表し合う。 ア 火山について イ 地層について ウ 化石について エ 不整合について ・ 質疑応答をする。 ・ 感想発表をする。	・ 授業担当者は，司会を行い，スムーズに学習が進むように配慮した。 ・ 各発表は，コンピュータで鮮明な画像を送り，大画面で資料が見られるように配慮した。 ・ 共同授業の評価は，生徒の感想等で行うようにした。

4 実践を通しての提言

- ・ T V 会議システムを利用した共同学習では，互いに得るものがある単元や題材を検討し選択する必要がある。

実践記録12

東大曲小学校第1学年，鶴舞小学校第1学年梅組 生活科（同校種間，発表型，作業型）
指導者 東大曲小学校 小笠原暢子，鶴舞小学校 加藤優子

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・はじめて会う人に自分の学校や自分のことを話すことができる。
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・TV会議システムを利用することで，相手にとってよりわかりやすい話し方や，相手の話し方のよい所を知る。
- 3 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
 - ・生活科 「お友だちになろう」
 - (2) 単元（題材）の目標
 - ・自分の学校の施設や人に関心と愛着をもつ。
 - ・他校の人のことを知り，自分たち以外にも同じ1年生がいることに気付くことができる。
 - (3) 単元（題材）全体の展開 （東大曲小）



月 日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
9 / 6	16:00 ～ 17:00				・TV会議システムを使い，鶴舞小と授業のねらいや流れについて打ち合わせをした。 ・相手校への質問を事前に知らせ，それに答える形式で紹介や発表をすることとした。
9 / 15	11:40 ～ 12:00	共同	・交流する学校や学級の様子を知る。	・実際にTV会議システムを使ってあいさつをしたり，簡単なジャンケンゲームをした。	
9 / 22	9:20 ～ 10:05	共同	・TV会議システムを介して顔を合わせることで一緒に勉強しようとする意欲と親しみの気持ちをもつことができる。 ・自分たちの学校や地域について質問されたことをはっきり相手に聞こえるように答えることができる。	1 画面を通して顔を見合いながらあいさつをする。 2 グループごとに自己紹介の後に相手への質問と回答をやりとりする。 3 各校1曲ずつ歌の交換をする。 4 別れのあいさつをする。	・教師も一緒に声を出す。 ・通信先の相手を意識させながら相手に聞こえる話し方ができるように励ます。 ・発表者以外の児童には発表者の発言を静かに聞くことができるように支援する。 ・感謝を込めて拍手をするように声をかける。 ・離れた場所にいる同じ1年生どうして交流できたことの喜びを感じさせる。 【評価】秋田県にも同じ1年生がいることに気付く。

- 4 実践を通しての提言
 - ・相手の表情や声が直ちにこちらに伝わるTV会議システムは，交流学习の一つの手段として大いに活用できると思う。
 - ・TV会議システムを利用し，伝達することを意識して発表を工夫することは，1年生の児童にとって「相手のことを考える」という点で意義があった。
 - ・TV会議システムを利用しての交流を「もっと相手のことを知りたい，自分のことを伝えたい」という意欲へつげていくことで，TV会議システムを日常的な学習の広がりへのきっかけにしていきたい。
 - ・画像の動きが実際のタイミングと少しずれてしまい，相手と同時に合わせた動きをしづらいので，活動内容の幅が限られてしまう感がある。
 - ・担任がTV会議システムを操作しながら授業を進めるのは難しい。操作担当者は絶対に必要である。

実践記録13

鶴舞小学校第1学年松組，栄小学校第1学年 生活科（同校種間，発表型）

指導者 鶴舞小学校 佐々木由佳子，栄小学校 和田 知子

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・それぞれの小学校の周囲にある落ち葉や木の実など，秋の素材を使って作った物や遊びを紹介し合い，次の遊びに生かすことができようにする。
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・自分たちの公園には無い素材や気付かなかった遊びを聞き合い，紹介された遊びをやることで自分たちの遊びを広げる。
- 3 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
 - ・生活科 「あきとあそぼう」
 - (2) 単元（題材）の目標
 - ・秋の公園での遊びや草花，木，虫などの観察を通して，自然や生活に見られる季節の変化に気付くことができる。
 - ・落ち葉や木の実などで遊んだり，遊ぶものを作ったりして友だちと一緒に楽しく遊ぶことができる。
 - (3) 単元（題材）全体の展開（鶴舞小）

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
9 / 24	16:30 / 17:00				・電話で打ち合わせ 互いの発表の内容，時間配分，活動の流れ
10 / 15	9:00 / 9:45	共同	・秋の素材を使って作った物や遊びを紹介することができる。	・各校の紹介 ・鶴舞小のあそび紹介 質問 感想 ・栄小のあそび紹介 質問 感想 ・感想発表	・「やってみたい。」「すごいなあ。」と思うところを見付けるように助言する。 【評価】相手にわかりやすく，はっきりと発表することができる。

- 4 実践を通しての提言
 - ・相手校の発表への質問や感想発表をすることで一方的な発表にならず興味をもって見いたり聞いたりできる。
 - ・カメラの画面だけでなく，パソコンの画像，ビデオ，写真などいろいろな提示があつてよかった。
 - ・発表の声，視線，児童による資料の提示は経験を重ねることで少しずつわかっていくようだった。
 - ・生の感動の声が伝わりにくいもどかしさがある。

実践記録14

鶴舞小学校第2学年松組，栄小学校第2学年 生活科（同校種間，発表型）

指導者 鶴舞小学校 齋藤奈保子，栄小学校 松本美由紀

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・町探検で見付けたことを栄小の2年生に知ってもらいたいという願いをもって，紹介する。（鶴舞小）
 - ・鶴舞小の周囲や地域の様子を聞くことにより，自分たちの地域への関心を高める。（栄小）
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・生活科の町探検で作成した絵や写真を実際に使いながら，説明やクイズを行う。また，発表後にすぐに感想や質問を聞く。
- 3 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
 - ・生活科 「わくわく どきどき 町たんけん！」
 - (2) 本時の目標
 - ・町探検で見付けたものや体験したことを栄小の2年生に知ってもらいたいという願いをもって，紙芝居やペーパースーツなどで紹介することができる。
 - (3) 本時の展開

時間	学習活動と児童の動き	教師の支援及び評価
9:20	1 はじめのあいさつ	・発表する児童の顔が見えるように，場の設定を工夫する。 ・質問に答える際にわかりやすく伝えられるように，探検の写真を準備する。 【評価】自分で見付けたものや体験したことを栄小の2年生に伝えようと発表したり，質問に答えたりすることができる。 ・前もって発表する児童を決めておく。
9:25	2 町探検で見付けたものや体験を栄小に紹介する。	
	・本荘公園，アクアパル，住吉公園，児童館と花おばさん，絵本のお部屋	
	栄小の2年生の質問に答えたり，感想を聞いたりする。	
	3 本荘〇×クイズを出す。	
9:50	4 今日の交流会の感想を発表し合う。	
9:55	5 おわりのあいさつをする。	

4 実践を通しての提言

- ・低学年では発表の時間を短くしたい。発表する場合、内容を厳選してポイントを絞り込むことが必要である。途中で質問や感想発表を入れたりして、一方的な発表とならないようにしたい。

実践記録15

栄小学校第2学年鶴舞小学校，第2学年松組 生活科（同校種間，発表型）

指導者 栄小学校 松本美由紀，鶴舞小学校 齋藤奈保子

1 交流，共同学習のねらい

- ・学校のまわりで見付けたことを鶴舞小の2年生に知ってもらいたいという願いをもって，紹介することができる。（栄小）
- ・栄小の発表に興味をもって，楽しみながら聞くことができる。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・栄小の周辺のことについて調べたことを相手意識をもって発表できるようにしたいと考え，離れたところに住んでいて，しかも地域環境が異なる鶴舞小の児童と交流する。

3 実際

(1) 教科，単元名（題材名）

- ・生活科 「栄小学校のまわりのことをしょうかいしよう！」

(2) 単元（題材）の目標

- ・自分たちの住む地域に興味・関心をもち，探検して気付いたことや自慢したいことなどを他地域に住む友だちにわかりやすく伝えることができる。

(3) 単元（題材）全体の展開

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
6 / 18 まで	3 時間	単独	・栄小の周辺の自然や人に興味をもちながら探検できる。	・栄小学校の周辺を探検する。	・すてきな，おもしろいと思うものを見付けるよう声を掛ける。
	1 時間	単独	・栄小の周辺のことを鶴舞小の2年生に伝えようという目的をもつ。	・どこを紹介するか話し合う。 ・どんな方法で知らせるか話し合う。	・TV会議システムを使って発表することを踏まえ，相手にわかりやすい発表の仕方を考えるようにさせる。
	3 時間	単独	・相手に伝えることを意識して発表の準備や練習ができる。	・発表の準備をする。 ・発表の練習をする。	
6 / 18	9:20 ~ 10:05	共同	・学校の周辺で見付けたことを鶴舞小の2年生に知ってもらいたいという願いをもって，紹介することができる。	1 栄小学校の周辺のことを鶴舞小の2年生に紹介する。 ・栄小学校 ・和談の森 ・栄神社 ・その他紹介したいところ 2 鶴舞小の2年生の質問に答えたり，感想を聞いたりする。 3 鶴舞小の周辺のとっておきの場所や物を教えてもらう。	・TV会議システムを使って学習の流れについて打ち合わせをした。 ・栄小からの一方的な発表で終わらないよう，途中でクイズを出したり，質問や感想を述べたりする場を設定した。また，鶴舞小の地域のことも簡単に話してもらったことにした。
10 / 29	9:20 ~ 10:05	共同	・町探検で見付けたものや体験したことを栄小の2年生に紹介することができる。（鶴舞小） ・鶴舞小の発表に興味をもちながら聞くことができる。	・はじめのあいさつをする。 ・発表を聞いて，わからないことやもっと知りたいことを質問する。 ・鶴舞小が出す町探検に関するクイズに答える。 ・紹介を聞いて感想を発表する。	・TV会議システムを使って学習の流れについて打ち合わせをした。

4 実践を通しての提言

- ・一方の発表を聞いているだけの交流ではなく，できるだけ会話のやりとりができるように考えた。その中で，2年生としては，クイズのやりとりが互いに楽しく活動できてよかったと思う。また，TVを介して発表することを考慮に入れて，紹介する場所をデジカメで撮ってパワーポイントを使った資料提示を行った。資料作りや機会の操作は，児童たちではできず，教師側で行わなければならなかったが，相手にとっては，見や

すい資料だったのではないかと思います。クイズを出すときには、画用紙に問題を大きく書くなど児童たちなりに、相手を意識した資料の準備ができたと思う。

- ・TVを介してグループの発表を全員で見るのは、一人一人の交流が希薄になるような感じがするので、できれば一対一、グループ対グループなど少人数での交流がよいのではないかとと思われる。

実践記録16

栄小学校第4学年1・2組，十和田小学校第4学年1組 音楽科（同校種間，発表型，作業型）
指導者 栄小学校 和賀由紀，十和田小学校 佐々木麻実

- 交流・共同学習のねらい
 - ・互いの校歌を紹介し合い，仲良くなる。
 - ・歌い方や演奏の仕方を工夫しようとする意欲をもつ。
 - ・他校の友だちと演奏を聴き合い，互いのよさに気付く。
- TV会議システム利用の必要性
 - ・遠隔地の相手と音声と映像で情報交換ができることを生かして，相手校に自分たちが工夫した演奏を聴いてもらい，相互に意見交換をする。
- 実際
 - 教科，単元名（題材名）
 - ・音楽科 ～様子を思いうかべて～「おどろう楽しいポーレチケ」「まほう使いの弟子」「つるのおんがえし」
 - 単元（題材）の目標
 - ・拍子の違いや旋律の特徴などを感じ取って表現することができる。
 - ・楽曲の気分を感じ取って，想像豊かに表現したり聴いたりすることができる。
 - 単元（題材）全体の展開（栄小）

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
12 / 20 - 22	9:40 10:25	単独	・3拍子の気分を感じて歌ったり身体表現したりできる。 ・場面の様子を想像しながら聴くことができる。	・3拍子の特徴を感じ取って斉唱する。 ・情景を思い浮かべ，強弱や速度を工夫して歌ったり，身体表現を工夫したりする。	【評価】自然な無理のない声で歌うことができる。 【評価】身体表現を入れながら拍子を感じて演奏できる。
1 / 12 - 17	9:40 10:25	単独	・物語のあらすじを知り，各場面を想像しながら音楽を聴くことができる。	・曲想の変化を感じ取って聴き，思い浮かんだ様子や情景などを話し合う。 ・物語の場面を想像したり，オーケストラの楽器の音色や重なり合う響きを味わって聴く。	・場面の様子がわかるよう，挿絵などを利用する。
1 / 19	14:05 14:50	共同	・互いの校歌を紹介し合い，なかよくなる。 ・交流のオリエンテーションを通して共同学習のめあてがわかる。	・導入時に校歌を紹介し合う。 ・曲を覚え，表現の工夫のねらいや工夫の例などを知る。	【評価】めあてがわかり，学習の見通しをもつことができる。 ・和やかな雰囲気の中で臨むことができるよう交流のよさを確認する。
1 / 20 - 21	9:40 10:25	単独	・歌い方や演奏の仕方を工夫する意欲をもつ。 ・場面に合う音をイメージして音や音楽を工夫することができる。	・場面の様子にふさわしい歌い方や朗読，台詞を考え，やってみる。 ・楽器や手作り楽器によるメロディーや効果音を工夫する。 ・朗読と間奏を合わせ通す。	【評価】音楽で物語を表現することに興味をもって進んで活動している。 【評価】場面に合った音や表現の仕方を工夫している。
1 / 26	11:35 12:20	共同	・演奏を聴き合い，互いのよさを見付け，意見交換ができる。	・グループごとにつくった音や音楽を中間発表して，互いのよさを見付け，意見交換をする。	・歌い方，楽器，奏法などお互いの表現に関心をもって聴き合うことができるよう，観点を明確にする。 【評価】改善点を意見交換し，よりよい工夫に気付くことができる。
1 / 29	9:40 10:25	単独	・相互評価を基に修正し，まとめの発表ができる。	・前時の意見交換を基に修正をし，グループのまとめの発表をする。	【評価】物語に合うよう，友だちと協力して表現をまとめようとする。

4 実践を通しての提言

- ・音楽を伝え合う場合には、楽器の種類、数、マイクとの距離を考えた配置等を十分に考慮しないと、音が悪く聞こえてしまい、本当に伝えたい表現が伝わらない。
- ・両校一緒に演奏する場合、タイムラグをどういう方法で克服するか工夫が必要である。今回は指揮者を立てた。歌っている児童は聞こえてくる相手の声がずれていることに気付いていたが、一生懸命に指揮に合わせようとしていた。
- ・指導者の思いが互いに理解されてないと実際の場面で行き違い生じるので、打ち合わせは十分に行いたい。

実践記録17

湯沢南中学校第2学年4組，男鹿南中学校第1学年3組 技術・家庭科（同校種間，異学年間，作業型）
指導者 湯沢南中学校 阿部広美，男鹿南中学校 菅家久貴

1 交流・共同学習のねらい

- ・電子メールを送信した相手と画面を通して交流することで、電子メールでの情報発信に対する責任を感じることができる

2 TV会議システム利用の必要性

- ・電子メールは相手の顔が見えない中で使用するが、送信先には人がいることを実感させる。

3 実際

(1) 教科等名，単元（題材）名

- ・技術・家庭科 「電子メールを活用しよう～男鹿南中学校を知ろう～」

(2) 単元（題材）の目標

- ・電子メールソフトの使用方法やネットワーク上のマナーを説明することができる。
- ・電子メールソフトを使用して送受信ができる。
- ・電子メールを送信する相手を意識して、情報を発信することができる。

(3) 単元（題材）全体の展開（湯沢南中）

月 日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
7 / 13	13:10 ～ 14:00	交流	・送信相手を意識して、電子メールで情報を発信する。	・電子メールの文章作成についての注意点を聞く。 ・グループで文章を考える。 ・互いに電子メールを送信する。 ・送信したグループ間で、画面を通して感想を述べ合う。	【評価】わかりやすく情報を電子メールで発信することができる。 【評価】送信する相手を意識して電子メールを使用することができる。

4 実践を通しての提言

- ・事前に電子メールを送信し、授業でより多くのグループにTV会議システムを利用して交流させる。
- ・電子メールについての情報伝達手段のよさと怖さを考えるときに、送信する相手が実際にいて、さらに最後に電子メールを交換した相手と画面を通して話をするのは非常によいと感じた。

実践記録18

東大曲小学校第3・4学年，鶴舞小学校第3学年梅組 体育科（同校種間，発表型，作業型）
指導者 東大曲小学校 武藤 睦，鶴舞小学校 菊地 薫

1 交流・共同学習のねらい

- ・体育の表現運動の単元で、それぞれの学級のグループが動きづくりを工夫する上で、交流・共同学習することで多彩なアイデアを学びあったり、互いの発表に感動したりできるようにする。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・互いの動きを見せ合う。
- ・自分たちの動きも確認する。

3 実際

(1) 教科等名，単元（題材）名

- ・体育科 「表現運動」(ウォーターボーイズ&ガールズ)

(2) 単元（題材）の目標

- ・身近な生活や空想の世界から題材を見付け、楽しい動きを見付けたり、その特徴をとらえて表したりすることができる。

(3) 単元（題材）全体の展開（東大曲小）



月 日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等

9 / 6	13:15 14:00	共同	- 単元の目標と全体の流れをとらえる。 - グループで動きづくりをし、紹介し合う。	1 グループごとに自己紹介 2 オリエンテーション 3 グループごとに動きづくりをする。 4 できた動きを紹介し合う。 5 グループ内で反省し、次時のめあてをもつ。	- 相手校に対して、グループ名やめあてを自己紹介する。 - 単元のねらいや全体計画を掲示し、学習の流れをつかむとともに、シンクロナイズドスイミングのビデオを鑑賞し、動きのイメージをもつ。 - グループでつくった動きを紹介し合い、次時の参考にする。 - 互いが感想発表することにより、意欲を高める。 - よいと思った動きはどんどんまねてよいことを確認する。
9 / 8	5校時	単独	グループで動きづくりをし、紹介し合う。	1 本時のめあての確認 2 動きづくり 3 他グループに動きの紹介 4 本時の振り返り	- 新しい動きを増やしていけるよう声をかける。 - 楽しくできるよう助言する。
9 / 10	10:30 11:15	共同	グループで動きづくりをし、鶴舞小と一緒に紹介し合う。	1 本時のめあての確認 2 動きづくり 3 鶴舞小とともに動きの紹介 4 本時の振り返り	- TV会議システムを使い、鶴舞小の動きを学び合う。 - 感想を出し合い、意欲を高める。
9 / 14	5校時	単独	前時の感想などを生かして、グループで動きづくりをし、紹介し合う。	1 本時のめあての確認 2 動きづくり 3 他グループに動きの紹介 4 本時の振り返り	- 新しい動きを増やしていけるよう声をかける。 - 楽しくできるよう助言する。
9 / 15	2校時	単独	グループでつくった動きを音楽に合わせてつなげる。	1 本時のめあての確認 2 動きづくり 3 他グループに動きの紹介 4 本時の振り返り	- 楽しくできるよう助言する。 - 時間の途中でも、うまくいっているグループを紹介する。
9 / 17・21	3校時	単独	各グループの動きをつなげて、自分たちの思いが表現できているか確認する。	1 本時のめあての確認 2 動きづくり 3 グループの動きをつなげての練習 4 本時の振り返り	- 楽しくできるよう助言する。 - 時間の途中でも、うまくいっているグループを紹介する。 - 連続性のある動きになるように助言する。
9 / 24	10:30 11:15	共同	発表会をし、表現することを楽しんだり、互いのがんばりを認め合ったりする。	1 本時のめあての確認 2 グループごとに練習 3 発表会 4 単元の振り返り	- 合同でめあての確認をし、発表の意欲を高める。 - 鶴舞小の発表を鑑賞し、自分たちとは違ったよさに気付かせ感想を発表し合う。

4 実践を通しての提言

- ・TV会議システムを利用した合同学習により、多彩な学び合いができた。
- ・他校との交流により、学習の意欲が高まった。
- ・TV会議システムは自分たちの姿も見ることができると、表現運動では有効であった。

実践記録19

東大曲小学校第2・3・4学年あおぞら学級，第5学年のぞみ学級，
十和田小学校2・4・5年各学年4組 生活単元学習（同校種間，発表型，討議型）
指導者 東大曲小学校 齊藤法子，佐藤理絵，十和田小学校 熊谷悦子

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・少人数対少人数で学習し合ったり，ゲームをしたりする活動を通し，人とのかかわる経験を積み，コミュニケーションをとることに慣れる。
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・ハンディがあるということから，遠方への移動には多くの労力を必要としたり，範囲が制限されてしまったりすることがある。TV会議システムを利用し，何度でも交流する。
 - ・遠く離れた相手校の友だちとリアルタイムで，互いの表情を見ながら，会話のやりとりをする。



3 実際

(1) 教科等名、単元（題材）名

- ・生活単元学習 「友達の輪を広げよう」

(2) 単元（題材）の目標

- ・校外の友だちと会話をしたり、ゲームをしたりして交流を重ねながら、生きていく力の基礎となる、人とコミュニケーションする力を伸ばす。

(3) 単元（題材）全体の展開 （東大曲小）

月 日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
9 / 9	9:35 ~ 10:20	共同	・はっきり聞こえる声であいさつや自己紹介をしようとする。 ・友だちの顔をしっかりと見て、一緒に勉強しようとする意欲と親しみの気持ちをもつ。	・自己紹介をする。 ・歌のプレゼント交換をする。 ・「まねっこゲーム」「古今東西ゲーム」を楽しむ。 ・クジでペアを決め、ペアの友だちと、手と手をタッチする。 ・さようならのあいさつをする。	・ＴＶ画面に向かわせ、話す相手を意識させながら、はっきりと言えるように励ます。 ・先生もゲームに参加し、共に喜んだり驚いたりして、雰囲気盛り上げる。 ・ＴＶ画面に相手の手を映してもらい、画面を通して互いに触れ合わせたい。 【評価】相手にしっかりと伝わるように話すことができる。
10 / 22	10:45 ~ 11:30	共同 ----- 単独	・しっかりと聞こえる声で前回の感想を発表しようとする。 ・インタビューを通して、より親しみをもち、プレゼントをしようとする気持ちをもつ。	・再会のあいさつをする。 ・前回の交流の感想をペアどうしで、発表し合う。 ・ペアの友だちへのプレゼントを具体的に決めるためのインタビューをして、自分なりの方法でメモをとる。 ・「鳴き声ビンゴ」ゲームをする。 ・さようならのあいさつをする。 ----- ・インタビューの内容を振り返り、プレゼントする物を決める。	・自分の力で発表できるように、なるべく口を挟まず、そばについて支援する。 ・ペアの児童を画面を通して向かい合わせ、相手を意識させる。 ・事前に自分の好きなこと、得意なことで、プレゼントを作ること決めておく。 【評価】インタビューからプレゼントを決定し、プレゼント作りの意欲をもつことができる。
11 / 24	10:45 ~ 11:30	共同 ----- 単独	・プレゼントが、相手の友だちを喜ばせることを感じとる。 ・知り合った友だちをずっと大切にしていこうとする気持ちをもつ。	・再会のあいさつをする。 ・十和田小の友だちにプレゼントを開けてもらう。 ・プレゼントを開けてみての感想を聞く。 ・「シルエットクイズ」を楽しむ。 ・さようならのあいさつをする。 ・3回の学習のまとめとして、代表のＫさんが感想を発表する。 ・さようならのあいさつをする。 ----- ・インターネットはもちろん、他に手紙や電話などでこれからも交流ができることを話し合う。	・事前にプレゼントを贈り、開封しないでおいでもらう。 ・開封前に、一言添えさせる。 ・開封時の表情を大きく映してもらえよう事前に願する。 ・ＯＨＰとスクリーンでゲームをする。児童のシルエットも問題に入れ、名前を当ててもらえる嬉しさを感じさせる。 【評価】プレゼントを通して心の交流ができる。 【評価】十和田小の友だちとまた会いたいという気持ちをもつことができる。

4 実践を通しての提言

- ・十和田小の先生にもペアにはいっていただき、４対４、またあるときは個人対個人で交流ができてよかった。相手意識をしっかりとてたと思う。
- ・ＴＶ会議システムを利用したやりとりは、大変効果的であったと思う。なかなか集中力が持続しない児童もＴＶ画面はしっかりと見つめていた。
- ・事前打ち合わせについては、こちらの連絡や事前準備が遅くていつもぎりぎりまで迷惑をかけてしまったかもしれない。メールも連絡手段として活用したが、あまり慣れていなくて失敗することもあった。しかし、メールで事前に児童の写真を送り合い、掲示などに利用できてとてもよかった。いつでも気軽に連絡できるという点で、メールでの連絡は慣れれば、これからも利用していけると思った。（電話での連絡はわざわざ職員室に呼んできていただくなどして、ちょっとためらうことがあった。）
- ・相手校の児童からの葉書や先生からの電子メールをいただき、ＴＶ授業以外の場での交流ができた。
- ・機器操作については、そのときは使い方を理解してもしばらく使っていないと忘れてしまう。授業を進めていかなければならない中で、機器操作までする余裕がもてないことがあった。

実践記録20

男鹿南中学校第3学年4・5組，養護学校天王みどり学園高等部第1・2学年

生活単元学習（異校種間，討議型）

指導者 男鹿南中学校 鈴木栄子，養護学校天王みどり学園 齊藤直子

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・相手の質問をよく聞き，はきはきと答えることができる。
 - ・進路について先輩から学び，自分の進路について具体的に考える。（男鹿南中）
 - ・学校生活を見つめ直し，後輩に助言することで自信をもつことができる。（天王みどり学園）
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・天王みどり学園に進学した先輩から直接話を聞くことで，進路についてより現実的に考える。
 - ・学区内にある小・中学校の特別支援学級と養護学校の高等部の生徒で交流する。



3 実際

- (1) 教科等名，単元（題材）名
 - ・生活単元学習 「天王みどり学園の先輩から学ぼう」
- (2) 単元（題材）の目標
 - ・天王みどり学園の学習や行事への取り組みを知る。
- (3) 単元（題材）全体の展開 （男鹿南中）

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
11 / 17	9:45 10:05	共同	・天王みどり学園の行事や学習について知る。 ・質問事項をよく聞き，答えることができる。 ・船川南小の児童と親睦を深める。	・天王みどり学園の学園祭，行事への取り組み，授業の様子などを知る。 ・簡単なあいさつや会話を楽しみながら交流を深める。	・事前に質問事項や展開案を伝え，安心して生徒が取り組むことができるようにする。 ・質問する生徒と答える生徒を明確にする。 【評価】聞かれたことから内容がそれずに答えることができる。

4 実践を通しての提言

- ・TV会議システムの無い天王みどり学園と船川南小とともに交流ができ，地域への広がりができた。
- ・男鹿南中の特別支援学級の生徒は，交流を楽しみにしており，相手にわかりやすく，はっきり伝えようと事前学習にも熱心に取り組むようになった。TV会議システム利用のメリットは甚大である。

実践記録21

栄小学校第3学年，東大曲小学校第3学年 道徳（同校種間，討議型）

指導者 栄小学校 細谷隆尚，東大曲小学校 鈴木 茂

- 1 交流・共同学習のねらい
 - ・学級の友だちや，交流校の友だちの意見を聞くことにより，様々な考えがあることがわかり，自分の中にもある「思いやり」の心に気付き，身の回りの人に親切な行いを実践していこうとする意欲を育てる。
- 2 TV会議システム利用の必要性
 - ・他校と交流することにより，より多くの友だちの話を聞き，より幅広い考え方に触れる。
- 3 実際
 - (1) 教科等名，単元（題材）名
 - ・道徳 「だれかのために」
 - (2) 単元（題材）の目標
 - ・自分の中にある「思いやり」の心に気付き，身の回りの人に親切な行いを実践していこうとする意欲を育てる。
 - (3) 単元（題材）全体の展開 （栄小）



月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
7 / 20 まで	放課後				・TV会議システムを使い，センターと全体的な流れを打ち合わせ，その後に東大曲小と打ち合わせを行った。 ・同じ掲示物を2枚ずつ準備し，それぞれの教室に掲示した。 ・センターから提示する資料の絵を電子メールで送付した。

7 / 21	13:55 / 14:55	共同	・自分の中にある「思いやり」の心に気付き、身の周りの人に親切な行いを実践していこうとする気持ちをもつ。	・親切にできなかった体験を両校で発表する。 ・資料1を読み、登場人物の友子さんの気持ちについて考える。 ・資料2を読む。 ・資料2の友子さんの気持ちについて考える。 ・友子さんへ手紙を書き、発表する。 ・思いやりについての話を聞く。	・センターからコンピュータで資料を提示し、教室では絵を掲示する。 ・栄小からの発問に対して双方から意見を発表する。両校の意見を板書し、共有する。 ・センターから、思いやりに関連した話をする。
--------------	---------------------	----	---	---	---

4 実践を通しての提言

- ・一つの学級で道徳を行ったときには感じられない、他の人の意見に対して共感を得ることができた。また、自分と違う考え方も聞くことができ、考えの幅を広げることができた児童も多い。
- ・センターから効果的に資料を提示してもらうことにより、児童にとって考えやすかった。
- ・児童のつぶやきをひろって全体に広げていくことができなかった。つぶやきや双方の細かな表情の変化まで互いに見合い、感じ合うことができれば、広がりとともに深まりも期待できた。
- ・センターと交流校を多地点装置で接続したので、画像が粗くなった。発言する児童をとらえるためのリモコン操作が煩雑で、担任一人では対応できなかった。児童の発表の仕方や発表の位置を工夫するか、機器操作を担当する係が他に必要である。

実践記録22

東大曲小学校第6学年、十和田小学校第6学年2組 特別活動（同校種間、発表型）

指導者 東大曲小学校 佐々木浩、十和田小学校 田中克子

1 交流・共同学習のねらい

- ・多様かつ有意義な夏休みの体験に触れさせ、自己の夏休みを振り返る一助とする。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・相手とTV会議システムを介して話をするときの言語表現の在り方を学習する。

3 実際

(1) 教科等名、単元（題材）名

- ・特別活動 「夏休み体験発表会をしよう」

(2) 単元（題材）の目標

- ・自分のがんばりを確認させたり、友だちのよさを見付けさせたりして、2学期も意欲的に取り組もうとする気持ちをもたせる。

(3) 単元（題材）全体の展開（東大曲小）



月 日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
9 / 7	13:50 / 14:35	共同	・自己のがんばりの振り返り ・友だちのよさの発見 ・2学期の学校生活への意欲向上	・夏休みの体験をスピーチしたり、作品を紹介したりする。 ・発表を聞き、感想を述べ合う。	・発表内容について教師も感想を述べ、がんばりをほめる。 【評価】体験発表や感想発表を通して、学校生活に意欲的に取り組もうとする気持ちをもつ。

4 実践を通しての提言

- ・「十和田小の友だちもがんばっているんだね。」「へえー。そんな夏休みもいいなあ。」などの気持ちをもったようだ。また、交流を通して見えた共通点や相違点、新たな発見は児童にとって刺激的で、最大のメリットである。さらに、大勢の人を前にしたスピーチでないため、あまり緊張することなくできることもメリットだといえる。

実践記録23

湯沢南中学校第1・3学年わかあゆ学級、第2学年わかすぎ学級 男鹿南中学校第3学年4・5組

特別活動（同校種間、発表型）

指導者 湯沢南中学校 村上恵子、土谷裕子、男鹿南中学校 鈴木栄子

1 交流・共同学習のねらい

- ・遠く離れたところの特別支援学級と自己紹介をして交流することにより、今までの自分たちの活動や成長を振り返り、将来に向けた学習をすることができる。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・男鹿南中まではなかなか行けないので、TV会議システムを利用したの出会いではあるが同じ特別支援学級で学ぶ生徒どうしの交流を図り、今後の進路学習につなげる。

3 計画



- (1) 教科等名，単元（題材）名
・特別活動 「ぼくたちの進路 ～自己紹介をしよう～」
- (2) 単元（題材）の目標
・男鹿南中の生徒たちと仲良く交流することができる。
・自分たちのよさを認めながら，自分たちの学級や自分たちを紹介できる。
・互いの進路や希望を聞きながら，自分の進路を考えることができる。
- (3) 日時 平成16年9月27日（月） 4校時(11:30～12:20)
- (4) 学習過程 （湯沢南中）

学 習 活 動	時間	支 援 活 動		
		生徒A（T1）	生徒B（T2）	生徒C（T2）
・今日のめあてを立てる。	5	・適切なめあてができたらしめる。	・なるべく自力でめあてを立てられるように励ます。	・一人で決めることが難しい場合にはめあての例を出して選べるようにする。
・自己紹介の流れを確認する。	10	・不安なところがあったら話をして不安なところを取り除く。	・自信をもって大きな声ではっきり言えるように励ます。	・自信をもって大きな声ではっきり言えるように励ます。
・自己紹介をする。	20	・話す内容をぬかしたり，言い忘れたりしたら思い出させる。 ・うまくできたらほめたり励ましたりする。	・話す内容をぬかしたり，言い忘れたりしたら思い出させる。 ・うまくできたらほめたり励ましたりする。	・話す内容をぬかしたり，言い忘れたりしたら思い出させる。 ・うまくできたらほめたり励ましたりする。
・相手校の学級紹介を聞く。	10	・視覚的に理解しにくいところを説明する。	・静かに聞くようにうながす。	・静かに聞くようにうながす。
・互いの発表を聞き合って感想を話し合う。	5	・感想の中でいいところをほめる。	・自信をもって感想を言えるように励ます。 ・感想の中でよいところをほめる。	・自信をもって感想を言えるように励ます。 ・感想の中でよいところをほめる。

- 4 実践を通しての提言
・事前の打ち合わせをもう少しできればよかった。
・大画面で発信するおもしろさを十分味わうことができた。

実践記録24

東雲中学校全校生徒，男鹿南中学校第3学年 特別活動（同校種間，発表型）
指導者 東雲中学校 笠原浩一，石塚博子，男鹿南中学校 小玉和彦

- 1 交流・共同学習のねらい
・TV会議システムで，修学旅行の内容を紹介し合い，互いの視野を広げる。
- 2 TV会議システム利用の必要性
・集団での交流を実現する。
・共通の話題で発表し合い，互いの発表をみて自校の取り組みを振り返る。
- 3 実際
(1) 教科等名，単元（題材）名
・特別活動 「校外活動，内容交流会」
(2) 単元（題材）の目標
・校外学習を通して学んだことをTV会議システムを利用して交流し，生徒の視野を広げる。
(3) 単元（題材）全体の展開 （東雲中）



月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
5 / 25	11:45 ～ 12:35	共同	・行き先の違う修学旅行で体験したことを紹介し合い，互いの視野を広げる。	1 コンピュータで東雲中の修学旅行紹介＜修学旅行全般＞ 2 質疑応答 3 カードで男鹿南中の修学旅行自主研修紹介＜モンゴル大使館での自主研修＞＜警視庁での自主研修＞ 4 質疑応答	・他校の学校行事の取り組みと自校とを比較して，その違いに注目させ，自分たちの活動に生かすよう助言する。

4 実践を通しての提言

- ・質問事項を相互に連絡しなくても、質疑応答が自然な形で進むことができた。男鹿南中3年生の質疑応答の雰囲気には刺激を受けたと思われる。
- ・自主研修の対象が違うために男鹿南中の活動内容を興味深く聞くことができ、学年を問わず質問に向かう生徒が多数見られた。また、質問することによって、発表の経験を積むことができた。
- ・TV会議システムでの交流がきっかけとなり、男鹿南中を学校訪問をすることができた。2・3年生の執行部の出迎えがあり、その後校舎見学をし、学校の特徴を知ることができた。今後のより一層の交流を約束することができた。
- ・TV会議システムを通した体育館のスピーカーからの音声聞き取りにくいとため、相手にうまく発表内容が伝わらない部分があった。
- ・逆光や機器の配置場所について、事前の確認を入念に行う必要性を感じた。

実践記録25

男鹿南中学校生徒会、湯沢南中学校生徒会 特別活動（同校種間、発表型）

指導者 男鹿南中学校 鈴木栄子、湯沢南中学校 佐藤公英

1 交流・共同学習のねらい

- ・全県大会出場チームを激励する。
- ・外国人教諭と親睦を深める。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・他校の全県大会に向けた取り組みを実際に見ることで、残された期間を大切にしようとする気持ちをより一層強くする。
- ・当日、本校を訪問していた米国フルブライト教育使節団と湯沢南中の生徒が交流する。

3 実際

- 全体の展開（男鹿南中）



月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
6 / 25	16:00 16:30	共同	・全県大会出場チームを激励する。 ・外国人教諭と親睦を深める。	・互いに全県大会に向けた意気込みを紹介し、それに対して激励を行う。 ・英会話や歌を通して交流を深める。	・相手校によく伝わるようカメラワークに注意する。 ・英会話での交流では、親睦が深まるよう通訳を活用する。 【評価】相手にうまく伝わるように表現できる。

4 実践を通しての提言

- ・自分の学校では体験できないことを、TV会議システムを利用してではあるが、体験できることは大きなメリットである。
- ・他校でも全県大会、文化祭等同じ行事があり、それに向けて懸命に取り組んでいることを知ることで、新たな意欲がわく。
- ・応援など複数で動きのある活動をする場合は、TV会議システムを利用することに限界を感じる。
- ・今回は全県大会という共通で取り組んでいることがあってよかったが、やはり交流・共同学習を行う場合は、双方に必然性とメリットがあることが望ましい。

実践記録26

東大曲小学校第5学年、栄小学校第5学年 総合的な学習の時間（同校種間、発表型）

指導者 東大曲小学校 武部 厚、佐藤理絵、栄小学校 藤田浩司

1 交流・共同学習のねらい

- ・米について調べたことを自分なりの表現方法で相手に伝えることにより、他者を意識した話し方について考え、今後の学習に生かしていこうとする態度を育てる。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・TV会議システムを利用して、他校の児童と発表会をすることで、調べたより多くの情報を共有化し、学習をより深める。

3 実際

(1) 教科等名、単元（題材）名

- ・総合的な学習の時間 「われら、こめこめ探検隊！」

(2) 単元（題材）の目標

- ・米について興味・関心のある事柄をテーマとして、意欲的に調べ、追究することができる。
- ・調べてまとめたことを自分なりの表現方法で相手に伝えることができる。



(3) 単元（題材）全体の展開 （東大曲小）

月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
9 / 15 まで					・電話連絡をし、発表会の進め方、時間、場所等を確認する。 ・東大曲小からは米について調べたことの発表を、栄小からは米のクイズを出題することを決める。
9 / 15	9:00 ～ 10:20	共同	・米について調べたことを相手校の友だちに向けて、自分なりの表現方法で伝えることができる。	1 東大曲小の児童が調べたことを発表する。（5グループ） 2 栄小の児童が米に関するクイズを出題する。（全部で7問） 3 本時の活動を通しての感想を述べ合う。	1 栄小の児童は、各グループの発表が終わるごとに感想を発表する。 2 東大曲小の児童はクイズに解答する。

4 実践を通しての提言

- ・自校内ではなく、他校の、しかも同学年の児童と発表をし合うことに新鮮味を感じ、自分の発表についての感想を生声で聞くことができ、児童は成就感を味わうことができたように思う。
- ・両校ともに総合的な学習として米について学習しており、相手校の発表を聞いて、自分たちが知らなかった情報を多く知ることができ、学習をより深めることができた。
- ・話す速さが速かったり、声量が少なかったりで発表がよく伝わらない場面があり、日頃の学習での話し方の指導が大切であると感じた。
- ・東大曲小では、体育館を使用したため、発表資料が多く、発表するグループごとにTV会議システムを移動しなければならず、移動時間が多くかかった。機器操作を含め、できるだけ多くの協力者が必要である。

実践記録27

十和田小学校第6学年1・2組，東大曲小学校第6学年 総合的な学習の時間（同校種間，発表型）
指導者 十和田小学校 田中克子，東大曲小学校 佐々木浩

1 交流・共同学習のねらい

- ・自分たちが調べたことを相手に伝えるよう、資料をまとめたり発表したりできる。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・自分たちの住んでいる地域について、知識の無い相手に発表を聞いてもらうことを通して、相手によりよく伝えるような発表や資料のまとめをしたり、相手の発表を聞いて質問やアドバイスしたりできる力を育てる。

3 実際

(1) 教科等名，単元（題材）名

- ・総合的な学習の時間 「ぼくたちわたしたちの十和田の歴史と文化を求めて」

(2) 単元（題材）の目標

- ・郷土の歴史や文化に関心を高める課題を見つけて、人とのかかわりを深めながら調査し、効果的に表現することができる。

(3) 単元（題材）全体の展開 （十和田小）



月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
10 / 25	5 時間	単独	・郷土の歴史や文化に関心を高める。 ・全体のテーマと個人の課題を決めることができる。	・全体的なテーマを確認して自分の課題を見付ける。 ・調べ方を考える。 ・計画を立てる。	・歴史，文化，偉人・伝説の三つのグループに分かれて活動する。
11 / 2	7 時間	単独	・課題を解決するために、追究方法を工夫し、ねばり強く学習できる。	・多様な方法で、資料を集める。	・情報収集の方法についてガイダンスを行う。
11 / 12	17:00				・交流の方法について電話で打ち合わせる。
11 / 29	6 時間	単独	・自分の考えを相手に的確に伝えるために、表現方法を工夫できる。	・自分の考えをまとめ、発表資料を作る。 ・グループごとに小発表会を行う。	・相手を意識した効果的な表現方法を考えられるよう助言をする。
12 / 10	17:00				・交流の内容や支援について電話で打ち合わせる。

12 / 17	9:30 10:15	共同	・ 相手を意識した効果的な発表をするためには、内容や表現の仕方をどのように手直ししたらよいか考えることができる。	(司会進行：十和田小児童) 1 始めのあいさつ 2 本時のめあてと流れを確認 3 十和田小の発表 4 発表の質問や感想 5 東大曲小の発表 6 発表の質問や感想 7 教師の話 8 終わりのあいさつ ・ 終了後、他のグループの発表やアドバイスを聞いて、自分たちの手直しする点を話し合う。	・ 今日の他のグループの発表やアドバイスを自分のグループの発表に生かすよう助言する。 【評価】相手を意識した効果的な発表ができる。 【評価】内容や表現の仕方をどのように手直しするとよいかを考えている。
12 / 20	3 時間	単独	・ アドバイスや質問されたことを生かして、発表資料を手直ししたり、発表の仕方を工夫したりできる。	・ 資料を手直ししたり、発表練習をしたりする。	
1 / 25	2 時間	単独	・ 調べた郷土のよさや、歴史と文化にかかわる人々のさまざまな思いを理解し、地域を大切にすることをすることができる。	・ ファイナル発表会を行う。 ・ 活動の振り返りを行う。	

4 実践を通しての提言

- ・ 自分の地域以外の人に聞いてもらおうということを意識し、わかりやすく発表しようという意欲が高まった。
- ・ 相手校に聞くだけではなく、自分たちの学校の発表にアドバイスや感想を発表した。「声をもっと大きく」「写真を入れた方がわかりやすい」など、今後の活動に生かせるような率直なアドバイスが出されてよかった。
- ・ 東大曲小の児童の発表の態度が立派だったので、児童の刺激になった。
- ・ パワーポイントでの発表が、カメラの動きと合わなかった。カメラを使ってリハーサルを行うべきであった。
- ・ 模造紙に書いた字は、見にくかった。カメラの置き方、写し方を工夫したい。

実践記録28

東雲中学校全校生徒，男鹿南中学校第2・3学年 総合的な学習の時間（同校種間，発表型）
指導者 東雲中学校 野村 誠，笠原浩一，男鹿南中学校 菅家久貴

1 交流・共同学習のねらい

- ・ TV会議システムで、総合学習の取り組みを紹介し合い、互いの視野を広げる。

2 TV会議システム利用の必要性

- ・ 集団での交流を実現する。
- ・ 共通の話題で発表し合い、互いの発表から自校の取り組みを振り返る。

3 実際

(1) 教科等名，単元（題材）名

- ・ 総合的な学習の時間 「総合学習，内容交流会」

(2) 単元（題材）の目標

- ・ 総合学習で学んだことをTV会議システムで情報交換し、互いの視野を広げる。

(3) 単元（題材）全体の展開（東雲中）



月日	時間	形態	学習のねらい	主な学習活動	留意点と評価 打ち合わせの内容等
11 / 18	11:45 12:35	共同	・ 互いの総合学習の取り組みについて発表し合い、他校の取り組みを学ぶ。	1 ○×クイズ 東雲中，男鹿南中各3問 2 東雲中発表（2年生） 「世界の正月」 <男鹿南中追加発表>（2年生） 3 男鹿南中発表（3年生） 「職場体験」 <東雲中追加発表>（2年生） 4 応援活動紹介	【評価】互いの発表から、相手のよい取り組みに気付く。

4 実践を通しての提言

- ・ 今回の集会は、互いの学校内の発表と近い内容で発表した。番組構成的な展開であるが、この流れで進むと質問の繰り返しが続く展開を避けることができるため、スムーズに集会を展開することができた。
- ・ 打ち合わせでは長時間にわたり大変な迷惑をかけた。生徒は交流を好意的にとらえていた。その効果として、生徒会役員選挙では、より一層の交流を掲げる立候補者が多かった。
- ・ 男鹿南中の発表内容が非常に充実していたため、本校生徒と職員との刺激となった。
- ・ 全校集会でTV会議システムを利用する時には、マイクへの音声入力がポイントになることを改めて認識した。また、カメラをあまり移動しないような機器の配置することが大切だと感じた。

4 TV会議システムの利用に関するアンケート調査

(1) 「TV会議システムの利用に関するアンケート調査」の調査方法

調査期間 平成16年12月8日(水)～平成16年12月17日(金)

調査対象 ・インターネット授業推進校の全教員

・各インターネット授業推進校における小学校第3学年以上で指導主事がかかわった授業,そして交流または共同学習を行った1学級の児童生徒

回収数 推進校教員114名分(回収率79.7%),児童生徒198名分

昨年も同様のアンケート調査を次のように行っている。

調査期間 平成15年12月15日(月)～平成15年12月25日(木)

調査対象 推進校教員150名

回収数 127名分(回収率84.7%)

(2) 調査結果と考察

児童生徒へのアンケート調査の考察

全体の約79%の児童生徒は,交流・共同学習を楽しんでいると思ひ,おおむね他校の児童生徒とかわりをもつことに好意的である。しかし,児童の4%と生徒の約12%は,楽しくないと答えている。生徒の自由記述に「今まで通りのテレビ授業でいいです。」とあり,自分の学級だけで,または,一人で学習したいと思っている児童生徒もいることがわかる。このような児童生徒がいることを念頭に置いて,交流・共同学習を進める必要がある。

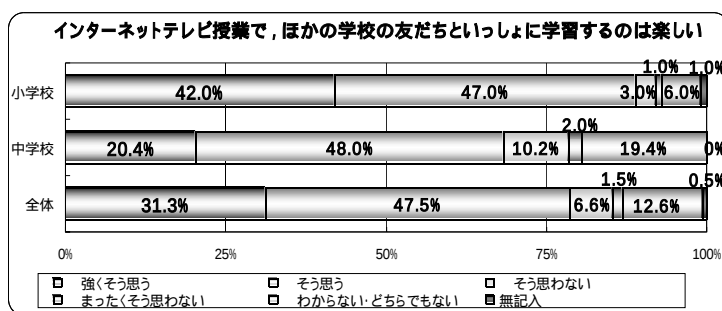


図3 アンケート調査結果

次に,交流・共同学習が役立つかという問いに対して,全体の約60%の児童生徒は,そう思うと答えている。自分の学校や学級では得ることができない情報や考え方などをリアルタイムに触れることにより,TV会議システムを利用した交流・共同学習のよさを感じていることがわかる。しかし,児童の11%と生徒の約34%は,役立つとは思わないと答えている。交流・共同学習では,TV会議システムを利用する必要性を明確にした内容に絞ることが大切である。また,生徒の感想に「スムーズに進まなくて授業のようには役に立たない。」とあり,TV会議システムにはタイムラグがあることや,視野がTV画面からのみと限定されることを十分に考慮に入れて,授業を進めることが大切である。また,生徒の約29%は,役立つかわからない,どちらでもないと答えている。これは,中学校では学年や学校全体での集会活動における利用が多く,個人として役立ったのかを判断できなかったものとする。

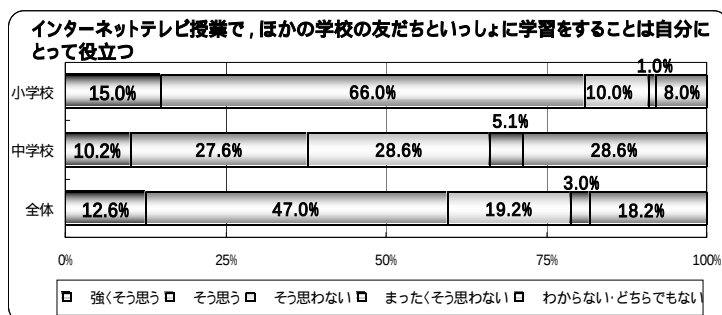


図4 アンケート調査結果

全体の約65%の児童生徒は,交流・共同学習をもっとやってみようと思っている。児童生

徒の自由記述には、「特にやってみたいことはないが、とにかく他校の人たちと、たくさん触れ合いたい。」「他の学校の人と会話をしてみたい。」など、単に触れ合いとしての交流を望んでいる場合がある。このような児童生徒の意欲を失わずに、互いに意見を交わして教科等の授業のねらいを達成させるような学習をいかに展開するかがポイントである。このアンケートでは、交流・共同学習をやってみたいと思わない児童生徒が約15%いるが、効果的に教科等のねらいを達成する授業を多く行うことにより、交流・共同学習に意義を感じる児童生徒が増加するものと考える。

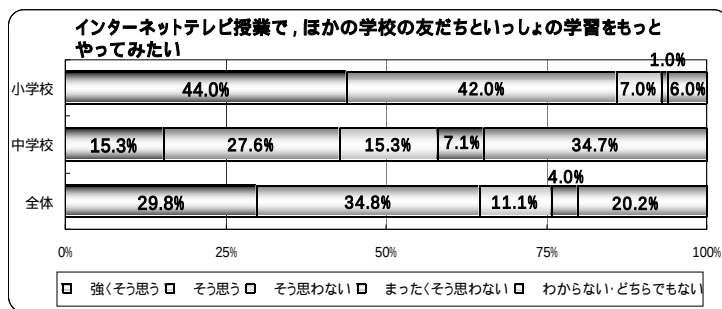


図5 アンケート調査結果

教員へのアンケート調査の考察

平成16年度の結果で、50%以上の教員が効果があると回答した項目は、「学習への興味・関心・意欲の向上」「コミュニケーション能力の向上」「視野の拡大」となっている。平成15年度と比較すると「学習への興味・関心・意欲の向上」「学習の幅の向上」を挙げる教員の割合が多くなっている。

課題としては、60%以上の教員が、「授業担当者どうしの打ち合わせの機会の確保」「効果的な利用の検討の必要性」を挙げている。平成15年度と比較すると、この二つと「授業日時の調整」を挙げた教員の割合が10%以上増加している。また、交流・共同学習をもっと行いたいと思っている教員の割合は、約75%になっている。

以上の結果から、推進校の教員は、2年間の交流・共同学習の実践から、学習の効果があることを徐々に認めてきていることがうかがえる。自由記述に「教科や単位によっては、利用の効果の無いところがあるので、ねらいを絞って活用するようにしたい。活用するのがねらいでなく、学習の効果が高めることをねらって活用するようにしたい。」とあり、TV会議システムの有効な活用法を理解してきていることがわかる。

逆に、交流・共同学習の実施に当たり、計画立案や打ち合わせの大変さを実感してきていることがうかがえる。実践事例を蓄積して、計画立案の参考になるように提示してきたいと考えてい

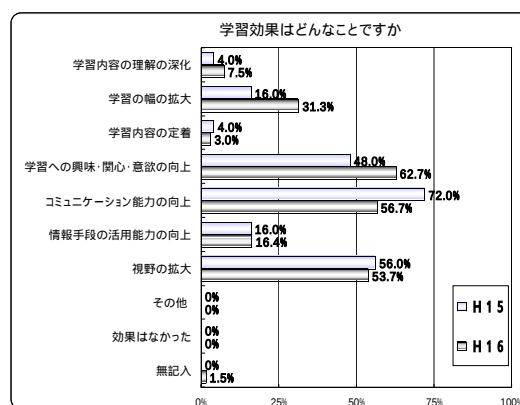


図6 アンケート調査結果

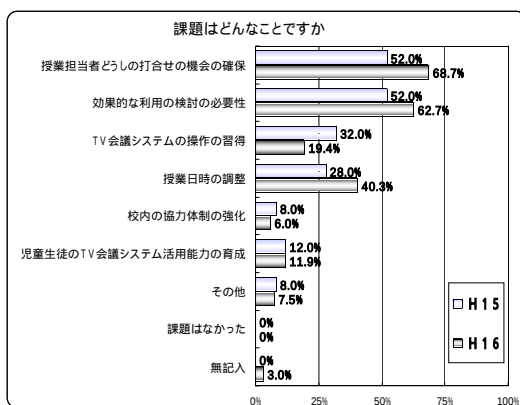


図7 アンケート調査結果

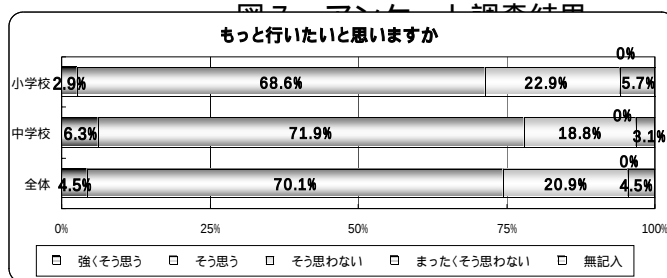
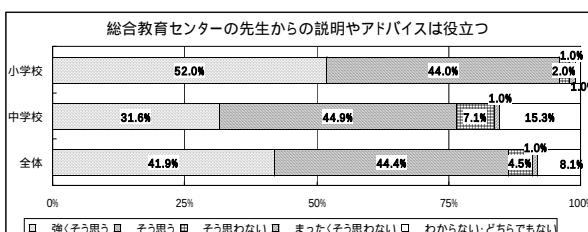
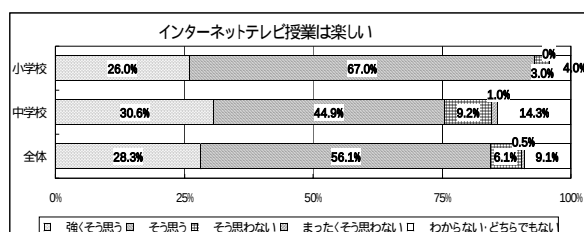


図8 アンケート調査結果

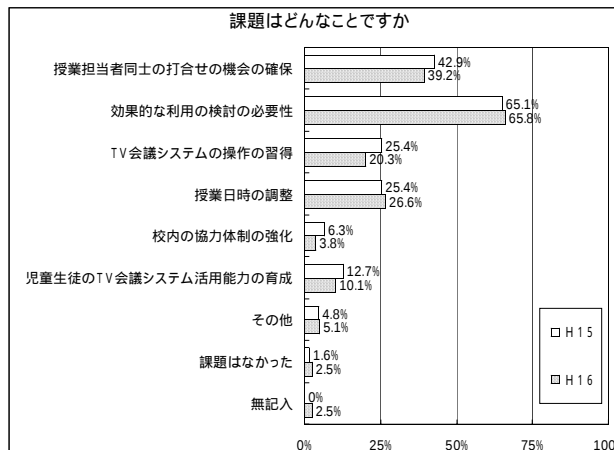
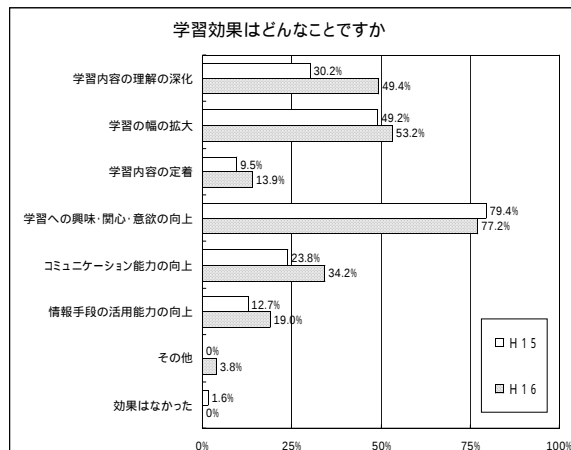
る。なお、打ち合わせにはＴＶ会議システムを利用するように働きかけたが、利用は思ったほどではなかった。前もってＦＡＸや電子メールなどの非同期的な手段を利用して計画案や資料を送信した上で、ＴＶ会議システムを利用して綿密な打ち合わせを行うと拘束される時間を少なくすることができ、能率的である。

（参考）その他の「ＴＶ会議システムの利用に関するアンケート調査」結果 児童生徒用

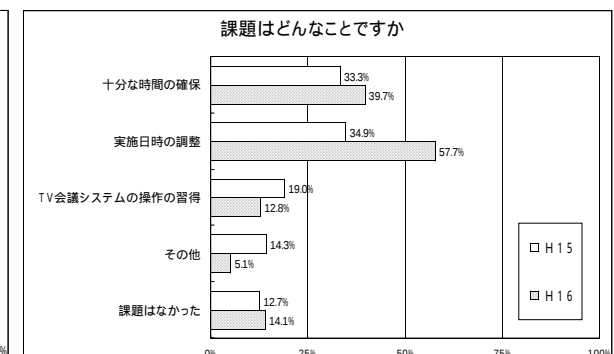
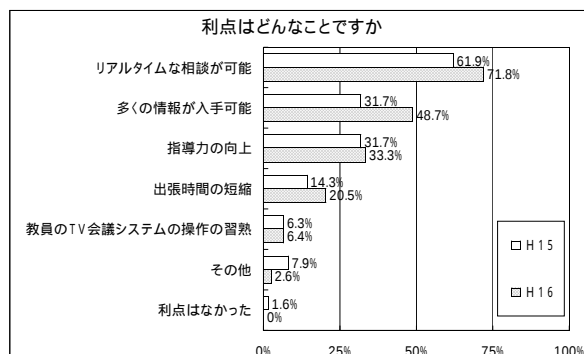


教員用

指導主事が支援する授業



センターの指導主事や他校の教員との情報交換，研修



5 交流・共同学習の在り方

推進校の実践例と「ＴＶ会議システムの利用に関するアンケート調査」を基に，ＴＶ会議システムを利用した交流・共同学習の在り方を述べる。ここでは，ＴＶ会議システムの利用が教科等のねらいを効果的に達成する要因として，教科等における交流・共同学習で取り組む内容とその進め方が大きなポイントとなるのではないかと考え，「交流・共同学習の内容」と「交流・共同学習の進め方」の二つについてまとめる。また，交流・共同学習のスケジュール例を最後に示している。

(1) 交流・共同学習の内容について

ＴＶ会議システムを利用する必要性を明確にした内容

ＴＶ会議システムがあるからという理由だけで，利用するのであれば，苦勞が多く，効果はあまり期待できない。ＴＶ会議システム利用の必要性を明確にした内容となるように工夫すべきである。次のような必要性があると効果的である。

- | | |
|-------------|-------------|
| ア 生の情報を交換する | イ リアルタイムである |
| ウ 相手をする人がいる | エ 意見を出してもらう |
| オ 映像である | |

互いにメリットのある内容

一方的な情報提供では，提供側にとっては何もメリットがない。交流・共同学習が双方にメリットがあれば，学習意欲が増して活動に継続性が出る。

ＴＶ会議システムを利用して効果のある単元や題材を整理

ＴＶ会議システムを利用しても，あまり効果が上がらない単元や題材がある。そこで，実践して効果のある単元や題材を整理しておくとし，次年度の年間計画を立てるときに役立てることができる。

(2) 交流・共同学習の進め方について

交流，そして共同学習

ＴＶ会議システムを利用して児童生徒どうしで顔合わせをしたり，学級や自己紹介をしたりなど，共同学習の前には慣らしが必要である。単元の導入から一緒に交流し，学習を同一歩調で進めることで，より効果的な共同学習を行うことができる。また，教師どうしの交流も必要である。

授業のねらいに応じた場の設定がある交流・共同学習

ＴＶ会議システムは，全校や学年など大人数での利用も可能なので，授業のねらいに応じて，一対一や一対多，多対多など，場を意図的に設定することが必要である。たとえば，学級間における利用でも，一対一で会話をすることができ，あまり他人を意識する必要がない場を設定することができる。

児童生徒の自然な動きのある学習

指導計画が詳細過ぎると，逆効果になるときがある。ときには，児童生徒の主体性を生かすことが，コミュニケーション能力の向上や学習の深まりにつながる。ただし，児童生徒の姿はそのまま画面を通して映し出されるので，相手の発表を聞く態度など最低限の学習マナーには配慮が必要である。

必要なときにＴＶ会議システムを利用する学習

常に、ＴＶ会議システムを利用して共同で学習する必要はない。共同で学習して、それぞれに新たな課題が見つかったときには、単独で学習を進める方法もある。相手の学習をただ単に見聞きするだけでは、学習効果は上がらない。状況に応じて切断し、その後、また、質問や話し合いが必要になったら再接続する。

事前に資料を配付して、児童生徒の課題意識の高揚と課題の焦点化を図る授業

相手へ事前に資料を送付して配付することにより、資料の内容を事前に理解させておくことができ、授業を効率よく進めることができる。

意見や感想、質問の交換を多く取り入れる学習

ややもすると発表に時間を多くとられがちである。発表内容を厳選してＴＶ会議システムを利用した対話を多くする学習が、児童生徒の意欲を向上させる。特に、小学校の低学年ではこのような配慮が必要になる。発表であればビデオに録画して相手に送り、事前に見てもらうことも可能である。

直接交流を交えた学習

ＴＶ会議システムを利用しての交流・共同学習は、同期的な間接交流である。もし、可能であれば、交流・共同学習を進める中で、直接に相手を訪問する機会を設けると、その後の学習に大きな効果が現れる。その訪問した児童生徒のいる学級や学年だけでなく、全校に交流の雰囲気は伝わることにより、教科等における交流・共同学習を行いやすい下地ができる。複数の情報手段を利用した打ち合わせ

打ち合わせにＴＶ会議システムを利用すると、対面するので、意思の疎通を取りやすくなる。また、文書のやりとりには、電子メールが有効である。各情報手段には、長所と短所があるので、複数の手段を利用して打ち合わせの機会を確保し、時間を有効に活用することが継続的な学習につながる。

学校間におけるＴＴである交流・共同学習

交流・共同学習の授業は、各校の授業者によるＴＴである。授業者だけではなく、機器操作に不慣れなときには機器を操作する人などが必要になる。また、交流・共同学習を複数の学級で行うときには、学校の窓口になる教員が必要になる。このように、複数の教員等がかかわるので、学校における協力体制が大切である。

ＴＶ会議システムの機能の限界を考慮した学習

ＴＶ会議システムの機能は、近年とても充実してきたが、まだ、限界がある。その限界を考慮して授業を進めることが大切である。次に、考慮する点を述べる。

- ・タイムラグのために相手と合わせた動きをすることは難しいので、動きを合わせて行うときには、互いの意志疎通を十分に図る必要がある。
- ・模造紙に書いた字は見えにくいので、小さな用紙に書いて書画カメラで提示する方が見やすくなる。また、コンピュータを利用し、提示する方法もある。
- ・カメラは光の影響を受けやすいので、逆光に注意して、カメラや話す人の位置を決定する必要がある。
- ・接続中にカメラの向きが変わると、画面は見えにくくなる。そこで、カメラの向きを固定して、話す人がカメラの前に立つように工夫すると画面は見やすくなる。

交流・共同学習のスケジュール例

 は授業等の時間

時期，授業	計 画
年度当初（または，案が出たとき）	・ 年間指導計画に位置付け。電話で授業担当者どうして時期や概要を確認。 ・ 校長，教頭へ連絡。
	<u>計画立案</u> ・ 単元計画，交流・共同学習の内容，期日など。
1ヶ月前	・ 計画を電子メールで送信。 ・ T V会議システムを利用して，打ち合わせ。 ・ 内容に応じて，校内の関係者に協力依頼。
約10日前	・ 朝または帰りの会で，学校紹介のビデオを作成。 ・ 学級紹介をT V会議システムで送信して相手校で録画。または，ビデオレター。可能であれば，T V会議システムを利用して，互いの学級紹介を行う。
約1週間前	・ 使用する資料等を電子メールで送信。 ・ T V会議システムで最終打ち合わせ。 ・ 校内の授業関係者に連絡。
前 日	・ T V会議システムの事前チェック。 ・ 設置場所の環境等を確認して機器の設置場所を決定。
1 時間目 ↓ 2 時間目以降 ↓ 共同学習 ↓ 次時以降 ↓ 単元の最終時間	・ 全員であいさつ。 ・ 授業の最初にT V会議システムを利用して単元や共同学習の内容を紹介。
	・ 各校単独で授業。
	・ 児童生徒の資料は必要に応じて事前に配付。 ・ 両校の児童生徒が活躍できるように支援。 ・ T V会議システムが利用できなくなったときの対処法を打ち合わせておく。
	・ 必要に応じてT V会議システムを利用。
	・ 授業の最後にT V会議システムを利用して単元の学習の感想などを発表。 ・ 最後のあいさつ。
事 後	・ 授業担当者どうして，改善点などの話し合い。

6 教育用コンテンツの作成数

(1) 教育用コンテンツの作成数（平成17年3月1日現在）

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道德	特別活動	総合的な学習の時間	特別支援教育	合計
作成数															
平成15年度	10	8	17	21	2	3	5	5	5	3	3	2	9	1	94
平成16年度	8	5	10	18	0	1	2	4	2	1	3	2	0	2	58

(2) 教育用コンテンツのうち学校へ提供するコンテンツ数

教科等	国語	社会	算数 数学	理科	生活	音楽	図工 美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道德	特別活動	総合的な学習の時間	特別支援教育	合計
作成数															
平成15年度	0	1	4	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
平成16年度	3	0	1	9	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	16

事業の成果と課題

1 成果

指導主事が資料や映像を提示したり，児童生徒の質問に答えたりし，授業を支援することにより，児童生徒の学習に対する興味・関心や学習内容の理解の深化の面で昨年度と比較して向上してきている。また，児童生徒は，指導主事の支援を役立つと感じている。

推進校において多くの交流や共同学習に関する実践が行われ，その実践事例を蓄積することができた。児童生徒は，その学習に意欲的である。

学校の教員は，インターネットＴＶ授業の打ち合わせや研修で指導方法や指導技術について，リアルタイムに指導主事に相談することにより，多くの情報を入手でき，指導力の向上につながったと感じている。

推進校を中心としてその学区の学校や養護学校から，ＴＶ会議システムを利用して授業や研修会を行いたいという要望が出てきている。推進校以外にも，ＴＶ会議システムの利用が拡大してきた。

2 課題

ＴＶ会議システムを利用した授業を行う際に，教員同士，教員と指導主事間の打ち合わせを行う時間の確保が難しい。よりよい活用にするためにも，打ち合わせを行う手段や方法を改善しなければならない。

ＴＶ授業は目的でなく，一つの手段であることの認識をもつ必要がある。効果的な活用となるように，活用事例を蓄積していく必要がある。

ＴＶ会議システムを利用したセンターと学校間で行う研修をさらに充実する必要がある。作成した教育用コンテンツの普及と活用を図る必要がある。

3 来年度に向けて

実践事例を作成し，推進校へ提供する。

授業実施までの手順等を整理する。

保護者や地域の人々の活用を検討する。

事業の最終年度の構想を検討する。

資料

1 インターネットTV授業等実施一覧

指導主事が支援する授業

日	曜	学校名	学年	教科等名	単元名	授業のねらいと内容	指導主事等が支援する内容
5 / 11	木	鶴舞小	2	体育	表現リズム遊び	覚えた動きを生かして、リズムに乗って、友だちと楽しく踊ることができる。	児童の動きのいいところやもっと工夫すればよいところをアドバイスする。
5 / 14	木	栄小	6	理科	動物のからだのはたらき	人の体内を流れる血液の流れを調べる活動を通して、心臓や血液のはたらきについて知る。	血液の流れや心臓のはたらきについての実験やVTRをみせ、学習のまとめの補足説明をする。
6 / 2	水	東大曲小	6	理科	動物のからだのはたらき	からだの中の血液の通り道を調べ、心臓の拍動数と脈拍数をはかって、心臓の動きと血液の流れを結び付けて考えることができる。	血液が流れている様子や心臓の拍動の様子がわかる映像等を提示し、児童にさらにその結び付きに気づかせる。
3	木	男鹿南中	3	美術	絵画 自分の世界を表す	自分の思いにあった方法や技法を考えて、心の世界を効果的に表現する。	彩色段階で悩んでいる生徒へアドバイスをする。
		十和田小	5	理科	植物の発芽と成長	肥料のない土で発芽したインゲンマメが、この後大きく成長していくにはなにが必要かに興味をもち、必要な条件を予想し、条件を統一して調べる計画を立てることができる。	日光の実験方法について条件の統一がきちんとしてできているか確認して助言する。
4	金	鶴舞小	4	総合的な学習の時間	子吉川のひみつをさぐれ	子吉川についての自分の課題について追究することができる。	追究の方法で迷っている児童に効果的な調べ方を助言する。
		男鹿南中	3	自立活動	可能性に挑戦	身体機能(言語動作)を克服するための技能を学び向上に励む。	言語・動作の機能回復訓練の方法
8	火	栄小	4	理科	電気の働き	乾電池のつなぎ方を変えたときの豆電球の明るさと電流の強さとの関係を調べる。	グループで直列や並列につなぎ電流計とつないだ回路が正しいかどうかを確認する。
9	水	栄小	6	算数	比べ方を考えよう	混み具合を比べる時、単位量当たりの考え方をいれればよいことがわかる。	単元の1時間目に当たり、混み具合を調べる必要性がある場面の課題を提示する。
15	火	鶴舞小	5	理科	魚や人のたんじょう	魚と人の生命の始まりに興味をもち、児童の育つまでの様子を調べる計画を立てる。	児童の興味・関心を高め、主体的に追究できるような映像資料を提示する。
		男鹿南中	3	美術	絵画 自分の世界を表す	自分の思いにあった方法や技法を考えて、心の世界を効果的に表現する。	菜食段階で悩んでいる生徒へアドバイスをする。
		東雲中	1	保健体育	欲求やストレスへの対処	中学生が抱えるストレスや欲求に適切に対処する方法について、友だちの意見を聞いたり、自分の考えを発表することで理解を深め、今後の生活に生かすことができるようにする。	ストレスについて説明する。
18	金	鶴舞小	6	理科	動物のからだのはたらき	呼吸、消化、血液の流れとその働きがわかる。	血液が流れている映像などを提示して、児童の疑問などに答える。
21	月	東大曲小	5	国語	わたしたちはこう考える	自分達の学校生活上の問題を解決するために話し合う。あるテーマについて話し合い、その様子について自己評価や相互評価をする。	話し合いの様子を見て、気付いたことをアドバイスする。
		栄小	1	国語	おばさんとおばあさん	長音のある言葉を読む。 インターネットTVに慣れる。	一人一人の音読を聞き、アドバイスをする。
		栄小	3	算数	見やすく整理しよう	身の回りの数量を表やグラフにまとめ、よさを理解する。	児童のまとめ方を見て、それぞれに対しアドバイスや賞揚を行う。
22	火	栄小	4	算数	かわり方を見やすく表そう	目もりの一部を波線で省略した折れ線グラフの表し方を理解する。	目もりの取り方や書いたグラフのチェックをする。"便利"であることがわかるグラフの提示。
		鶴舞小	3	国語	名前をつけよう	名前を付ける話し合いを通して、意見の同じ点や違う点を考えながら話し合う力を付ける。	話し合いの様子を観察して話し合いの仕方についてコメント、助言する。

23	水	東大曲小	23 4 あおぞら	生活 単元 学習	あおぞらのぞみshopの包装紙を作ろう	いろいろな色を楽しみながらイメージをもって表現することがきる。いろいろなものをつかってスタンプ遊びを楽しみながら、包装紙の模様づくりをする。	様々な包装紙を紹介する。
25	金	十和田小	2	図画 工作	こんなことしたよ	自分の作品の発表をしたり、友だちの作品を鑑賞したりしながら、絵で思いを表現するためのポイントに気付くことができる。	自分の思いを絵によって伝えるためのポイントを教える。
		鶴舞小	4	総合的な学習の時間	子吉川のひみつをさぐれ	子吉川についての自分の課題について追究することができる。	追究の仕方についてのアドバイスや児童の質問に答える。
		十和田小	3	音楽	きれいな音で	リコーダーの音色やタンギングに気を付けて、演奏の仕方を工夫することができる。	児童一人一人がリコーダーを吹く様子を見て、アドバイスをする。
		十和田小	6	家庭	衣服を気持ちよく	衣服のはたらきや着方について考える。	布地による水の吸いやすさの違いやあたたかさの違いなどの実験を提示する。
28	月	十和田小	4	体育	育ちゆく体とわたし すくすく育つわたしの体	心身の健全な発育や健康の保持増進には、食事、休養・睡眠、運動の調和のとれた生活を送ることが必要であることがわかるとともに、望ましい発育・発達のためには、どのような生活をおくったらよいかを考え、判断することができる。	バランスのとれた食事、休養・睡眠・運動の大切さについて話をする。
29	火	男鹿南中	2	英語	P 4	there構文 助動詞	コース別学習の一つを担当する。
30	水	栄小	5	算数	タングラム	基本図形を組み合わせていろいろな形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさや不思議さを感じ、論理的思考力を伸ばす。	授業の導入段階で課題を提示する。児童の作品にコメントしたり、発展問題を出したりする。
7 / 2	金	十和田小	2	体育	マットあそび	いろいろなマットでいろいろな回り方をして遊ぶ。	前まわり後ろまわりのポイントを児童の技を見ながら教える。
		鶴舞小	6	総合的な学習の時間	見つめよう 命の星地球	課題の解決に向けて主体的に活動しようとする。 調査方法を選択しながら追究活動をする。	地球温暖化、酸性雨、オゾン層、森林破壊、砂漠化等について児童の質問に答える。
5	月	湯沢南中	2	技術・家庭	エネルギー変換	発光の仕組みを知る。	発光実験を提示する。
6	火	鶴舞小	3	国語	集まれ世界のお話	本の帯をグループで見合って自分や友だちの作品のよいところを見付ける。	終末にいろいろな国や地域の話を紹介する。
		湯沢南中	2	技術・家庭	エネルギー変換	発光の仕組みを知る。	発光実験を提示する。
7	水	湯沢南中	2	技術・家庭	エネルギー変換	発光の仕組みを知る。	発光実験を提示する。
		鶴舞小	3	国語	三年とうげ	いろいろな本を知り、それらの探し方を理解する。	いろんな国の話や地域の話を紹介する。
		栄小	6	理科	植物のからだのはたらき	植物の葉に日光が当たるとでんぷんが出来ることから、日光の働きについて理解させる。	葉で作られたでんぷんは、植物の成長に使われたり、実に貯えられたりすることなどの説明をする。
8	木	湯沢南中	2	技術・家庭	エネルギー変換	発光の仕組みを知る。	発光実験を提示する。

		東雲中	3	理科	エネルギー	既習内容（小5）について、観察・実験を通して振り返る。エネルギーの導入として、学習への見通しをもたせる。	学習前調査の結果の説明と、関連する動画を提示する。エネルギーについて関連する動画を提示し、興味・関心をもたせる。
		男鹿南中	3	美術	自分の世界を表す	表現を工夫して自分の思いを表す。	生徒の質問や相談にのる。
		十和田小	3	理科	こん虫の食べ物とすみかをしらべよう	こん虫の食べ物とすみかについて調べたことを発表し合い、食べ物とすみかにはかかわりがあることに気付くことができる。	児童の発表を見てコメントをする。
		東大曲小	4	特別活動	学級集会の計画を立てよう	友だちの意見を尊重しながら、自分の考えをしっかりと発表しようとしている。	楽しい集会の例を紹介し、話し合いのコツや約束ごとを教える。
9	金	男鹿南中	2	英語	未来形	未来形を用いてスピーチを行う。	スピーチを聞いて質問やコメントをする。
		栄小	1	国語	おもちゃとおもちゃ	拗音のあることばを読んだり書いたりする。	こどもが見付けたことばを聞いたり、書いたカードを見たりする。
		鶴舞小	5	国語	漢字の成り立ち	漢字に興味をもち、成り立ちについての知識を身に付ける。	漢字クイズなどで意欲付けを図る。また、成り立ちに関する質問に対応する。
		東大曲小	6	理科	植物のからだのはたらき	身の回りの植物にも日光が当たるとでんぶんができるかを調べ、学習のまとめをすることができる。	葉のでんぶん粒子の映像や、でんぶんの話をする。
12	月	栄小	2	国語	すきなお話を読もう	場面の様子を想しながら読み、おの楽しさを味わう。	グループ発表を聞いた感想を話す。
		東雲中	3	理科	エネルギー	学習内容（小5）について、観察・実験を通して振り返る。エネルギーの導入として、学習への見通しをもたせる。	学習前調査の結果の説明と、関連する動画を提示する。エネルギーについて関連する動画を提示し、興味・関心をもたせる。
13	火	十和田小	5	図画工作	リサイクルパラダイス	集めた材料から発想し、積極的に造形活動を生かして楽しむ。	児童が作りながら新たに発想が広がるように声かけをする。
		栄小	4	図画工作	むすんで、つないで、それから	自然材（木）の形や質感の面白さを生かし、結んだりつないだりして作品にする。	発想を広げる手立てを示す。
		湯沢南中	2	技術・家庭	電子メール	電子メールを活用して情報を交換する。	送信する電子メールに助言する。
14	水	男鹿南中	2	社会	近世の日本と世界	テーマを設定して学習した内容をまとめ、発表しあう。	発表内容に対する講評の補足をやる。
15	木	男鹿南中	2	技術・家庭	幼児の成長	幼児の心身の発達の特徴や生活習慣について調べたことをまとめ発表することができる。	まとめ方、発表の仕方で迷っているグループにアドバイスをする。
16	金	男鹿南中	2	国語	短歌と俳句それぞれの表現	自ら短歌を作ることで日本の伝統的詩型への興味を高めさせたい。	生徒の作った短歌鑑賞文に助言をし、推敲のポイントを指摘する。
		栄小	5	家庭	針と糸を使ってみよう	針・糸名人の試し縫いの様子を見て、正しい針や糸の使い方のコツをつかむ。	針・糸名人として、試し縫いを演ずる。
20	火	東雲中	3	理科	エネルギー（実験1）	位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりについて調べる。	生徒と対話を通して気付かせる。教育用コンテンツを提示したり、考えるポイントを示したり、まとめを行う。
21	水	栄小 東大曲小	3	道徳	だれかのために	資料や自分の体験から「おもいやり」の気持ちを表す大切さやむずかしさについて考えを出し合う。	資料の提示と終末で心のノートおもいやりに関する提示をする。

9 / 1	水	栄小	3	理科	チョウをそだてよう	モンシロチョウの成長の仕方を理解する。	脱皮やさなぎ、羽化の様子の映像を提示する。
3	金	栄小	2	国語	声に出して読もう	好きな詩を音読したり、グループや全体で詩の発表会を行ったりして、詩に興味をもつ。	グループの代表の児童が音読するのを聞いて、アドバイスをする。
7	火	男鹿南中		英語		英語暗唱弁論大会参加者のスピーチ	スピーチの講評する。
9	木	東雲中	3	理科	エネルギー	位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりを調べる。力学的エネルギーについて知る。	エネルギーの変換に関する動画等を提示する。ふりこのエネルギー変換や力学的エネルギーについて動画を交えて説明する。
10	金	男鹿南中	3	選択 英語		英語劇「白雪姫」等の実演	文化祭(土日)での上演に向けて助言をする。
13	月	栄小	3	理科	こん虫をしらべよう	完全変態の虫と不完全変態の虫がいることを理解する。	それぞれの虫の育ち方について、映像で提示する。
		十和田小	4	理科	月と星	発展学習 月や星についてもっと詳しく調べる。	いろいろな星や星座の話を紹介する。 天体望遠鏡写真を提示する。(星雲や惑星)
14	火	鶴舞小	5	理科	台風と天気の変化	台風の進路と天気の変化の関係について調べる。	気象衛星の連続写真や台風のVTRを提示する。
		十和田小	4	理科	月と星	発展学習 月や星についてもっと詳しく調べる。	いろいろな星や星座の話を紹介する。 天体望遠鏡写真を提示する。(星雲や惑星)
		東雲中	3	理科	エネルギー	エネルギーの移り変わりについてまとめる。エネルギーにはどんな姿があるか調べる。	ふりこのエネルギー変換に関する動画を提示しまとめる。電気エネルギーについて興味・関心をもたせる教育用コンテンツを提示する。
		東大曲小	2	国語	声に出して読もう	教科書の詩や詩集から、選んだ好きな詩を声に出して読み、詩のおもしろさを味わう。	その音読の仕方を指導・助言する。
		栄小	5	家庭	作って楽しく使おう	身の回りの布について調べ、布の特徴について気付くことができる。	布の特徴の調べ方のヒントを示したり、調べたことを補足する。
15	水	東雲中	3	理科	エネルギー	エネルギーにはどんな姿があるか調べた結果やその考察、まとめをする。	電気エネルギーに関する教育用コンテンツを提示する。
		栄小	1	体育	とびばこあそび	いろいろなとびばこ遊びの種類を知り、実際にやってみる。	いろいろなとびばこ遊びを映像で紹介する。
		男鹿南中	1	技術・家庭	マルチメディアの活用	プレゼンソフトを活用し、発表用資料(スライド)を作成できる。	プレゼンソフトを活用した発表のリハーサルでアドバイスをする。
17	金	鶴舞小	2	図画工作	海底10000mの生き物たち	想像した生き物をペットボトルを主材料として立体に表す。	児童の相談にのり、助言する。
21	火	東雲中	3	理科	エネルギー	熱で物体を動かしたり、光で電流を取り出したりする。	生徒との対話を通して考えを引き出し、導く。エネルギーの単位について説明する。
		鶴舞小	6	総合的な学習の時間	みつめようわたしたちのふるさと	前時までの課題追究の活動を振り返り、新たな方向性を見出すことができる。	追究方法のアドバイスや追究内容についての専門性を生かした指導をする。
		栄小	4	図画工作	ダンス!ねん土でワンダーランド	ねん土の可塑性を楽しみながら好きな生き物を表そうとする。	児童の作品を見て、もっと動きのある楽しい作品になるヒントの言葉をかける。
		鶴舞小	4	理科	月と星	星座は、時刻によって位置は変わるが、星の並び方は変わらないことを理解する。	星の動きを提示し、星の話をする。
22	水	十和田小	5	国語	体験したことをわかりやすく伝えよう	体験したことを伝えるスピーチのために書いた原稿を基に相手にわかりやすく伝えるように練習する。	児童のスピーチ練習に対してアドバイスをする。

		男鹿南中	1	技術・家庭	マルチメディアの活用	プレゼンソフトを活用し、発表用資料(スライド)を作成できる。	プレゼンソフトを活用した発表のリハーサルでアドバイスをする。
		鶴舞小	4	理科	月と星	星座は、時刻によって位置は変わるが、星の並び方は変わらないことを理解する。	星の動きを提示し、星の話をする。
		栄小	6	算数	分数のかけ算とわり算	分数÷分数の計算に習熟する。 ・整数÷分数 ・帯分数の計算もあつかう。	コース別にするので発展のコースの児童の指導をする。
24	金	鶴舞小	4	理科	月と星	星座は、時刻によって位置は変わるが、星の並び方は変わらないことを理解する。	星の動きを提示し、星の話をする。
27	月	男鹿南中	2	英語	サンシャインの2年プログラム5	少人数によるプログラム5のまとめの学習	少人数の一つのコースを担当する。
		十和田小	2	算数	ひっ算のしかたを考えよう	学習内容の理解を確認し、算数への興味を広げる。	単元の最後なので、いろいろな難度や種類の問題を出す。
28	火	鶴舞小	2	図画工作	海底10000mの生き物たち	想像した生き物をペットボトルを主材料として立体に表す。	児童の相談にのり、助言する。
		東雲中	3	理科	エネルギー	エネルギーの移り変わりと保存について考える。発電について知る。	エネルギーの変換についてまとめる教育用コンテンツを提示し、説明する。発電に関する教育用コンテンツを提示する。
		湯沢南中	2	技術・家庭	クラスCMをしよう	わかりやすく情報をまとめ、発表できる。	審査員としてアドバイスをする。
		男鹿南中	2	英語	サンシャインの2年プログラム5	少人数によるプログラム5のまとめの学習	少人数の一つのコースを担当する。
30	木	鶴舞小	2	図画工作	海底10000mの生き物たち	想像した生き物をペットボトルを主材料として立体に表す。	児童の相談にのり、助言する。
10 / 5	火	東雲中	3	理科	エネルギー	エネルギーの移り変わりと保存について考える。いろいろなエネルギーについて知る。エネルギーの損失について調べる。	エネルギーの変換についてまとめる教育用コンテンツを提示し、説明する。エネルギーの損失に関する動画を提示し、考えさせる。
7	木	湯沢南中	2	技術・家庭	情報とコンピュータ	パソコンなどの特徴を生かしてクラスCMを制作して、わかりやすく発表することができる。	各グループの発表に対してアドバイスをする。
8	金	東雲中	1	技術・家庭	情報とコンピュータ	掲示板を使ってネットワーク活用のマナーについて考えることができる。	学習指導についての協議、指導をする。
		湯沢南中	1	技術・家庭	技術とものづくり	各素材の特徴を知り、自分の設計に役立てようとする。	素材の特徴や加工方法について実技を交えて説明する。
13	水	東雲中	3	理科	エネルギー	化学変化と熱エネルギーの関係を調べる。	小学6年、中学1年で学習した内容に関する教育用コンテンツを提示する。演示実験から考えるポイントを示す。
14	木	十和田小	2	音楽	虫の声	秋の様子や虫の様子を想像しながら歌い方を工夫する。	声の出し方など歌い方についてアドバイスをする。
18	月	東雲中	2	理科	電気	電気の歴史 電気の正体	電気について興味のある話をする。
19	火	鶴舞小	4	国語	十才を祝おう	総合「1 / 2 成人式」に向けてスピーチ練習をし、わかりやすく話することができるようにする。	スピーチの練習を見て、助言する。
		東雲中	2	理科	電気	電気の歴史 電気の正体	電気の発見の歴史をわかりやすく指導する。 電気の正体を説明する。

		東雲中		理科	電気	電気の歴史 電気の正体	電気の発見の歴史をわかりやすく指導する。 電気の正体を説明する。 琥珀を擦って静電気が起こる様子を演示実験する。
20	水	鶴舞小	5	国語	方言と共通語	方言とは何かを知り、方言に対する興味・関心をもつ。	方言をいくつか提示して意欲付けを図る。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	大地のつくりについて予想する。	日常事象や既習事項にかかわる映像を提示し、イメージを広げる。
21	木	東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	大地がどのようにしてできたか予想し、学習計画を立てる。	日常事象や既習事項にかかわる映像を提示し、具体的に考えがもてるよう支援する。
		鶴舞小	3	総合的な学習の時間	本荘の街すてき発見だ Part 2 ~お店のすてきをしようかいしよう~	お店のすてきなところを意欲的に伝えようとする。 調べたことがわかりやすく伝わるように、発表することができる。	発表がほぼ完成したグループに、アドバイスをする。
		東雲中	3	理科	エネルギー	位置エネルギーと運動エネルギー、化学変化と熱エネルギーなど、既習内容について振り返る。(補足的な学習)	既習内容について理解不十分なところや疑問について振り返り学習を行う。関連する教育用コンテンツで説明する。
22	金	東雲中	3	理科	エネルギー	位置エネルギーと運動エネルギー、化学変化と熱エネルギーなど、既習内容について振り返る。(補足的な学習)	既習内容について理解不十分なところや疑問について振り返り学習を行う。関連する教育用コンテンツで説明する。
25	月	東雲中	3	理科	磁力	コイルに電流を流すとコイルはどう動くか考える。	生徒の考えを聞き、質疑応答をしたり、説明を加えたりする。
26	火	東雲中	3	理科	エネルギー	いろいろな化学変化による温度変化を調べる。	生徒の質問に答えたり、関連する動画を提示したりする。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	自分で考えた堆積実験を基に、地層のでき方を確かめようとする。	地層の映像を見せ、実験結果と比べることにより、地層のでき方について考えを広げる。
		東雲中	3	理科	エネルギー	位置エネルギーと運動エネルギー、化学変化と熱エネルギーなど、既習内容について振り返る。(補足的な学習)	既習内容について理解不十分なところや疑問について振り返り学習を行う。関連する教育用コンテンツで説明する。
27	火	東雲中	3	理科	エネルギー	化学変化と熱エネルギーの関係を調べる。	生徒の質問に答えたり、関連する動画を提示したりする。
		東雲中	2	理科	磁力	コイルに電流を流すとコイルはどう動くか考える。	生徒の考えを聞き、質疑応答をしたり、説明を加えたりする。
		鶴舞小	3	国語	ちいちゃんのかげおくり	場面の様子を想像しながら音読する。	映像などを用いながら平和の尊さについて話す。
		東雲中	3	理科	エネルギー	位置エネルギーと運動エネルギー、化学変化と熱エネルギーなど、既習内容について振り返る。(補足的な学習)	既習内容について理解不十分なところや疑問について振り返り学習を行う。関連する教育用コンテンツで説明する。
28	木	十和田小	6	体育	たばこの害	喫煙が心身の健康にどのように影響するのか理解することができる。	たばこ人形を使って主流煙と副流煙の違いについて実験と説明をする。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	火山のはたらきでできた地層のでき方を確かめる。	火山灰でできた地層の映像を見せ、具体的イメージをもたせる。
		東大曲小	2	体育	表現・リズム遊び	自分でなりたいものを決め、そのものになりきったり自分なりにリズムにのったりして、のびのびとどる。 個人やグループで「○○がするところ」を表現する。	児童の表現しているところを見て、途中でアドバイスをする。

11 / 1	月	鶴舞小	6	理科	大地のつくりと変化	写真資料やVTR等を通して大地のつくりと変化についてまとめることができる。	写真資料やVTR等を使って地層の様子やでき方について専門的な説明をする。
2	火	東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	火山灰や砂の粒の観察を基に地層のつくりや性質の違いを考える。	学校にはない標本をフレキシブルカメラで提示し、紹介する。
		東雲中	3	理科	エネルギー	身近な物質で電池を作り、電気を取り出す。(実験4)	電池の仕組みに関する動画の提示や説明を行う。燃料電気について説明する。
		東雲中	3	理科	エネルギー	位置エネルギーと運動エネルギー、化学変化と熱エネルギーなど、既習内容について振り返る。(補充的な学習)	既習内容について理解不十分なところや疑問について振り返り学習を行う。関連する教育用コンテンツで説明する。
4	木	十和田小	2	算数	九九をつくろう	7の段の九九を工夫して作ることができる。	児童が作ったのと別の方法をパワーポイントで示す。
5	金	鶴舞小	2	図画工作	お話の絵を描こう	お話を読んで想像したことを絵に表現する。	児童の様々な相談に対応する。
		十和田小	5	算数	面積の求め方を考えよう	平行四辺形や三角形の求積方法を活用して、台形やひし形の面積の求め方を考える。	台形の求め方を考える児童に考え方のアドバイスやヒントを出す。
		十和田小	2	算数	九九をつくろう	7の段の九九を工夫して作ることができる。	児童が作ったのと別の方法をパワーポイントで示す。
		十和田小	1	図画工作	版画遊び	ローラーやスタンプなどを使って思い思いに版画遊びを楽しむ。	ローラーなどを使った版画の技法を実技を交えて教える。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	地域の地層のつくりを予想し、観察の計画を立てる。	地域の地層の映像を基に、観察の順序や安全について確認する。
		東雲中	3	理科	エネルギー	位置エネルギーと運動エネルギー、化学変化と熱エネルギーなど、既習内容について振り返る。(補充的な学習)	既習内容について理解不十分なところや疑問について振り返り学習を行う。関連する教育用コンテンツで説明する。
8	月	栄小	1	国語	おぼえてつかおう	絵や印からできた漢字の成り立ちのおもしろさに興味を持ち、読んだり書いたりしようとする。	教科書に成り立ちが出ている漢字とこのほかの既習漢字についても成り立ちを動画で提示する。
9	火	東雲中	3	理科	エネルギー	身近な物質で電池を作り、電気を取り出す。(実験4)	木炭電池の実験に関連する教育用コンテンツを提示する。環境とエネルギーについて説明する。
		鶴舞小	6	特別活動	火災時の安全な避難	火災時の安全な避難の仕方について考えることができる。	写真資料やVTR等を使って、火災の危険性や安全な避難についての専門的な説明をする。
10	水	栄小	2	国語	ようすを考えて読もう	がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように語や文のまとめ、声の大きさなどに注意して読むことができる。	グループ練習をしている時に、読み方についてアドバイスをする。
		東雲中	3	理科	エネルギー	日常生活で見られるエネルギーの移り変わりや保存、変換を実験で確かめる。(補充的・発展的な学習)	予想・仮説の設定や検証計画の立案、結果の妥当性、考察のまとめ方を対話を通して支援する。科学的な見方や考え方を育てる。
		東雲中	3	理科	エネルギー	1章いろいろなエネルギー、2章化学変化とエネルギー、既習内容を振り返る(補充的な学習)、観察、実験に関する内容の質疑応答。	既習内容について理解不十分なところや疑問について振り返り学習を行う。関連する教育用コンテンツで説明する。 予想・仮説や結果、考察について授業中では確かめができなかった生徒や疑問等について支援する。
11	木	栄小	3	音楽	木管楽器の音楽をきこう	フルート・オーボエ・クラリネットの音色を知る。	フルート・オーボエ・クラリネットを演奏し、各楽器について説明する。また、音色クイズを出題する。
		栄小	1	国語	おぼえてつかおう	漢字を使って短文を読んだり書いたりする。	児童がカードに書いた文を見る。

12	金	東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	地域の地層の様子について野外観察し、地域の大地のつくりについて調べる。	観察したことを手がかりに、地層のでき方について説明する。
		十和田小	6	家庭	楽しい食事を工夫しよう	家族のための朝食メニューを考える。	児童が作った朝食メニューを見て、栄養バランスや作る手順についてアドバイスをする。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	地域の地層の様子について野外観察し、地域の大地のつくりについて調べる。	観察したことを手がかりに、地層のでき方について説明する。
17	水	男鹿南中	2	理科	化学変化と原子分子	本校ではできない激しく変化する実験を見る。	液体酸素を使った燃焼や、ナトリウムと水の反応などの実験を提示する。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	ふん火と地震による急激な大地の変化について選択して調べる計画を立てる。	ふん火と地震に関する映像資料を提示し、具体的なイメージがもてるようにする。
18	木	男鹿南中	2	理科	化学変化と原子分子	本校ではできない激しく変化する実験を見る。	液体酸素を使った燃焼や、ナトリウムと水の反応などの実験を提示する。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	ふん火と地震による大地の変化について、自分の計画を基に調べる。	個々の考えをはっきりさせたり、まとめ方に助言をしたりする。
		東雲中	2	理科	物質は何からできているか	原子ってどんなもの。	原子モデルを提示しながら、質量や大きさについて説明する。 生徒の考えた原子モデルを確かめる。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	ふん火と地震による大地の変化について、自分の計画を基に調べる。	個々の考えをはっきりさせたり、まとめ方に助言をしたりする。
19	金	東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	火山活動と地震による大地の変化について発表をする。	調べる方法やまとめ方についてほめたり助言したりする。
		東大曲小	6	理科	大地のつくりと変化	火山活動と地震による大地の変化について発表をする。	調べる方法やまとめ方についてほめたり助言したりする。
22	月	栄小	3	図画工作	はこそそれぞれの物語	箱の形や使い道から想像を広げ、思い付いたものを作る。	児童の作品を見て、アドバイスや賞揚をする。
		栄小	4	体育	寒いっ 木枯らしだ！	(風船、木枯らしなど)題材の特徴を捉えて協力して表現する。	児童が表現にいきづまったときなど、アドバイスや動きを示す。
24	水	男鹿南中	1	音楽	リコーダーアンサンブル	グループごとに発表し、演奏を聴き合う。	発表を聴いてアドバイスをする。
25	木	東大曲小	1	国語	本と友だちになろう	本を読むことの楽しさに気付き、好きな本を紹介する。	1年生児童にお勧めの本を紹介する。また、楽しい読みを進めていくための指導の手立てなどを教える。 授業に関する感想やアドバイスをする。
		十和田小	3	体育	前転と後転	自分のめあてに向かって工夫して練習することができる。	技のポイントを指導(個別指導)する。
26	金	東大曲小	5	自立活動	夢に向かってホップ、ステップ、ジャンプ!!	自分の夢を叶えるために、どのような力を付けたらよいか考えることができる。	児童の考えを聞いて、次の学習に意欲をもって取り組めるように励ます。
		鶴舞小	6	算数	比例	比例の関係を確認し、比例の性質を利用して問題を解くことができる。	発展コースが終わった児童に生活に密着した問題を提示する。生活に密着した豆知識を話す。
29	月	湯沢南中	1	英語	Unit 7	日本の学校と外国の学校の違いを知る。	A L T が学校生活について説明する。

30	火	鶴舞小	3	体育	毎日の生活とけんこう	健康のため、生活リズムの大切さを理解する。	体内時計や生活リズムについて、3年生向き話す。
		栄小	6	理科	大地のつくりと変化	大地がどのようなものでできているか自分なりに考えることができる。	大地をつくっているものは何であるかがわかる資料を提示する。
		湯沢南中	1	数学	比例と反比例	比例の歴史について知り、生活に生きた数学を感じる。	比例の歴史について15分位わかりやすく説明する。
12 / 1	水	鶴舞小	1	生活	みんなみんなだいすきだよ	家の人の仕事や得意なことを調べ、家の人のすばらしいところや家族の役割に気付く。	発表会に向けて発表の内容についてアドバイスをする。
2	木	男鹿南中	小6年生	英語	新入生体験入学	中学生の授業の雰囲気味わう。	6年生の英語を聞き、簡単な会話をを行う。
7	火	栄小	3	国語	説明書を作ろう	わかりやすい説明書を作るために大切な事項を考えることができる。	説明書の例示と児童の発表に対する賞揚をする。
8	水	鶴舞小	2	算数	九九をつくらう	かけ算を利用して、文章問題を正しく解くことができる。	発展問題を提示し、上位の児童をさらに伸ばすように対応する。
		栄小	1	特別活動	かぜになんかまけないぞ	風邪を予防するためにどうすればよいかを考えることができる。	うがい、手洗い、汗の始末、バランスのとれた食事などが風邪の予防に有効であることがわかるよう、クイズや動画による説明などをする。
10	金	鶴舞小	6	体育	病気の予防	薬物乱用による体への害を理解し、薬物から身を守るための対処法を考えることができる。	薬物(種類・害・身を守る対処法等)についての視覚に訴える映像資料の提示と説明)を提示する。
13	月	東大曲小	6	国語	わたしの6年間	聞き手の心をつかむようなスピーチを工夫することができる。 聞き手を意識したスピーチをする。	スピーチをする際の留意点や工夫点についての講評をする。
15	水	栄小	2	特別活動	かぜの予防をしよう	風邪を予防するために必要なことを知り、自分で風邪予防をしようとする事ができる。	手洗いをしないしていると、手にばい菌がついたままであることがわかる資料提示をする。
		栄小	5	家庭	砂糖のとり方	砂糖をとりすぎると体によくないことを知り、自分の食生活を見直すことができる。	砂糖のとりすぎによる体への影響の例を、提示する。
16	木	栄小	3	社会	農家の人のしごと	農家の人が気を付けていることや願いに気付く、自分のくらしとの関わりを考えることができる。	発表を聞き、賞揚・アドバイスを行う。 セリについての資料を提示する。
17	金	栄小	4	国語	色々な意味を持つ言葉	いろいろな意味をもつ言葉があることを知り、言葉への興味を深める。	児童から出された以外にも意味がある例を状況に応じて示す。
		東大曲小	5	自立活動	夢に向かってホップ、ステップ、ジャンプ!!	自分で運動のプログラムを考え、進んで体を動かすことができる。	今日の学習に意欲をもって取り組めるようなことばかけをする。 運動の仕方などでよかったところを取り上げて賞賛したり、アドバイスしたりする。
21	火	栄小	6	体育	エイズって知ってる?	エイズを正しく理解し、感染している人と共に生きていくことの大切さを感じる事ができる。	エイズについての説明と質疑応答をする。
1 / 18	火	鶴舞小	2	算数	形をつくらう	平面図形に親しみながら図形への基本的な理解を深める。	発展的な学習に対する支援をする。
		栄小	3	国語	道案内をしよう	相手にわかりやすく伝えることができる。	児童の案内を聞き、よかったところ改善点を教える。
20	木	鶴舞小	5	理科	もののとけかた	もののとけかたについて興味をもち、課題をもつことができる。	もののとけかたについて興味をもてるような画像などを見せる。
		栄小	6	理科	電流のはたらき	電磁石のはたらきに興味をもち、進んでそのしくみとはたらきを調べようとする。	児童の探求心を引き出すような電磁石を利用した事物や現象を提示する。
24	月	鶴舞小	2	算数	形をつくらう	基本図形を構成する活動を通して図形への理解を深める。	発展的な学習に対して支援する。
25	火	栄小	1	音楽	いろいろなおとがきこえるよ	様子を思い浮かべながら聞いたり、音楽に合わせて身体表現をしたりする。	楽しく身体表現できるような手立てを教える。
		男鹿南中	1	英語	Program 9	過去形を使ったスピーチの発表会を行う。	各自が冬休みの生活について過去形を用いたスピーチをするので、それを聞いて講評や助言をする。

		男鹿南中	1	英語	Program 9	過去形を使ったスピーチの発表会を行う。	
		東大曲小	4	理科	冬の星	冬の星を観察して、星の明るさや色の違い、時刻による位置の変化などをとらえることができる。 天体に関心をもち進んで調べようとする気持ちをもたせ、観測の計画を立てる。	センターの資料や機材を生かし、星座について説明する。
26	水	東大曲小	5 6 合同	体育	マット運動	自分の能力に適した技を選び、練習方法や活動の場を工夫しながら取り組むことができる。 自分の能力に応じた技を、それぞれにあった場で練習する。	マット運動の技やそのポイントを、画面を通して示範する。
		十和田小	3	算数	重さをはかるう	任意単位では不便なことから普遍単位の必要性に気付く。	g(グラム)という単位を示し、その由来について紹介する。
		男鹿南中	1	総合的な学習の時間	身近な環境を考える	暑い時使うのは「エアコン」か「うちわ」かでの討論	どちらの主張が環境と実生活のバランスを考えた主張なのかを判定する。
		鶴舞小	2	算数	形をつくろう	三角形・四角形の内容を理解する。	発展的な学習に対して支援する。
		湯沢南中	2	国語	漢詩の風景	漢詩の基礎知識を学び、情景や心情を読み味わう。	漢文を読む基礎知識や教科書の詩について、導入で説明する。
27	木	鶴舞小	4	算数	広さを調べよう	複合図形の面積の求め方を理解する。	練習問題を解く場面で、どんどん進んでいく児童へ対応する。
		栄小	5	算数	百分率とグラフ	比較量は基準量と割合から求めることを理解する。	つまづいている児童にアドバイスを与える。
28	金	鶴舞小	3	算数	重さのはかり方と表し方	重さの単位、はかり方などの習熟を図る。	T Tで発展コースに対応する。
31	月	栄小	2	音楽	みんなであわせて	輪唱の仕方を知り、二つの旋律の重なる響きの美しさやおもしろさを楽しむ。	歌い方や輪唱の仕方について支援する。
		鶴舞小	6	社会	日本とつながりの深い国々	つながりの深い国から一カ国選んで、様々な方法で調べる。	児童の質問に答えたり、映像資料を提示したりして、児童の問題解決を支援する。
2 / 1	火	鶴舞小	2	国語	ことば遊び大会	ことば遊びをして、これからの活動への意欲を高める。	いくつかクイズを出す。
2	水	鶴舞小	3	国語	標識と言葉	標識に興味をもち、単元の学習の流れをつかむ。	児童に興味・関心をもたせるために標識クイズを出す。
3	木	鶴舞小	4	算数	面積のはかり方と表し方	面積の求め方の習熟を図る。(コース別)	難易度の高い問題を用意し、理解が十分な児童に対応する。
		栄小	5	理科	もののとけかた	ホウ酸のとけ方について調べ、食塩のとけ方とくらべ考えることができる。	ホウ酸以外のもののとけ方を提示する。
4	金	十和田小	5	算数	百分率とグラフ	学習内容の習熟をはかる。	習熟度別コース学習において上位グループを担当し、問題を出す。
14	月	栄小	2	国語	ことばあそび大会をしよう	言葉遊びの仕方を相手によくわかるように、順序を考えながら話すことができる。	遊び方の説明を聞いて、わかりやすいかどうかアドバイスをする。
		栄小	5	理科	もののとけかた	ホウ酸は温度によってとける量が決まっていることを理解する。	実験の結果を補強するような演示をする。
15	火	東雲中	2	英語	Unit 7	比較級・最上級を使った英問に正しく答えることができる。	センターのALTとの一対一の対話で理解力を評価する。会話のアドバイスをする。
		栄小	5	理科	もののとけかた	ものがとける量はとけるものや水の温度によって違うこと、また、この性質を利用してとけているものをとり出すことができることを理解する。	温度差で析出する食塩やホウ酸の量を理解しやすいように説明する。

16	水	東雲中	2	英語	Unit 7	比較級・最上級を使った英問などに正しく答えることができる。	センターのALTとの一対一の対話で理解力を評価する。会話のアドバイスをする。
17	木	東雲中	2	英語	Unit 7	比較級・最上級を使った英問などに正しく答えることができる。	センターのALTとの一対一の対話で理解力を評価する。会話のアドバイスをする。
		東雲中	2	英語	Unit 7	比較級・最上級を使った英問などに正しく答えることができる。	センターのALTとの一対一の対話で理解力を評価する。会話のアドバイスをする。
18	金	東雲中	2	英語	Unit 7	比較級・最上級を使った英問などに正しく答えることができる。	センターのALTとの1対1の対話で理解力を評価する。会話のアドバイスをする。
		東雲中	2	英語	Unit 7	比較級・最上級を使った英問などに正しく答えることができる。	センターのALTとの1対1の対話で理解力を評価する。会話のアドバイスをする。
		東大曲小	3	理科	つくって遊ぼう	じしゃくの性質を生かした作品を作ることができる。 じしゃくの性質を生かしたおもちゃを作り、遊び方を紹介しあう。	作品に対する感想やアドバイスをし、他の作品例などがあれば紹介する。
		湯沢南中	2	数学	円周角	円周角の定理を発見し、証明する。	証明する段階でヒントを与える。
21	月	東雲中	1	技術・家庭	「健康的に食べる」	様々な食品を組み合わせながら、バランスのよい献立を考えることができる。	献立のたて方と中学生に必要な栄養についてアドバイスをする。
22	火	東雲中	1	技術・家庭	「健康的に食べる」	様々な食品を組み合わせながら、バランスのよい献立を考えることができる。	献立のたて方と中学生に必要な栄養についてアドバイスをする。
23	水	東雲中	1	技術・家庭	「健康的に食べる」	様々な食品を組み合わせながら、バランスのよい献立を考えることができる。	献立のたて方と中学生に必要な栄養についてアドバイスをする。
		鶴舞小	5	算数	円をくわしく調べよう	学習した内容の習熟と発展を図る。	発展コースを担当し、理解が十分な児童へ対応する。
24	木	栄小	5	国語	詩を味わおう	三好達治の「雪」をイメージをふくらませながら読み味わう。	授業中に児童の読みを深められるような視点を与える。
28	月	栄小	1	算数	「はるよこい」	絵を見ているいろいろな問題を作ることができる。	児童が作った問題文と式・答えを見る。
		東大曲小	1	生活	もうすぐ2年生	1年間を振り返り、自分の成長に気付くことができる。 入学してからのことを振り返って、思い出に残ったことを発表したり、作品に表したりする。	1年間の思い出やできるようになったことを、質問などをし、賞賛や激励の言葉をかける。
		東雲中	1	社会	近世の日本	江戸時代末期（天保年間）の社会の様子を資料から考える。	能代における天保のうしろこわしについて紹介し、解説する。
3 / 4	金	鶴舞小	6	算数	算数卒業旅行（まとめ）	小学校の学習内容の習熟と関心・意欲の高揚を図る。	いくつかの問題（コース）を担当し、学習を支援する。
9	水	男鹿南中	1年2年	音楽	1・2年合同合唱練習	卒業式での合唱が感動的なものとなるよう1・2年で合同練習する。	パート練習および全体の合唱を聴いて指導助言をする。
		男鹿南中	2	理科	1年間のまとめ	自分でテーマを決め、進級論文を作成する。	各自が考えた実験方法や実験材料についてアドバイスをする。
10	木	男鹿南中	2	理科	1年間のまとめ	自分でテーマを決め、進級論文を作成する。	各自が考えた実験方法や実験材料についてアドバイスをする。

教科指導や学級経営、生徒指導上の諸問題などの相談

日	曜	学校名	分野	相談内容
5 / 6	火	東大曲小	TV授業	TV授業についての協議会
5 / 11	火	鶴舞小	教科指導	研究授業後の指導助言

6 / 4	金	東大曲小	教科指導	6月16日の国語科（2年・6年）指導案検討会に向けての、授業構想の相談
16	水	東大曲小	教科指導	6月30日の国語科（2年・6年）指導主事計画訪問に向けての、指導案検討会（職員研修）での助言
23	水	十和田小	講話	第22回十和田中学校区研修会の全体会の中で「小・中の学力のつながりを確かなものに」という題で20分くらい話す。研修会のねらいは、「十和田中学校区の児童生徒の実態に迫ることにより、健全な児童生徒の育成のための小中連携のあり方について研修を深める」としており、十和田地区内の約110名の教職員が集まる研修会である。
6 / 30	水	栄小	道徳	道徳指導案検討会、東大曲小と教育センターと多地点装置で結び行う。
7 / 1	木	栄小	理科	5年生の理科「魚や人のたんじょう」の単元の全体計画の立て方についてアドバイスを。具体的には、本単元の課題選択学習に取り組んだ指導案の好例などを紹介する。できれば7日の相談以降の授業を支援し、単元を通して、授業の流し方や教材・教具のあり方、実験の仕方についても教示する。
		鶴舞小	生活	学校周辺の探検活動の際のめあての持たせ方や指導のポイントについて助言する。
		東大曲小	特別活動	学級活動の授業について助言する。
14	水	東大曲小	図画工作	下学年や特学児童が取り組める楽しい題材やおもしろい材料、技法等を提示する。
8 / 9	月	栄小	情報	情報モラルを取り上げた授業についての研修を受けたい。情報モラル教育の重要性、発達段階に応じた指導の在り方、指導内容、指導方法、指導例などを紹介する。
18	水	男鹿南中	教科指導	9月の指導主事訪問の英語の授業について助言する。
9 / 16	木	男鹿南中	英語	9/27、28の指導主事訪問の授業について助言する。
29	木	東大曲小	特別支援教育	「特別支援教育」のあり方、LDやADHDといわれる児童への対応の仕方、今後のコーディネーターシステム等について全体で勉強したい。これに類する講座・講話・研修会等の収録ビデオなどがあれば、それを提示する。また、直接の指導をする。
11 / 1	月	鶴舞小	教科指導	図画工作科2年「お話の絵を描こう」の教材研究およびTV授業の打ち合わせをする。
4	木	鶴舞小	教科指導	国語科（1年）の教材研究（計画訪問に向けて）
		東雲中	教職研修	つくば研修のビデオを提示する。
16	火	鶴舞小	教科指導	国語科（1年）の授業参観と指導助言をする。
18	木	東雲中	教科指導	フロンティア公開研究会の理科の授業研究会に参加する。
29	木	東大曲小	教科指導	音楽科 頭声発声やきれいな声で歌うための実技指導をする。 より楽しく歌うための手立てや、歌に接するときの基本的な考え方等を指導する。

1 / 13	木	男 鹿 南 中	教 育 課 程	2 学期制について メリットとデメリット～学力向上面，時数関係，生徒のゆとり，行事関係，長期休業中の 在り方等について 先進校（実践校）の情報 将来的な見通し 以上について説明する。
18	火	鶴 舞 小	国 語	国語科「わたしのたからもの」の指導計画についての助言をする。

学校間における交流・共同学習
一覧は，5 ページ～ 6 ページを参照。

2 インターネット授業推進委員名簿

所 属	職 名	氏 名	備考
秋田県教育庁義務教育課	課長	高橋 秀一	委員
秋田県総合教育センター教科研修班	主幹兼班長	佐藤 洋子	委員長
秋田県教育庁義務教育課指導班	副主幹兼班長	青谷 晃吉	委員
秋田県教育庁義務教育課指導班	副主幹	鶴田 悦子	委員
鹿角市立十和田小学校	教諭	成田 勇信	委員
本荘市立鶴舞小学校	教諭	菊地 新吾	委員
大曲市立東大曲小学校	教諭	今野 天美	委員
横手市立栄小学校	教諭	神原 欣也	委員
能代市立東雲中学校	教諭	笠原 浩一	委員
男鹿市立男鹿南中学校	教諭	小玉 和彦	委員
湯沢市立湯沢南中学校	教諭	阿部 広美	委員
秋田リコー株式会社M A 営業部市町村・文教グループ	グループリーダー	初山 靖秀	委員
秋田リコー株式会社画像システム事業推進室ネットワーク販売グループ	グループリーダー	柿崎 浩平	委員
秋田リコー株式会社M A 営業部官庁グループ	係長	嶋宮 仁美	委員
プリンステクノロジー株式会社仙台支店	支店長	高山 伸悦	委員
秋田県教育庁義務教育課指導班	主任指導主事	高橋 孝志	事務局
秋田県教育庁義務教育課指導班	指導主事	佐々木孝雄	事務局
秋田県総合教育センター総務班	主事	中村 研雄	事務局
秋田県総合教育センター教職研修班	指導主事	岸野 直彦	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	指導主事	田仲 誠祐	事務局
秋田県総合教育センター情報教育研修班	指導主事	成田 実	事務局
秋田県総合教育センター児童生徒支援班	指導主事	米屋 孝明	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	指導主事	稲荷 一清	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	指導主事	長浜 中	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	研修員	三浦 雅一	事務局
秋田県総合教育センター教科研修班	研修員	島田 純二	事務局

(学校は旧市町村名で示しています。)